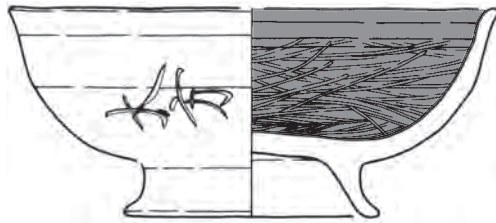


# 平成 18 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書



2009

水戸市教育委員会

# 平成 18 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書

2009

水戸市教育委員会







軍民坂遺跡（第2地点）調査状況



軍民坂遺跡（第2地点）第1号住居跡炉址





軍民坂遺跡（第2地点）第1号住居跡炉体土器



軍民坂遺跡（第2地点）出土小形石棒



渡里町遺跡（第3地点）出土「太方」銘ヘラ書き土器





## ごあいさつ

歴史的文化遺産のひとつである埋蔵文化財は、工事や開発などにより一度破壊されると二度と原状に復すことができないため、私たちが大切に保存しながら後世へ伝えていかなければならない貴重な財産です。近年の大規模開発等による都市化の様相が強まる中で、埋蔵文化財の現状保存は非常に困難になりつつありますが、本市においてもその意義や重要性を踏まえ、文化財保護法及び関係法令に基づいた保護保存に努めているところです。

本書は、平成 18 年度に水戸市内において実施した国・県費補助による試掘・確認調査の報告書です。

平成 18 年度に実施した試掘・確認調査は実に 71 件に及び、個人住宅建築に伴う記録保存を目的とした本発掘調査は 3 件実施しました。県内でもトップクラスの件数といえます。本書には、これらの調査によって得られた、縄文時代から江戸時代に及ぶ数々の興味深い成果を盛り込みました。

軍民坂遺跡では、県内でも例の少ない、土器を埋設した石組み炉を伴う縄文時代中期後葉の竪穴住居跡が確認され、多数の縄文土器・石器が出土しました。また、同調査では県内では初めての報告例となる縄文時代中期の小形石棒も出土しました。

堀遺跡では奈良時代と平安時代の掘立柱建物跡が 2 棟調査され、うち 1 棟は四面に廂と孫廂を持つ可能性がある珍しい建物であることが確認されました。

有賀台遺跡では古代の道路状遺構が確認され、東海道駅路から分岐した道路の存在が明らかとなりました。

渡里町遺跡では平安時代中期の竪穴住居跡が確認され、「太方」とへら書きされた土師器の足高高台椀が出土しました。集落における文字の普及のあり方を示す貴重な資料と言えます。

釜神町遺跡では江戸時代の遺構とともに多数の陶磁器類が出土し、古絵図にみられる武家屋敷が存在したことが考古資料からも裏付けられました。

それぞれの調査面積・期間はささやかなものですが、その成果を一つ一つ積み重ねることにより、水戸の歴史をより豊かなものにし、「歴史都市・水戸」にふさわしい、郷土の歴史的景観を活かしたまちづくりの一助となることを願ってやみません。

最後になりましたが、調査に当たり多大な御理解と御協力をいただきました事業者・土地所有者の皆様、並びに種々の御指導・御助言をいただきました文化庁記念物課、茨城県教育庁文化課、水戸市史跡等整備検討専門委員の皆様方に心から感謝を申し上げます。そしてここに刊行する本書が、かけがえのない郷土の文化財に対する意識の高揚と、学術研究等の資料として、広く御活用いただけることを期待し、ごあいさつといたします。

平成 21 年 3 月

水戸市教育委員会  
教育長 鯨岡 武



# 例 言

1. 本書は平成 18 年度に国・県費の補助を受けて水戸市教育委員会が直営事業として実施した水戸市内に所在する遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査対象となった遺跡は、下記のとおりである。  
赤塚遺跡・坏遺跡・愛宕山古墳群・有賀台遺跡・大串遺跡・小山遺跡・潤池遺跡・加倉井原遺跡・笠原水道・釜神町遺跡・釜久保遺跡・河和田城跡・北原古墳群・北屋敷遺跡・経塚遺跡・杏掛遺跡・小林遺跡・金剛寺遺跡・三本松古墳群・下荒句遺跡・下ノ内遺跡・新地遺跡・仙光内遺跡・台渡里遺跡・長者山城跡・寺内遺跡・遠台遺跡・仲坪遺跡・西原古墳群・終巷遺跡・東割遺跡・福沢古墳群・舞台遺跡・堀遺跡・南台遺跡・南仲坪遺跡・向原遺跡・谷田古墳群・米沢町遺跡・若林遺跡・渡里町遺跡・軍民坂遺跡
3. 上記の遺跡のほかに、国指定史跡「吉田古墳」、茨城県指定史跡「台渡里廃寺跡(長者山地区)」および七面製陶所跡、日新塾跡において、保存目的の確認調査を行ったが、吉田古墳については、『吉田古墳Ⅱ 一史跡整備計画に伴う吉田古墳群第 1 号墳の第 3 次発掘調査報告書』に調査成果を掲載している。台渡里廃寺跡(長者山地区)、七面製陶所跡、日新塾跡については、平成 19 年度以降も継続して確認調査を行うため、これらの調査成果については、平成 20 年度以降に刊行を予定している正式報告書において公表する。
4. 調査にあたった組織は以下のとおりである。

(平成 18 年度)

調査担当者	川口武彦	水戸市教育委員会生涯学習課文化財係文化財主事
	関口慶久	水戸市教育委員会生涯学習課文化財係文化財主事
	新垣清貴	水戸市教育委員会生涯学習課文化財係埋蔵文化財専門員
事務局	鯨岡 武	水戸市教育委員会教育長
	小澤邦夫	水戸市教育委員会教育次長
	森田秀人	水戸市教育委員会生涯学習課長
	藤枝 孝	水戸市教育委員会生涯学習課副参事
	成田行弘	水戸市教育委員会生涯学習課長補佐
	宮崎賢司	水戸市教育委員会生涯学習課文化財係長
	黒須雅継	水戸市教育委員会生涯学習課文化財係主事

(平成 19 年度)

整理担当者	川口武彦	水戸市教育委員会文化振興課文化振興係文化財主事
	関口慶久	水戸市教育委員会文化振興課文化振興係文化財主事
	新垣清貴	水戸市教育委員会文化振興課文化振興係埋蔵文化財専門員
	渥美賢吾	水戸市教育委員会文化振興課文化振興係埋蔵文化財専門員
	木本挙周	水戸市教育委員会文化振興課文化振興係埋蔵文化財専門員
事務局	鯨岡 武	水戸市教育委員会教育長
	小澤邦夫	水戸市教育委員会教育次長
	仲田 立	水戸市教育委員会文化振興課長
	藤枝 孝	水戸市教育委員会文化振興課副参事
	中里誠志郎	水戸市教育委員会文化振興課長補佐
	宮崎賢司	水戸市教育委員会文化振興課文化財係長
	緑川義規	水戸市教育委員会文化振興課文化財係主事

(平成 20 年度)

整理担当者	川口武彦	水戸市教育委員会文化振興課大串貝塚ふれあい公園文化財主事
	色川順子	水戸市教育委員会文化振興課大串貝塚ふれあい公園埋蔵文化財専門員
事務局	鯨岡 武	水戸市教育委員会教育長
	内田秀泰	水戸市教育委員会教育次長
	仲田 立	水戸市教育委員会文化振興課長
	野口邦男	水戸市教育委員会文化振興課副参事
	中里誠志郎	水戸市教育委員会文化振興課長補佐



宮崎賢司 水戸市教育委員会文化振興課文化財係兼世界遺産推進係長  
萩谷慎一 水戸市教育委員会文化振興課文化財係兼世界遺産推進係主査  
緑川義規 水戸市教育委員会文化振興課文化財係兼世界遺産推進係主事  
関口慶久 水戸市教育委員会文化振興課文化財係兼世界遺産推進係文化財主事  
渥美賢吾 水戸市教育委員会文化振興課文化財係兼世界遺産推進係文化財主事  
金子千秋 水戸市教育委員会文化振興課文化財係兼世界遺産推進係埋蔵文化財専門員  
五上義隆 水戸市教育委員会文化振興課大串貝塚ふれあい公園所長  
飛田邦夫 水戸市教育委員会文化振興課大串貝塚ふれあい公園嘱託員  
山戸祐子 水戸市教育委員会文化振興課大串貝塚ふれあい公園嘱託員  
大津郁子 水戸市教育委員会文化振興課大串貝塚ふれあい公園埋蔵文化財専門員

5. 発掘調査と整理作業には以下の者が参加した。

発掘調査参加者

小野寿美子, 中尾麻由実(筑波大学大学院人文社会科学研究科大学院生), 石川 勉, 石崎洋子, 榎澤由紀江, 海老原四郎, 小野瀬智工, 小山司農夫, 加藤利男, 河原井俊吉郎, 木村清一, 久保木きよ子, 栗原芳子, 鈴木潤一, 高柳悦子, 飛田とし子, 中山忠雄, 花田繁二郎, 廣水一真, 福原雅美, 仲嶋豊治, 皆川明子, 皆川幸子, 渡辺恵子

整理作業参加者

安島町子, 飯田貴代子, 小澤弥代, 柏千枝子, 杉崎明美, 鈴木加代子, 須藤裕美, 田上雪枝, 橋本祥子, 人見よね子, 平根真由美, 広瀬文子, 深澤貞子, 三浦悦子

6. 本書の執筆は各調査担当者が分担して行ない、全体の編集には川口・色川があたった。出土遺物については図化および観察表作成、解説文執筆を色川が担当し、石器および奈良・平安時代の遺物の解説文執筆については川口が補佐した。執筆分担はそれぞれ文末に明記した。

7. 本書に関わる資料は、水戸市教育委員会が保管している。

8. 遺構および遺物の写真撮影は川口が行った。

9. 発掘調査から本書の刊行に至るまで、下記の方々・諸機関より御指導・御教示・御協力を賜った。記して深く謝意を表す次第です(五十音順・敬称略)。

【個人】 稲田健一, 今尾文昭, 大塚初重, 大橋泰夫, 大森隆志, 岡本東三, 櫻村宣行, 川井正一, 川崎純徳, 川尻秋生, 瓦吹 堅, 木本雅康, 黒澤彰哉, 小杉山大輔, 小松崎博一, 後藤道雄, 斎藤弘道, 坂井秀弥, 佐々木義則, 鈴木素行, 須田亜紀, 清野孝之, 曾根俊雄, 長谷川 聡, 日高 慎, 松本太郎, 山路直充, 山中敏史, 吉村武彦

【機関】 茨城県教育庁文化課, 文化庁文化財部記念物課, 明治大学古代学研究所

## 凡 例

1. 本書で使用したトレンチ配置図および遺構検出状況図の方位は、全て磁北であるが、個別遺跡位置図については、第17図および第44図を除き、左上45°が磁北である。
2. 遺構平面図・断面図の縮尺は統一していない。縮小率は各図面に示したスケールを参照願いたい。
3. 遺跡の位置図のうち、第1図は(茨城県教育委員会編 2001 『茨城県遺跡地図』)をスキャナーを用いて読み込んだ画像をデジタルトレースし、1:60,000の大きさに縮小したものである。個別の遺跡位置図は、(井上・蓼沼・仁平・根本 1999 『水戸市埋蔵文化財分布調査報告書 平成10年度版』水戸市教育委員会)および(細谷・佐藤・川井・根本・市毛 1994 『内原町の遺跡―内原町遺跡分布調査報告書―』内原町史編さん委員会)の地図をスキャナーで読み込んだ画像に加筆した。
4. 遺構断面図及び土層堆積図の標高は、その都度図中に示している。
5. 本書中の色調に関する表現は新版標準土色帖(農林水産技術会議事務局監修 2000年版)に従った。
6. 引用・参考文献は、一括して本書の最後に提示した。
7. 表紙に使用した土器の実測図は、渡里町遺跡(第3地点)出土のヘラ書き土器である。実測及び浄書は色川が行った。

# 目 次

あいさつ

例言・凡例・目次

第1章 平成18年度の発掘調査と概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

第2章 開発に伴う試掘調査

2-1 米沢町遺跡（第5地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4  
2-2 米沢町遺跡（第6地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5  
2-3 米沢町遺跡（第7地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5  
2-4 釜神町遺跡（第2地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6  
2-5 堀遺跡（第6地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8  
2-6 堀遺跡（第9地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9  
2-7 堀遺跡（第10地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11  
2-8 有賀台遺跡（第1地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12  
2-9 下ノ内遺跡（第1地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14  
2-10 西原古墳群（第11地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15  
2-11 河和田城跡（第3地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16  
2-12 坏遺跡（第4地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18  
2-13 坏遺跡（第6地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19  
2-14 若林遺跡（第1地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20  
2-15 渡里町遺跡（第3地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21  
2-16 北屋敷遺跡（第2地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22  
2-17 台渡里遺跡（第31次調査）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23  
2-18 台渡里遺跡（第32次調査）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23  
2-19 金剛寺遺跡（第7地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25  
2-20 経塚遺跡（第3地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25  
2-21 柊巷遺跡（第2地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27  
2-22 釜久保遺跡（第3地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28  
2-23 試掘調査の出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29

第3章 開発に伴う確認調査

3-1 軍民坂遺跡（第2地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37

第4章 個人住宅建築に伴う本発掘調査

4-1 米沢町遺跡（第6地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52  
4-2 堀遺跡（第6地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54

引用・参考文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・67

# 図版目次

第1図	調査対象となった遺跡の位置	3
第2図	米沢町遺跡（第5地点）の位置	4
第3図	米沢町遺跡（第5地点）のトレンチ配置	4
第4図	米沢町遺跡（第6地点）の位置	5
第5図	米沢町遺跡（第6地点）のトレンチ配置	5
第6図	米沢町遺跡（第7地点）の位置	6
第7図	米沢町遺跡（第7地点）のトレンチ配置	6
第8図	釜神町遺跡（第2地点）の位置	6
第9図	釜神町遺跡（第2地点）のトレンチ配置	7
第10図	釜神町遺跡（第2地点）トレンチ1・2遺構配置	8
第11図	堀遺跡（第6地点）の位置	8
第12図	堀遺跡（第6地点）のトレンチ配置	9
第13図	堀遺跡（第9地点）の位置	9
第14図	堀遺跡（第9地点）のトレンチ配置	10
第15図	堀遺跡（第10地点）の位置	11
第16図	堀遺跡（第10地点）のトレンチ配置	11
第17図	有賀台遺跡（第1地点）の位置	12
第18図	有賀台遺跡（第1地点）のトレンチ配置	12
第19図	有賀台遺跡（第1地点）の道路状遺構	13
第20図	下ノ内遺跡（第1地点）の位置	14
第21図	下ノ内遺跡（第1地点）のトレンチ配置	14
第22図	西原古墳群（第11地点）の位置	15
第23図	西原古墳群（第11地点）のトレンチ配置	15
第24図	河和田城跡（第3地点）の位置	16
第25図	河和田城跡（第3地点）のトレンチ配置	16
第26図	河和田城跡（第3地点）のトレンチ1～4遺構検出状況	17
第27図	坏遺跡（第4・6地点）の位置	18
第28図	坏遺跡（第4地点）のトレンチ配置	18
第29図	坏遺跡（第6地点）のトレンチ配置	19
第30図	若林遺跡（第1地点）の位置	20
第31図	若林遺跡（第1地点）のトレンチ配置	20
第32図	渡里町遺跡（第3地点）の位置	21
第33図	渡里町遺跡（第3地点）のトレンチ配置	21
第34図	渡里町遺跡（第3地点）トレンチ2遺構検出状況	21
第35図	北屋敷遺跡（第2地点）の位置	22
第36図	北屋敷遺跡（第2地点）のトレンチ配置	22
第37図	台渡里遺跡（第31次・32次）の位置	23
第38図	台渡里遺跡（第31次）のトレンチ配置	23
第39図	台渡里遺跡（第32次）のトレンチ配置	24
第40図	金剛寺遺跡（第7地点）の位置	25
第41図	金剛寺遺跡（第7地点）のトレンチ配置	25
第42図	経塚遺跡（第3地点）の位置	25
第43図	経塚遺跡（第3地点）のトレンチ配置	26
第44図	柗巷遺跡（第2地点）の位置	27
第45図	柗巷遺跡（第2地点）のトレンチ配置	27
第46図	釜久保遺跡（第3地点）の位置	28

第 47 図	釜久保遺跡（第 3 地点）のトレンチ配置	28
第 48 図	試掘調査の出土遺物（1）	30
第 49 図	試掘調査の出土遺物（2）	32
第 50 図	試掘調査の出土遺物（3）	33
第 51 図	軍民坂遺跡（第 2 地点）の位置	37
第 52 図	軍民坂遺跡（第 2 地点）のトレンチ配置	37
第 53 図	軍民坂遺跡（第 2 地点）の遺構配置と第 1 号住居跡炉址	38
第 54 図	第 1 号住居跡出土遺物（1）	40
第 55 図	第 1 号住居跡出土遺物（2）	41
第 56 図	第 1 号住居跡出土遺物（3）	42
第 57 図	第 2 号住居跡出土遺物	43
第 58 図	第 3 号住居跡出土遺物	44
第 59 図	遺構外出土遺物（1）	45
第 60 図	遺構外出土遺物（2）	46
第 61 図	遺構外出土遺物（3）	47
第 62 図	軍民坂遺跡（第 2 地点）出土石器	48
第 63 図	米沢町遺跡（第 6 地点）の位置	52
第 64 図	米沢町遺跡（第 6 地点）の本調査範囲と遺構配置	52
第 65 図	米沢町遺跡（第 6 地点）の遺構配置とセクション	53
第 66 図	堀遺跡（第 6 地点）の位置	54
第 67 図	堀遺跡（第 6 地点）の本調査範囲	54
第 68 図	堀遺跡（第 6 地点）の遺構配置	55
第 69 図	掘立柱建物 SBO1 柱穴セクション①	56
第 70 図	掘立柱建物 SBO1 柱穴セクション②	57
第 71 図	掘立柱建物 SBO1 柱穴エレベーション	58
第 72 図	掘立柱建物 SBO2 柱穴セクション	59
第 73 図	掘立柱建物 SBO2 柱穴エレベーション	60
第 74 図	掘立柱建物 SBO1 柱間概念図	61
第 75 図	掘立柱建物 SBO2 柱間概念図	61
第 76 図	土坑・ピット群セクション	63
第 77 図	堀遺跡（第 6 地点）出土遺物	64
第 78 図	ひたちなか市武田原前遺跡第 2 号掘立柱建物跡	65
第 79 図	掘立柱建物 SBO1 の復原案	66

## 表目次

第 1 表	開発に伴う試掘・確認調査一覧	1
第 2 表	個人住宅建築に伴う本発掘調査一覧	2
第 3 表	試掘調査出土遺物観察表	34
第 4 表	軍民坂遺跡（第 2 地点）出土土器観察表	49
第 5 表	軍民坂遺跡（第 2 地点）出土土製品観察表	51
第 6 表	軍民坂遺跡（第 2 地点）出土石器観察表	51
第 7 表	掘立柱建物 SBO1 柱穴一覧	61
第 8 表	掘立柱建物 SBO2 柱穴一覧	61
第 9 表	土坑・ピット一覧	61
第 10 表	堀遺跡（第 6 地点）出土遺物観察表	65



## 第1章 平成18年度の発掘調査と概要

平成18年度の水戸市内遺跡発掘調査は、43遺跡71地点がその対象となった。その内訳は、開発に係わる試掘・確認調査71件であった。

開発に係わる試掘調査では、15遺跡18地点で遺構を検出し、21遺跡31地点で遺物が出土した(第1表)。これらのうち、68件については、事業計画と試掘・確認調査によって得られた成果を比較したところ、工事を実施した場合の遺跡への影響が軽微であると判断されたため、工事立会あるいは、慎重工事の扱いとなり、本調査の実施が必要であると判断されたものは3件であった。

本調査の対象となった3件のうち、長者山城跡(第2地点)については、検出された遺構・遺物が質的にも量的にも充実しており、1冊の報告書として刊行すべき内容であることから、本書では第2表に調査の概要のみを記し、詳細については別途、刊行する報告書に収録する予定である。米沢町遺跡(第6地点)および堀遺跡(第6地点)の調査成果については本書に収録した。

第1表 開発に伴う試掘・確認調査一覧

No.	遺跡名	調査地	調査期間	調査原因	調査面積(m <sup>2</sup> )	調査担当	遺構	遺物
1	赤塚遺跡(第2地点)	河和田3丁目2339-5, 6, 8, 10, 2337-31番地	7月19日	集合住宅建築	28.2	関口慶久	—	—
2	赤塚遺跡(第3地点)	河和田3丁目2339-1番地	8月24日	個人住宅建築	6.5	関口慶久	—	—
3	環遺跡(第4地点)	河和田町3丁目2412-5, 2413-1番地の一部	1次 5月15日~16日 2次 7月12日	共同住宅建築	240.0	新垣清貴	○	○
4	環遺跡(第5地点)	河和田3丁目2381-1, 3, 5, 6, 8, 10番地	7月3日	宅地造成工事	24.0	関口慶久, 新垣清貴	—	—
5	環遺跡(第6地点)	河和田3丁目2370-1	9月29日	共同住宅建築	42.0	新垣清貴	—	△
6	愛宕山古墳群	愛宕町字山下2137-4番地	2月20日	個人住宅建築	21.25	関口慶久	—	—
7	有賀台遺跡	有賀町1494-1番地	1次 6月29日 2次 8月28日~29日	携帯電話基地局建築	220.75	新垣清貴	○	○
8	大串遺跡(第7地点)	大串町584-1番地外	1次 2月5日~6日 2次 2月26日~27日, 3月8日	介護老人保健福祉施設建築	308.7	関口慶久	○	○
9	小山遺跡	大場町字別所350-3番地	5月25日	携帯電話基地局建築	11.0	新垣清貴	—	—
10	溜池遺跡	下野町字溜池260-2	9月19日	個人住宅建築	4.0	新垣清貴	—	—
11	加倉井原遺跡(第1地点)	加倉井町1253-10番地	10月26日	自動車板金塗装工場建築	6.0	新垣清貴	—	—
12	加倉井原遺跡(第2地点)	加倉井町1253-9番地	10月26日	個人住宅建築	2.0	新垣清貴	—	—
13	笠原水道(第21地点)	千波町1564, 1565番地	6月27日	河川排水管理設工事	26.25	川口武彦, 新垣清貴	—	△
14	釜神町遺跡(第2地点)	天王町1723-3番地ほか12筆	5月17日~23日	宅地造成工事	72.0	関口慶久, 新垣清貴	○	○
15	釜神町遺跡(第3地点)	天王町864-5番地	10月11日	個人住宅建築	15.0	関口慶久	—	△
16	釜久保遺跡(第2地点)	双葉台1丁目12-1番地	10月5日	個人住宅建築	2.0	関口慶久	—	—
17	釜久保遺跡(第3地点)	大塚町1612-17	10月18日	個人住宅建築	5.0	関口慶久	—	△
18	河和田城跡(第3地点)	河和田町字中道546-2番地	10月4日・10日	事務所兼個人住宅建築	50.24	関口慶久	○	—
19	北原古墳群(第1地点)	大塚町1774-64	5月8日	個人住宅建築	9.0	関口慶久, 新垣清貴	—	—
20	北原古墳群(第2地点)	大塚町1774-21	5月8日	個人住宅建築	9.0	関口慶久, 新垣清貴	—	—
21	北原古墳群(第3地点)	中丸町614-6	9月22日	個人住宅建築	5.0	川口武彦	—	—
22	北屋敷遺跡(第2地点)	大串町字宿内734-5番地	11月15日	個人住宅建築	32.5	関口慶久	—	○
23	経塚遺跡(第3地点)	河和田町字街道端1109-6, 1109-7番地	3月7日	共同住宅建築	16.0	関口慶久	—	△
24	経塚遺跡(第4地点)	河和田町字街道端1109-1, 1109-3, 1110-1番地	3月7日	介護老人保健福祉施設建築	6.6	関口慶久	—	—
25	香掛遺跡	見川町字手負2575番地	3月6日	個人住宅建築	2.0	川口武彦, 新垣清貴	—	—
26	小林遺跡(第2地点)	小林町字経塚1390-2, 4番地	7月14日	個人住宅建築	4.0	関口慶久	—	—
27	金剛寺遺跡(第7地点)	開江町637-1番地	12月5日	倉庫建築	12.0	川口武彦	—	△
28	三本松古墳群(第2地点)	田島町259-5, 282-2	9月11日	個人住宅建築	4.0	新垣清貴	—	—
29	下荒匂遺跡(第2地点)	双葉台4丁目243-109番地外	12月5日	個人住宅建築	13.75	川口武彦	—	—
30	下ノ内遺跡	谷田町576番地	7月27日	個人住宅建築	4.0	関口慶久	—	○
31	新地遺跡	六反田町字新地963-2番地	1月19日	個人住宅建築	2.0	関口慶久	—	—

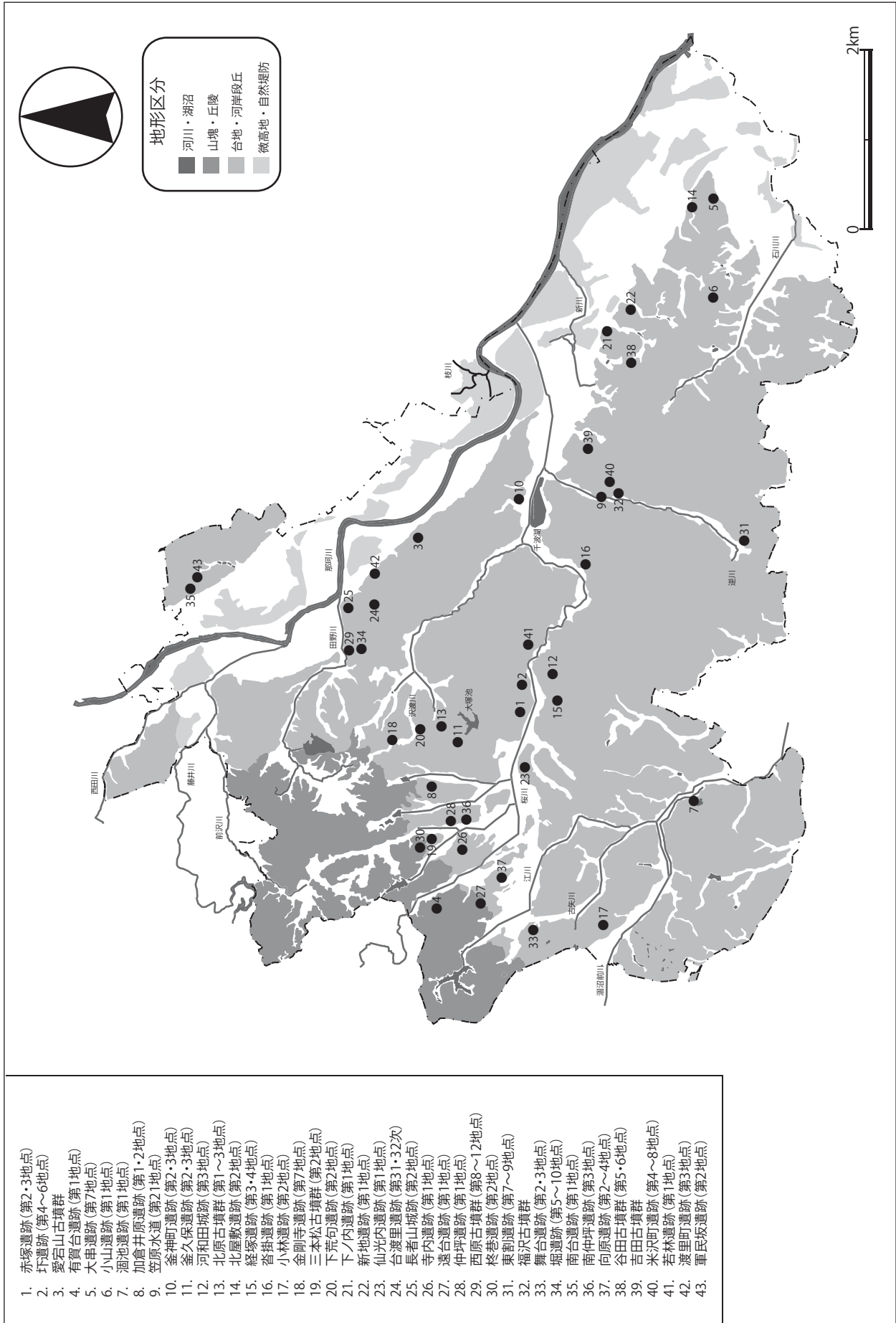


32	仙光内遺跡	飯島町字関場 456-2 番地	12月14日	個人住宅建築	3.8	関口慶久	—	—
33	台湾里遺跡 (第31次)	渡里町字南前原 2618	11月29日	個人住宅建築	12.6	川口武彦	○	○
34	台湾里遺跡 (第32次)	渡里町字狸久保 2771-1 番地外	1月31日	宅地造成工事	30.4	川口武彦	○	○
35	長者山城跡 (第2地点)	渡里町字アラヤ 3044-1 番地ほか	4月24日～25日	個人住宅建築	259.75	川口武彦, 新垣清貴	○	○
36	寺内遺跡	大足町字寺前 1191-2, 119-29 番地	7月31日	個人住宅建築	4.0	関口慶久	—	—
37	遠台遺跡	杉崎町 2202-2 番地	10月16日	個人住宅建築	6.5	川口武彦	—	—
38	仲坪遺跡	加倉井町筋違 662-2 番地	10月26日	動物病院建築	1.0	関口慶久	—	—
39	西原古墳群 (第10地点)	堀町 274-3 番地～279-4 番地	8月23日	道路改良工事	2.5	川口武彦	—	△
40	西原古墳群 (第11地点)	堀町 282 番地	8月23日	個人住宅建築	13.6	川口武彦	○	○
41	西原古墳群 (第12地点)	堀町字宮脇 47-1 番地外	12月4日	個人住宅建築	9.0	新垣清貴	—	—
42	西原古墳群 (第8地点)	堀町字宮脇 47-12 番地	4月26日	個人住宅建築	22.0	関口慶久	—	—
43	西原古墳群 (第9地点)	堀町字宮脇 47-13, 14 番地	5月1日	個人住宅建築	14.0	関口慶久, 新垣清貴	—	—
44	終巷遺跡 (第2地点)	田島町字終巷 401-1 番地	3月8日	個人住宅建築	4.1	関口慶久・新垣清貴	○	○
45	東割遺跡 (第7地点)	東野町字中山 109-8, 109-9 番地	6月26日	個人住宅建築	21.0	関口慶久	—	—
46	東割遺跡 (第8地点)	東野町字南割 102-15 番地	8月24日	個人住宅建築	6.0	関口慶久	—	—
47	東割遺跡 (第9地点)	東野町字南割 102-18 番地	2月20日	個人住宅建築	4.76	関口慶久	—	—
48	福沢古墳群	米沢町字上組 415-1 番地外	1月19日	個人住宅建築	8.0	関口慶久	—	—
49	舞台遺跡 (第2地点)	三湯町字中根 23-1 番地	7月11日	共同住宅建築	4.0	関口慶久	—	—
50	舞台遺跡 (第3地点)	三湯町 559-6, 7 番地	7月11日	個人住宅建築	4.0	関口慶久	—	—
51	堀遺跡 (第5地点)	堀町字馬場東 381-2, 382-2 番地	5月9日	個人住宅建築	9.0	関口慶久, 新垣清貴	—	△
52	堀遺跡 (第6地点)	堀町字馬場東 381-1 番地外	12月4日	個人住宅建築	20.0	新垣清貴	—	○
53	堀遺跡 (第7地点)	堀町 500-3, 500-4 番地	10月5日	宅地造成工事	2.9	川口武彦	—	—
54	堀遺跡 (第9地点)	渡里町 3314 番地外	2月26日～27日	宅地造成工事	238.0	川口武彦	○	○
55	堀遺跡 (第10地点)	渡里町字高野台 3217-1, 3217-6	3月26日	介護老人保健福祉施設建築	35.0	川口武彦	○	○
56	南台遺跡	上国井町字南台 4150 番地	2月15日	個人住宅建築	3.0	新垣清貴	○	○
57	南仲坪遺跡 (第3地点)	加倉井町 561-3	6月19日	個人住宅建築	6.8	関口慶久	—	△
58	向原遺跡 (第2地点)	中原町字東 508-1 番地ほか	4月24日	ドライブイン建築	69.36	関口慶久	—	—
59	向原遺跡 (第3地点)	中原町字向原 535-2 番地	8月14日	個人住宅建築	11.0	関口慶久, 新垣清貴	—	—
60	向原遺跡 (第4地点)	中原町字東 525-1 番地外 5 筆	8月17日	ドライブイン建築	25.0	関口慶久, 新垣清貴	—	—
61	谷田古墳群 (第5地点)	谷田町字栗毛山 827-6 番地	10月16日	個人住宅建築	6.0	関口慶久	—	—
62	谷田古墳群 (第6地点)	溝門町 578, 579-1, 580	11月1日	共同住宅建築	69.6	関口慶久	—	—
63	吉田古墳群	元吉田町字東組 696-10	3月27日	個人住宅建築	5.0	関口慶久	—	—
64	米沢町遺跡 (第4地点)	千波町字中道南 1502-5 番地	4月19日	個人住宅建築	24.75	関口慶久, 新垣清貴	—	△
65	米沢町遺跡 (第5地点)	千波町字中道南 1501-3, -4 番地	4月20日～21日	住宅展示場建築	17.2	関口慶久, 新垣清貴	○	○
66	米沢町遺跡 (第6地点)	千波町字中道南 1502-12 番地	4月20日～21日	個人住宅建築	12.0	関口慶久, 新垣清貴	○	○
67	米沢町遺跡 (第7地点)	千波町字中道南 1502-23 番地	6月22日	個人住宅建築	76.0	関口慶久, 新垣清貴	—	○
68	米沢町遺跡 (第8地点)	元吉田町字一本松 214-47, 48 番地	7月6日	個人住宅建築	9.0	関口慶久	—	—
69	若林遺跡	見和 3 丁目 1391-1 番地	10月12日～13日	宅地造成工事	208.0	川口武彦, 新垣清貴	○	○
70	渡里町遺跡 (第3地点)	渡里町字小山ノ上 2403-7 番地	11月9日	個人住宅建築	6.84	関口慶久	○	○
71	軍民坂遺跡 (第2地点)	上国井町字南台 3602-3 番地	1次 7月26日～27日 2次 9月6日～8日	個人住宅建築	140.87	新垣清貴	○	○

※遺物欄の○は遺構確認面や遺構覆土中からの出土遺物, △は表土・攪乱層中からの出土遺物を示す。

第2表 個人住宅建築に伴う本発掘調査一覧

No.	遺跡名	調査地	調査期間	調査面積 (㎡)	調査担当者	遺構	遺物
1	長者山城跡	渡里町字アラヤ 3044-1 番地ほか	5月25日～10月3日	1058.0	川口武彦, 関口慶久, 新垣清貴	掘立柱建物跡3 (奈良・平安), 地下式坑3 (中世), 井戸跡5 (奈良・平安～近世), 土坑多数 (中世～近世), ビット多数 (中世～近世)	縄文土器, 土師器, 須恵器, 瓦 (奈良・平安), 陶磁器, 内耳土器, カワラケ, 瓦質土器, 銅銭 (中世・近世), 分銅 (中世), 鉄製品 (釘), 礫
2	米沢町遺跡 (第6地点)	千波町字中道南 1502-12 番地	5月31日～6月1日	22.5	関口慶久	溝跡1 (中世), ビット1 (時期不明)	なし
3	堀遺跡 (第6地点)	堀町 381-1, 382-3	3月12日～3月20日	99.4	川口武彦	掘立柱建物跡2 (奈良・平安), 土坑3, ビット14 (時期不明)	土師器 (奈良・平安), 須恵器 (奈良・平安)



第1図 調査対象となった遺跡の位置



## 第2章 開発に伴う試掘調査

試掘調査は、周知の遺跡の範囲内において実施するが、範囲外であっても現地踏査の結果、遺物が採集される場合、地形等から遺跡の存在が予測される場合、開発面積が広大である場合には、周知の範囲外においても試掘調査を実施した。

試掘調査は、開発予定地内に数㎡の大きさのトレンチを設定し、重機（バックホウ）および人力により、関東ローム層上面まで掘削し、遺構・遺物の有無について確認した。遺構か否かの判断が困難な場合には、サブトレンチ等を設定し、精査により遺構の確認を行った。また、遺跡の時期や遺構の性格を判断するために、サブトレンチを設定し、部分的に掘り下げた場合もある。

遺物は表面採集遺物、トレンチ一括遺物、遺構確認面一括遺物、遺構出土遺物に区分し、取り上げを行った。

### 2-1 米沢町遺跡（第5地点）

所在地 水戸市千波町字中道南 1501-3, 1501-4 番地

開発面積 248.0 ㎡

調査期間 平成 18 年 4 月 20 日～4 月 21 日

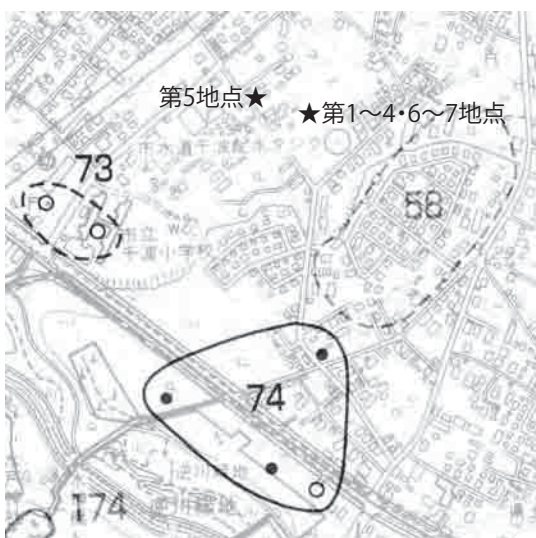
調査原因 住宅展示場建築

調査担当 関口慶久・新垣清貴

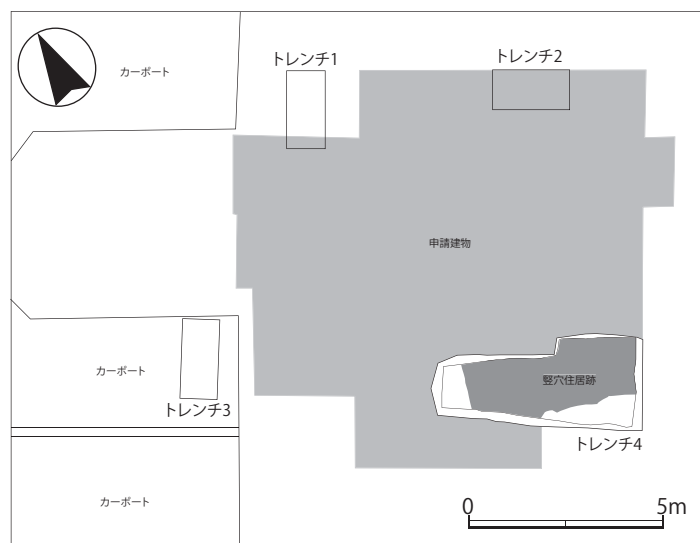
調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分およびカーポート予定部分に 2.0m × 1.0m の試掘溝を 3 箇所（トレンチ 1～3）、5.5m × 2.5m の L 字状の試掘溝 1 箇所（トレンチ 4）を設定し、重機により関東ローム層上面を目標に掘削を行った（第 3 図）。調査の結果、トレンチ 1～トレンチ 3 では遺構・遺物は確認されなかったが、トレンチ 4 において表土下 70cm で遺物包含層が確認され、竪穴状遺構が 1 基確認されるとともに土師質土器が数点出土した。トレンチ 1～トレンチ 3 における関東ローム層上面の確認深度はそれぞれ、110cm、80cm、110cm であり、最終的な調査面積は合計 17.20 ㎡であった。

トレンチ 4 から遺構が確認され、開発事業者と協議を重ねたが、30cm 以上の保護層の確保が困難であることから、記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。その後、5 月 22 日～5 月 25 日の期間に有限会社日考研茨城による本発掘調査が行われ、試掘調査で確認された竪穴状遺構は奈良・平安時代の竪穴住居跡であったことが確認された。また、他に土坑 2 基（奈良・平安 1, 近・現代 1）、柱穴状遺構 6 基（奈良・平安）が検出された。竪穴住居跡からは土師器・須恵器・鉄製刀子が出土した（小川・大淵・関口 2007）。

（関口）



第 2 図 米沢町遺跡（第 5 地点）の位置



第 3 図 米沢町遺跡（第 5 地点）のトレンチ配置

## 2-2 米沢町遺跡（第6地点）

所在地 水戸市千波町字中道南 1502-12 番地

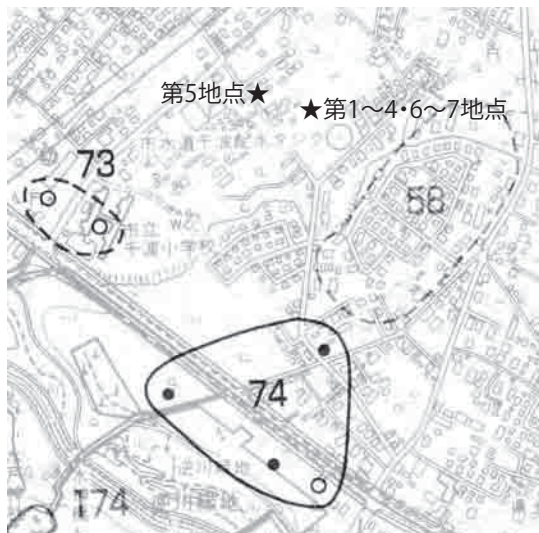
開発面積 208.86 m<sup>2</sup>

調査期間 平成 18 年 4 月 20 日～ 4 月 21 日

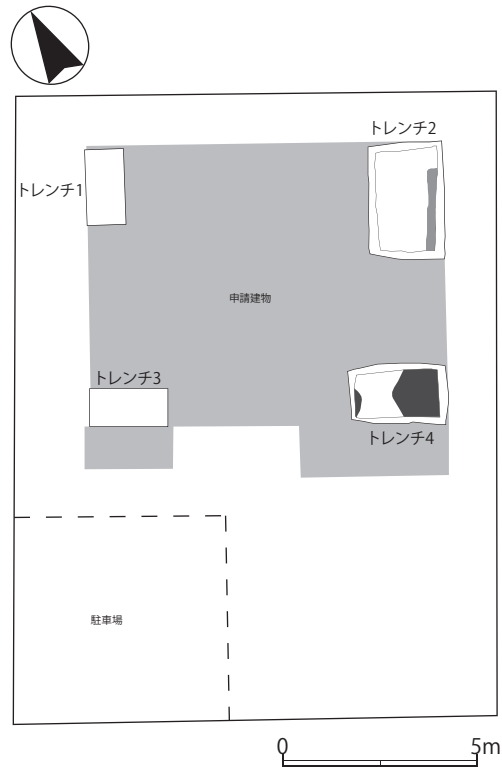
調査原因 個人住宅建築

調査担当 関口慶久・新垣清貴

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分にトレンチを4箇所設定し、重機により関東ローム層上面を目標に掘削を行った（第5図）。調査の結果、トレンチ1とトレンチ3では遺構・遺物は確認されなかったが、トレンチ2とトレンチ4において中世の溝状遺構および土坑とみられるプランが3箇所確認されるとともにトレンチ4からは土師器片が1点出土した。トレンチ1～トレンチ4における関東ローム層上面の確認深度はそれぞれ、110cm、110cm、110cm、130cmであり、最終的な調査面積は合計 12.0 m<sup>2</sup>であった。トレンチ2およびトレンチ4から遺構・遺物が確認され、開発事業者と協議を重ねた結果、30cm以上の保護層の確保が困難であると判断されたことから、記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。本発掘調査の詳細については、本書「4-1 米沢町遺跡（第6地点）」を参照願いたい。（関口）



第4図 米沢町遺跡（第6地点）の位置



第5図 米沢町遺跡（第6地点）のトレンチ配置

## 2-3 米沢町遺跡（第7地点）

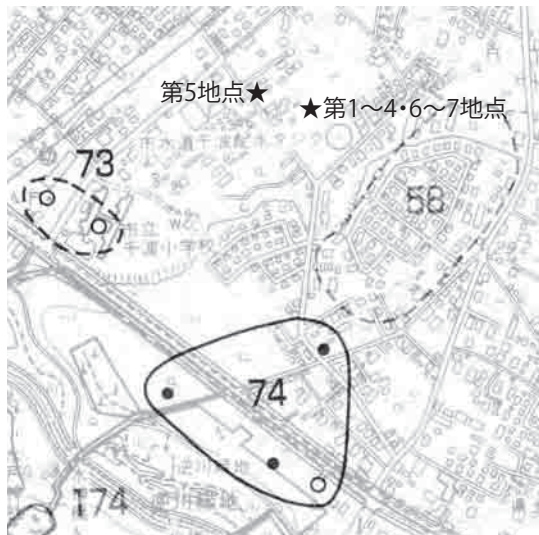
所在地 水戸市千波町字中道南 1502-23 番地

開発面積 184.93 m<sup>2</sup>

調査期間 平成 18 年 6 月 22 日

調査原因 個人住宅建築

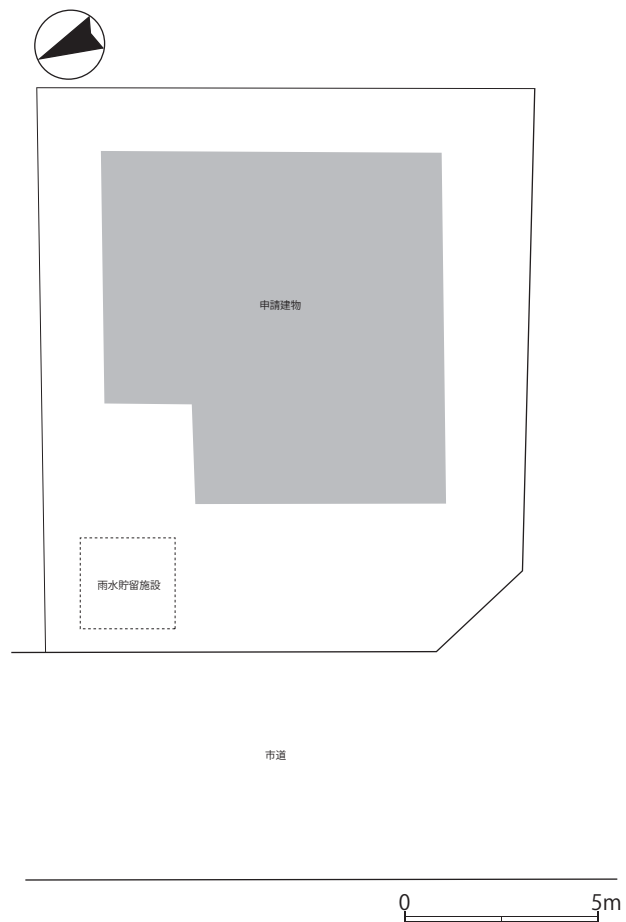
調査担当 関口慶久・新垣清貴



第6図 米沢町遺跡（第7地点）の位置

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分全体を対象として調査区を設定し（第7図）、関東ローム層上面を目標に掘削を行った。その結果、表土下110cmで関東ローム層が検出された。表土層から須恵器片やカワラケ片など若干の遺物は出土したものの、遺構は確認されなかった。最終的な調査面積は合計76.0㎡であった。遺物が表土より数点出土したものの、関東ローム層上面で遺構が確認されなかったことから慎重工事が相当であるとした。

（関口）



第7図 米沢町遺跡（第7地点）のトレンチ配置

#### 2-4 釜神町遺跡（第2地点）

所在地 水戸市天王町 1727-3 外

開発面積 3,122.25㎡

調査期間 平成18年5月17日・22～23日

調査原因 宅地造成工事

調査担当 関口慶久・新垣清貴

調査概要 開発対象地は江戸時代に武家屋敷が展開していたエリアであり、開発対象地の北側に水戸城の惣構の土塁が残存している。開発対象地のうち、道路部分に10.0m×2.0mのトレンチを2箇所（トレンチ1・2）、5.0m×5.0mのトレンチを1箇所（トレンチ3）、土盛り部分に7.0m×1.0mのトレンチを1箇所（トレンチ4）を設定し（第9図）、重機により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。

トレンチ1では表土下60cmで関東ローム層が検出され、溝状遺構やピットなど4基の近世遺構が確認された（第10図）。遺物は近世の陶磁器・土器類が多数出土した。

トレンチ2では表土下80cmで関東ローム層が検出され、6基の近世遺構が確認された（第10図）。遺物は近世の陶磁器・土器類が多数出土した。

トレンチ3では表土下110cmで関東ローム層が検出されたが、近現代の攪乱が著しく、遺構は確認されなかった。遺物は近世の陶磁器・土器類が若干出土した。



第8図 釜神町遺跡（第2地点）の位置

トレンチ4では土盛りの頂部下210cmで関東ローム層が検出された。土層断面の観察から、盛土の構築方法は、水戸城三の丸土塁の構築方法と近似していることが確認された。近代に係る遺物やコンクリート片等が1点も確認されないことから、近世以前に構築された土塁の可能性が高いと判断された。さらに盛土基底面からは、集石遺構が検出されたが、遺物は出土しなかった。最終的な調査面積は72.0㎡であった。

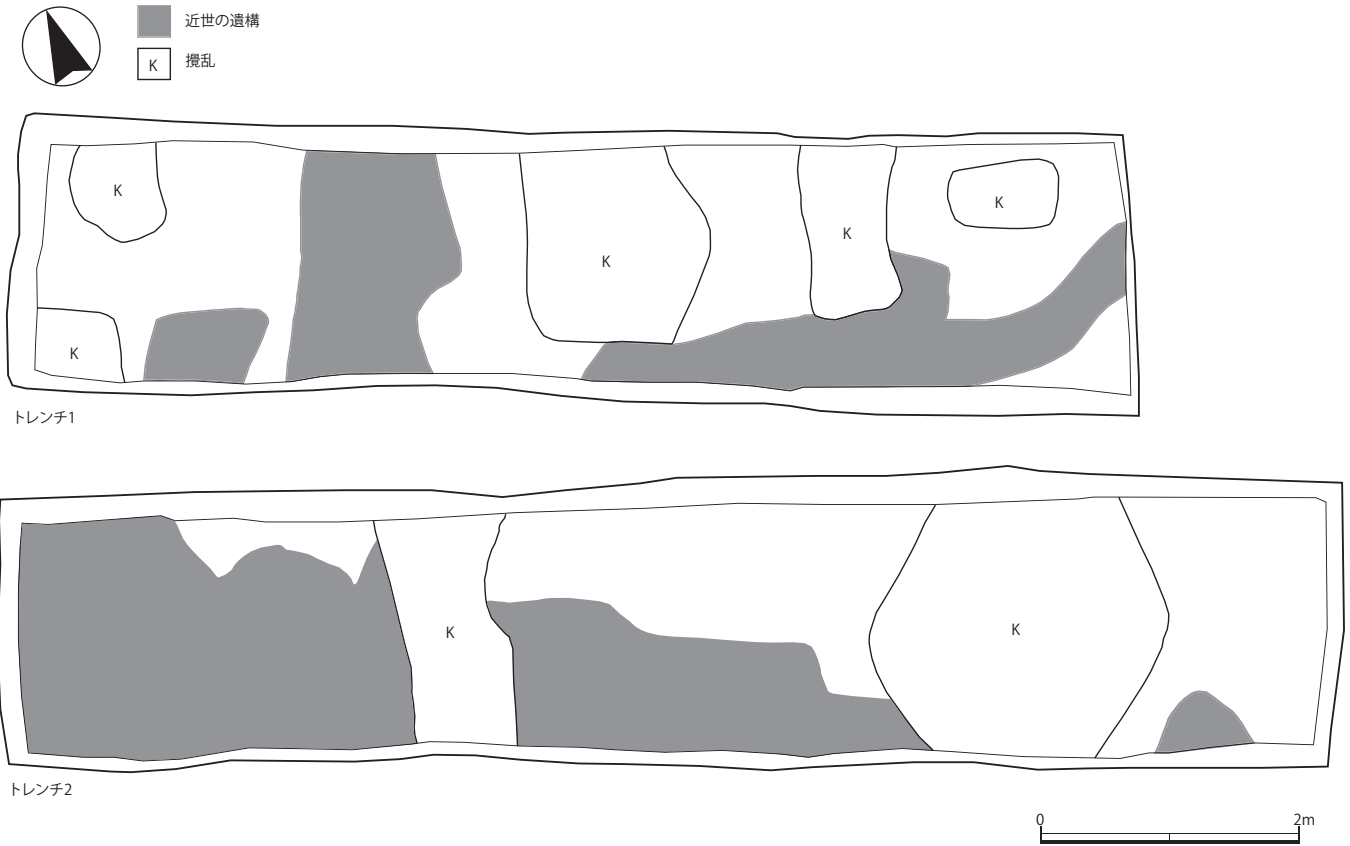
調査の結果、進入道路敷設予定部分で遺構・遺物が確認され、茨城県埋蔵文化財発掘調査等取扱基準に照らし合わせた結果、本件は原則Ⅲの(1)道路建設(改良工事を含む)に該当することから、道路部分については記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。また、宅地部分のうち、土塁が残存している箇所についても削平する場合には記録保存を目的とした本発掘調査が必要であるとした。

(関口)



第9図 釜神町遺跡(第2地点)のトレンチ配置





第10図 釜神町遺跡（第2地点）トレンチ1・2遺構配置

### 2-5 堀遺跡（第6地点）

所在地 水戸市堀町字馬場東 381-1, 382-3 番地

開発面積 357.64 m<sup>2</sup>

調査期間 平成18年12月4日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 新垣清貴

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分および浄化槽部分を対象として、5.0m×2.0mのトレンチを2箇所設定し（第12図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。その結果、両トレンチでは表土下100cmで関東ローム層が検出された。浄化槽部分に設定したトレンチ1では、表土層から須恵器片3点が出土したが、遺構は確認されなかった。申請建物部分に設定したトレンチ2では関東ローム層上面より土師器片や須恵器片数点が出土するとともに柱穴とみられる遺構が確認された。最終的な調査面積は合計20.0 m<sup>2</sup>であった。

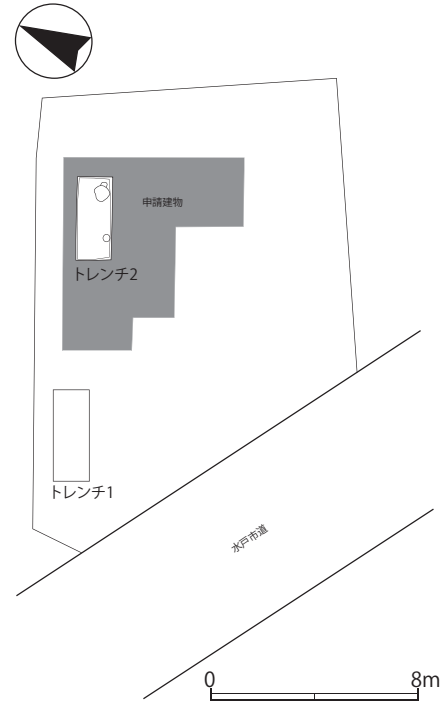
試掘当初は、申請建物部分については30cm以上の保護層が確保できる予定であったが、その後事業者が



第11図 堀遺跡（第6地点）の位置

ら計画変更の申請があり、パイル工法による基礎を設定することとなった。保護できる部分と保護できない部分が交錯することから、記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。その後、茨城県教育委員会教育長からの通知を受けて、文化財保護法第99条の規定に基づき、水戸市教育委員会による発掘調査の報告を提出し、平成19年3月12日～20日の期間に本発掘調査を実施した。本発掘調査の詳細については、本書「4-2 堀遺跡（第6地点）」を参照願いたい。

(川口)



第12図 堀遺跡（第6地点）のトレンチ配置

## 2-6 堀遺跡（第9地点）

所在地 水戸市渡里町 3314 番地外

開発面積 3,600.0 m<sup>2</sup>

調査期間 平成19年2月26日～2月27日

調査原因 宅地造成工事

調査担当 川口武彦・新垣清貴

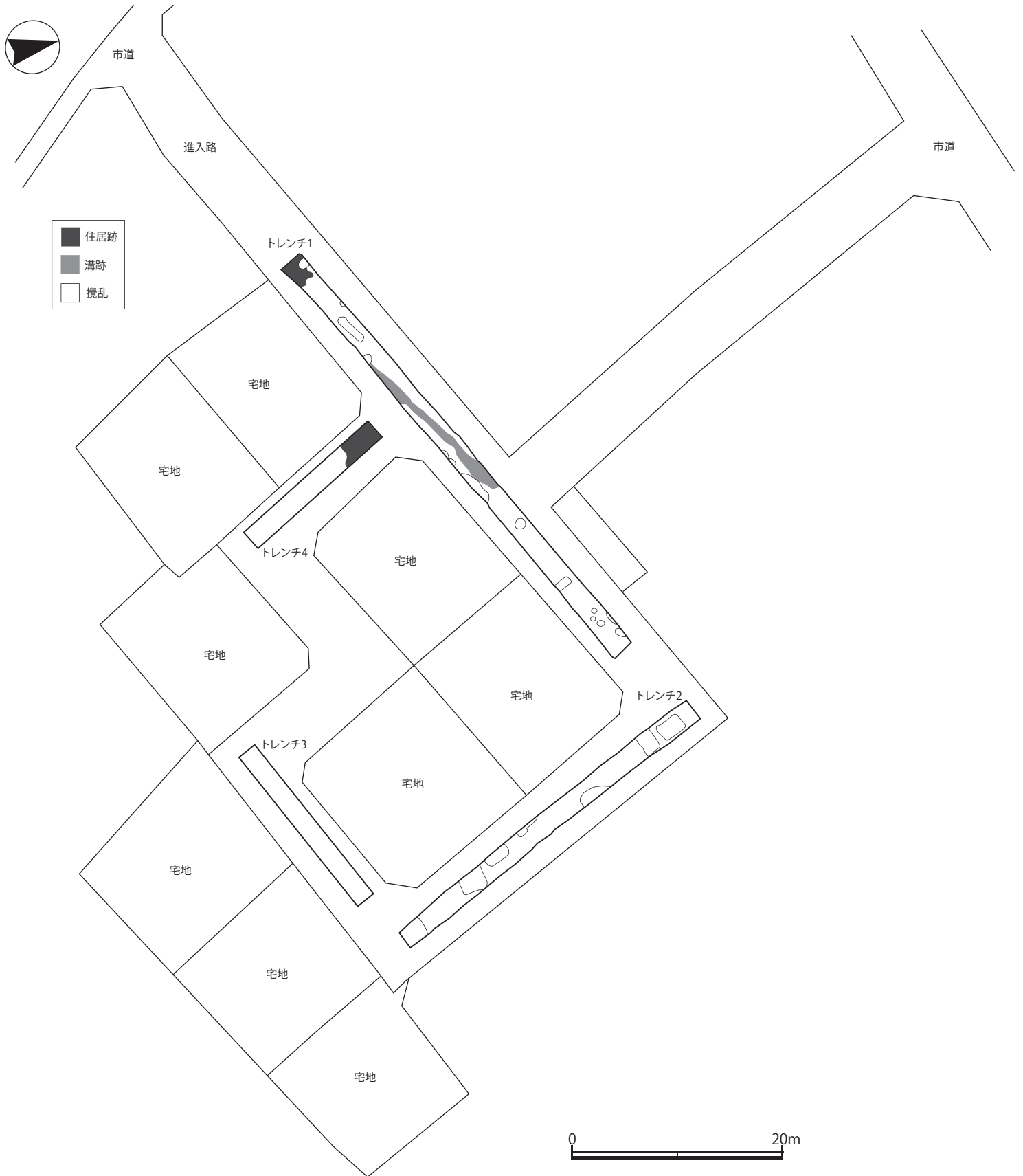
調査概要 開発対象地のうち、道路敷部分を対象として、トレンチを4箇所設定し（第14図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチ1（49.0m×2.0m）では45cm～75cmの深さで奈良・平安時代の竪穴住居跡や時期不明の溝跡・土坑が確認された。トレンチ2（35.0m×2.0m）およびトレンチ3（18.0m×2.0m）では遺構と思われるものは確認されなかった。トレンチ4（16.0m×2.0m）では40cm～50cmの深さで奈良・平安時代の竪穴住居跡と土坑が確認された。最終的な調査面積は合計238.0m<sup>2</sup>であった。



第13図 堀遺跡（第9地点）の位置

調査の結果、道路敷設予定部分で遺構・遺物が確認され、茨城県埋蔵文化財発掘調査等取扱基準に照らし合わせた結果、本件は原則Ⅲの（1）道路建設（改良工事を含む）に該当することから、道路部分については記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。

その後、事業者と遺跡の保存について協議を重ねたが、保存が困難であるとの結論に達したことから、平成19年7月23日から9月8日の期間に有限会社日考研茨城による本発掘調査が行われることとなった。本発掘調査では、奈良時代の竪穴住居跡7軒、掘立柱建物跡5棟、大形竪穴状遺構1基、井戸跡3基、中世の竪穴状遺構1基、



第 14 図 堀遺跡（第 9 地点）のトレンチ配置

古代・中世の土坑 13 基，柱穴状遺構 78 基，中・近世の溝跡 2 条が確認され，奈良・平安時代の土師器や須恵器，瓦などが出土している（小川・大淵・川口・木本・渥美 2008）。（川口）

## 2-7 堀遺跡 (第10地点)

所在地 水戸市渡里町字高野台 3217-1, 3217-6

番地

開発面積 1,660.0 m<sup>2</sup>

調査期間 平成19年3月26日

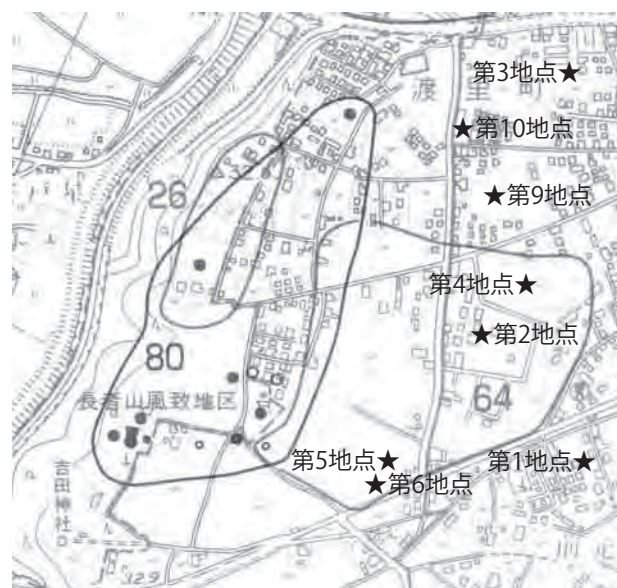
調査原因 介護老人保健福祉施設建築

調査担当 川口武彦

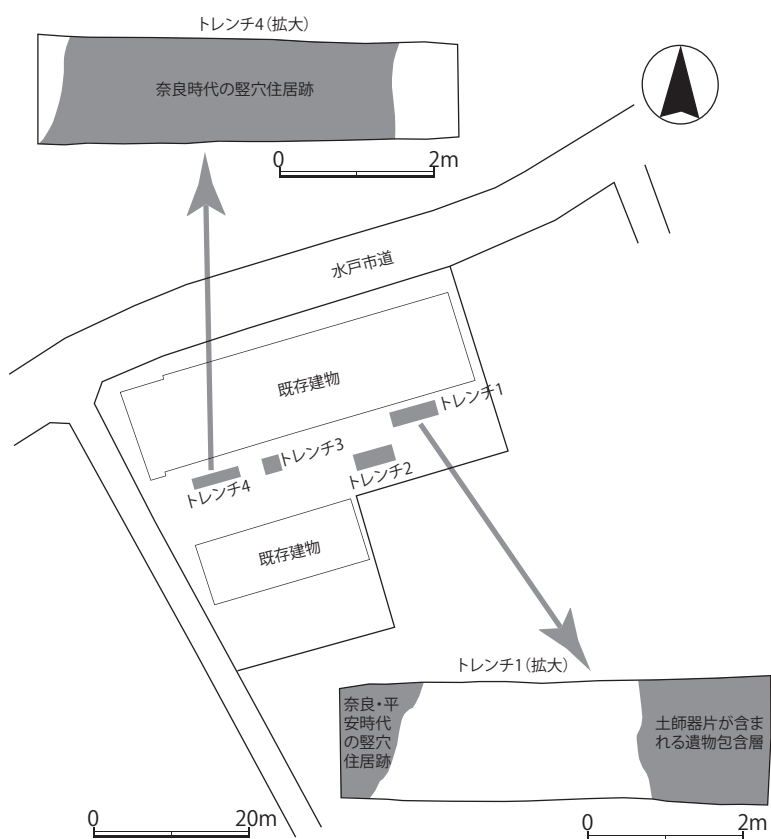
調査概要 開発対象地には現在、2棟の共同住宅が建っており、調査できる場所が駐車場部分に限定されることから、駐車場部分にトレンチを4箇所設定し、重機およびアスファルトカッターを用いて、トレンチ設定箇所のアスファルトを除去し(第16図)、関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチ1(6.0m×2.0m)からは表土下130～120cmの深さで奈良・平安時代の竪穴住居跡1軒とともに奈良・平安時代の土師器片が出土する暗褐色土の広がりが確認された(第16図)。トレンチ2(5.0m×2.0m)およびトレンチ3(2.0m×2.0m)からは遺構は確認されなかったが、土器片が数点出土した。トレンチ4(6.0m×2.0m)では90cmの深さで奈良時代の竪穴住居跡1軒が検出された(第16図)。

調査の結果、遺構・遺物が確認されたが、建物の建築を予定している箇所については、調査が及ばなかった。従って、現存建物の取り壊し後にさらなる確認調査が必要であり、調査の結果、遺構・遺物の広がりが認められ、30cm以上の保護層が確保できない場合には、記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。

(川口)



第15図 堀遺跡(第10地点)の位置



第16図 堀遺跡(第10地点)のトレンチ配置

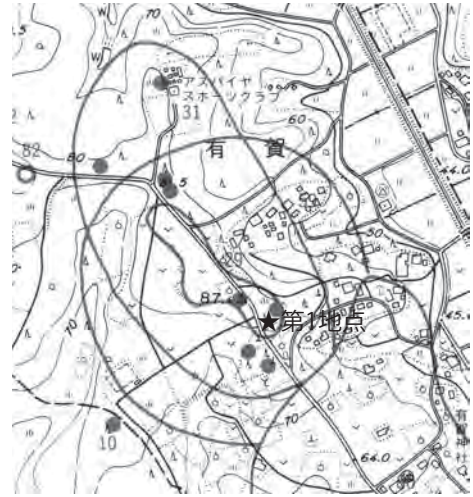


2-8 有賀台遺跡（第1地点）

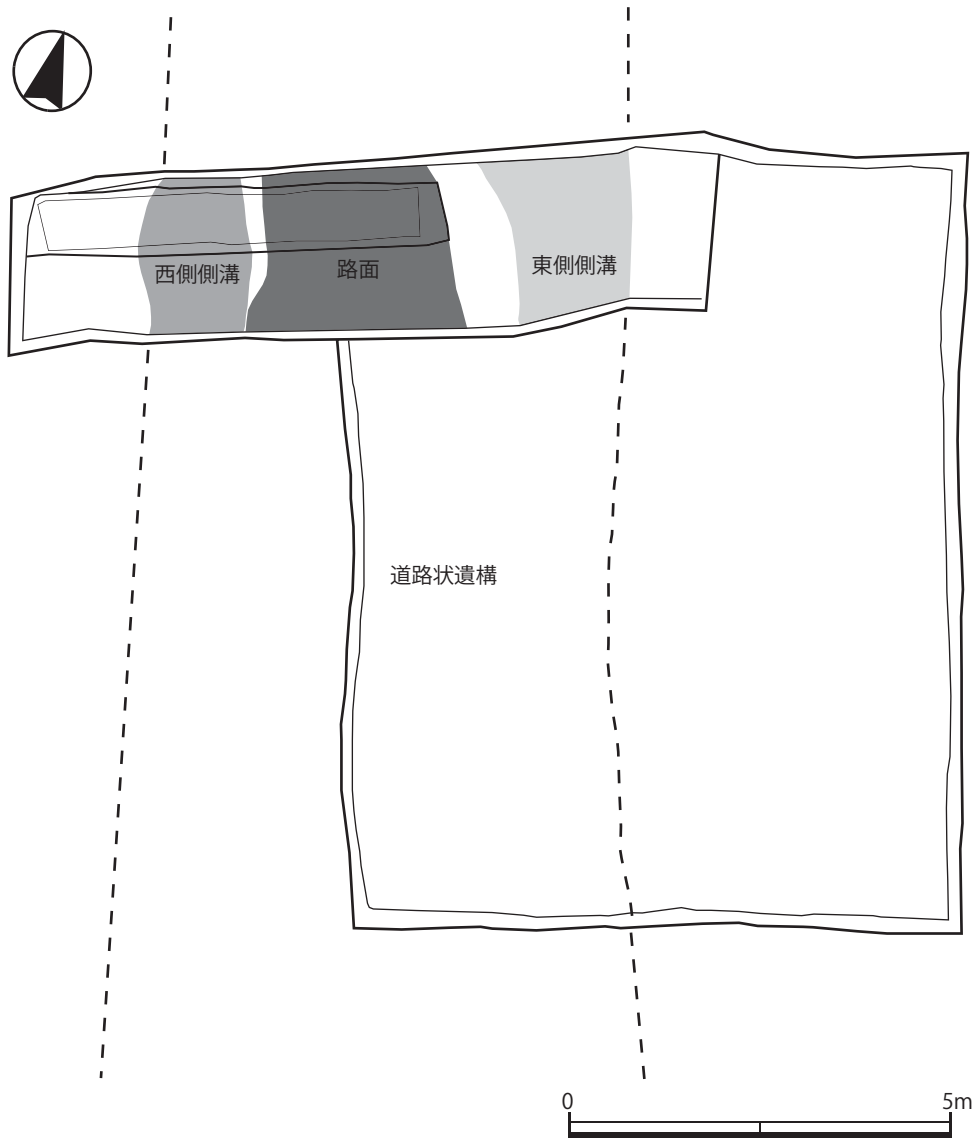
所在地 水戸市有賀町 1494-1 番地  
 開発面積 100.0 m<sup>2</sup>  
 調査期間 平成 18 年 6 月 29 日（1 次）  
 平成 18 年 8 月 28 日～29 日（2 次）  
 調査原因 携帯電話通信基地局建築  
 調査担当 新垣清貴

調査概要 開発対象地のうち、地下に掘削の及ぶ鉄塔建設予定地を対象とし、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。その結果、30cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、表土層から奈良・平安時代の須恵器・土師器や近世陶器片等が出土した。また、調査区の西側において上面幅 6.2m の道路状遺構が確認された（第 18 図）。

道路は中央に上面幅 2.2m ～ 2.9m、底面幅 1.5m、深さ 0.25 ～ 0.3m の逆台形を呈する溝状の構造を呈するもので、底面に路面が形成され



第 17 図 有賀台遺跡（第 1 地点）の位置

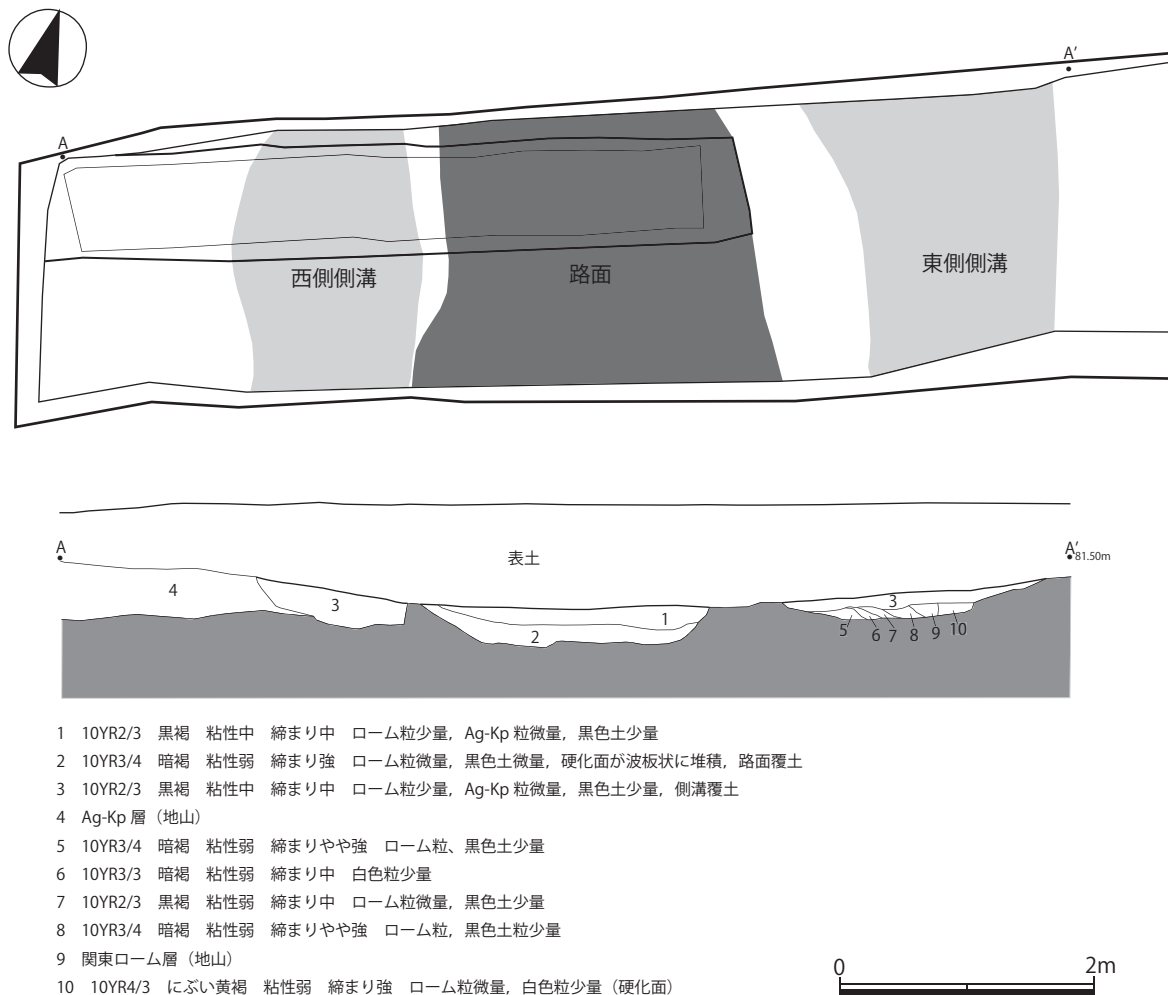


第 18 図 有賀台遺跡（第 1 地点）のトレンチ配置

ている（第19図）。東西両側には上面幅1.0m～2.0m、底面幅1.0m～1.3m、深さ0.15m～0.2mの逆台形を呈する側溝が並走している（第19図）。最終的な調査面積は100.0㎡であった。

本道路状遺構の南東数kmの位置には、南西方向から北東方向に主軸をとる常陸国府から安侯駅家を経由して、河内駅家方面に向かう東海道駅路が通過していると想定されており、その駅路から新治郡衙方面に向かう分岐路であった可能性がある。

遺構の重要性を鑑み、調査終了後に事業者と遺構の保存について協議を重ねた結果、携帯電話基地局の設置箇所を遺構の確認されなかった東側部分に移設することとなったため、工事立会が相当であるとした。（新垣）



第19図 有賀台遺跡（第1地点）の道路状遺構

## 2-9 下ノ内遺跡（第1地点）

所在地 水戸市谷田町 576 番地

開発面積 1,022.0 m<sup>2</sup>

調査期間 平成 18 年 7 月 27 日

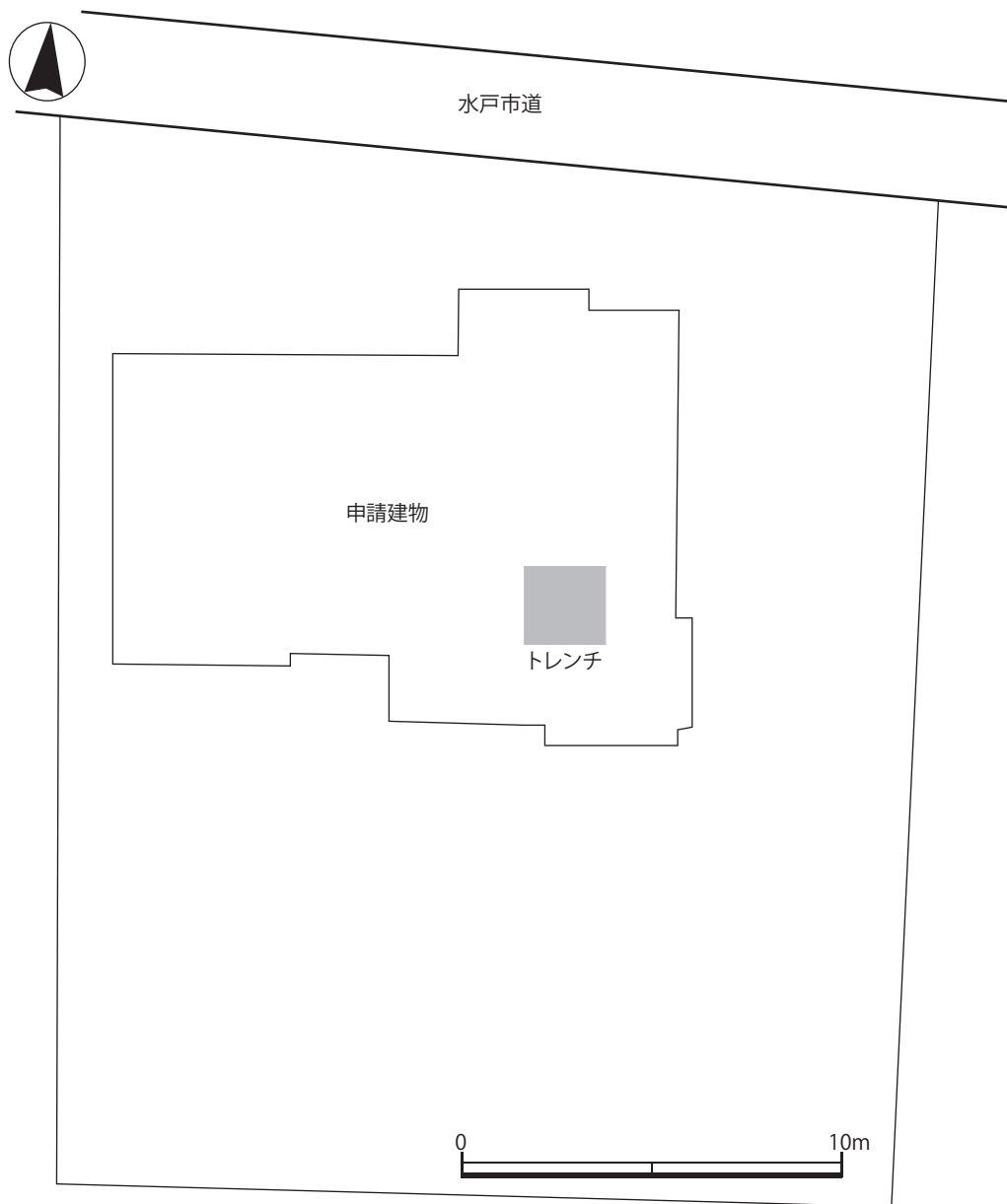
調査原因 個人住宅建築

調査担当 関口慶久

調査概要 開発対象地のうち、申請建物の部分に 2.0m×2.0m のトレンチを設定し、人力により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。その結果、90cm の深さで関東ローム層上面が確認された。遺構は確認されなかったが、縄文土器がローム層上面から少量出土した。遺構が確認されなかったこと、30cm 以上の保護層が十分に確保できることから、慎重工事が相当であるとした。（関口）



第 20 図 下ノ内遺跡（第 1 地点）の位置



第 21 図 下ノ内遺跡（第 1 地点）のトレンチ配置

2-10 西原古墳群（第11地点）

所在地 水戸市堀町 282 番地

開発面積 330.04 m<sup>2</sup>

調査期間 平成 18 年 8 月 23 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 川口武彦

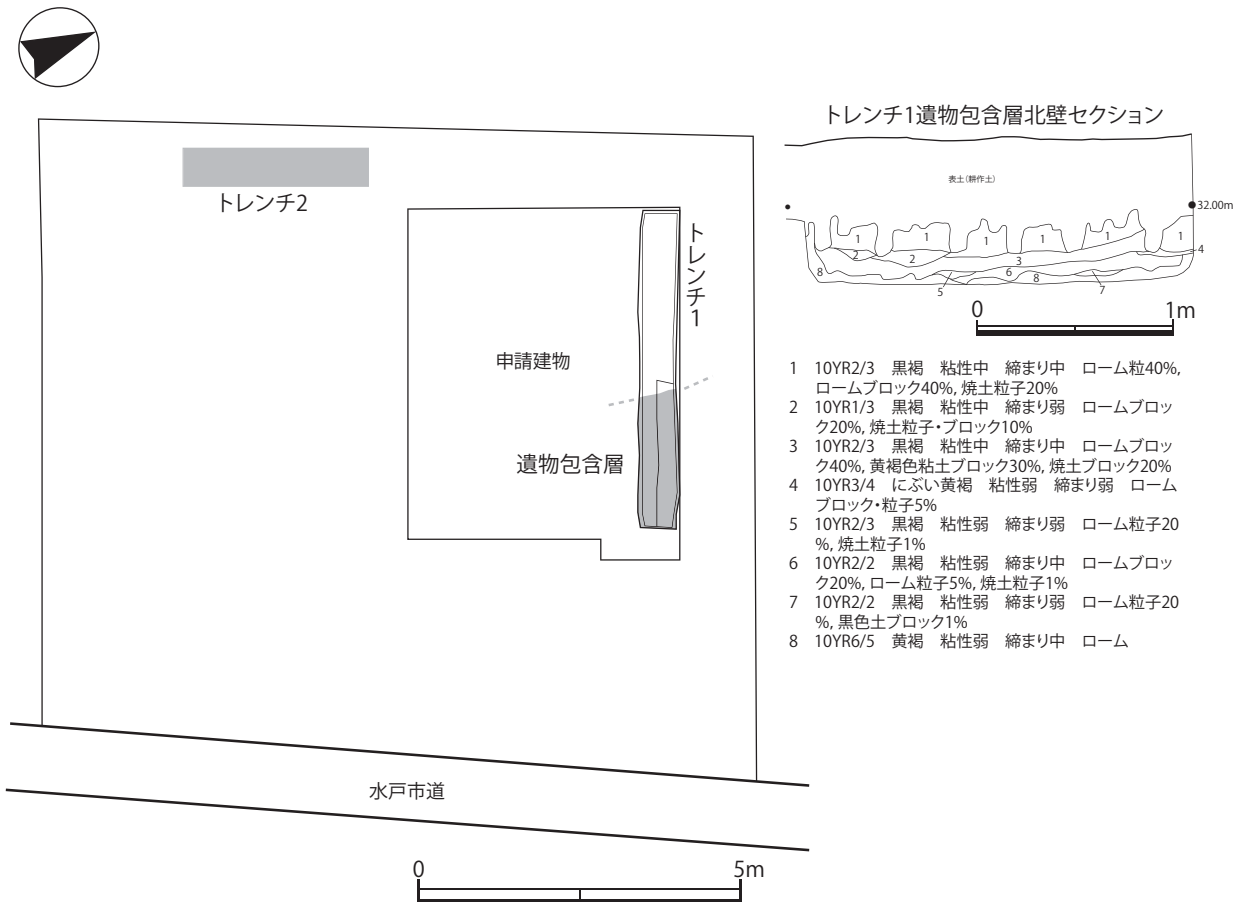
調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分に、8.6m×1.0mのトレンチ1を、浄化槽埋設部分に5.0m×1.0mのトレンチ2を設定し（第23図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。その結果、トレンチ2からは遺構・遺物は確認されず、1.2mの深さで関東ローム層上面が検出された。

トレンチ1では東側半分より奈良・平安時代の土器片を含む遺物包含層が0.7mの深さで検出された。最終的な調査面積は13.6m<sup>2</sup>であった。調査終了後に事業者と遺構の保存について協議を重ねた結果、盛土により30cm以上の保護層を確保できるとの結論に達したため、工事立会が相当であるとした。

（川口）



第22図 西原古墳群（第11地点）の位置



第23図 西原古墳群（第11地点）のトレンチ配置

## 2-11 河和田城跡（第3地点）

所在地 水戸市河和田町字中道 546-2 番地

開発面積 740.01 m<sup>2</sup>

調査期間 平成 18 年 10 月 4 日・10 月 10 日

調査原因 事務所兼個人住宅建築

調査担当 関口慶久

調査概要 開発対象地のうち、蒸発散槽・流入枡設置候補部分 3 箇所に、5.0m×1.0m のトレンチ 1・4・5 を、合併浄化槽埋設部分に 7.5m×1.5m のトレンチ 2 を、申請建物部分に 15.0m×1.6m のトレンチ 3 を設定し（第 25 図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。

トレンチ 1 では地表下 40cm で関東ローム層上面が確認され、河和田城跡に係るとみられる柱穴などの複数の遺構が検出されたが、遺物は検出されなかった。

トレンチ 2 では地表下 50cm で関東ローム層上面が確認され、河和田城跡に係るとみられる柱穴および方形プランの土坑が検出されたが遺物は検出されなかった。

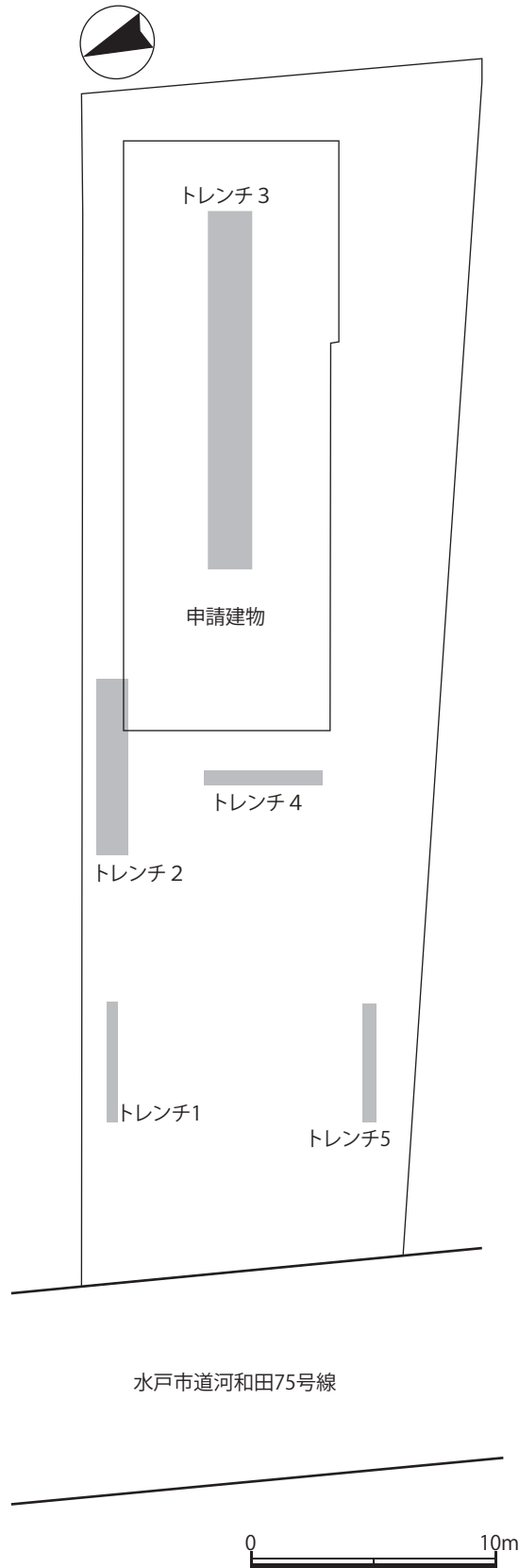
トレンチ 3 では地表下 150cm で関東ローム層上面が確認され、河和田城跡に係るとみられる地下式坑や柱穴など複数の遺構が検出されたが、遺物は検出されなかった。

トレンチ 4 では地表下 80cm で関東ローム層上面が確認され、河和田城跡に係るとみられる堀と思われる遺構が検出されたが、遺物は検出されなかった。

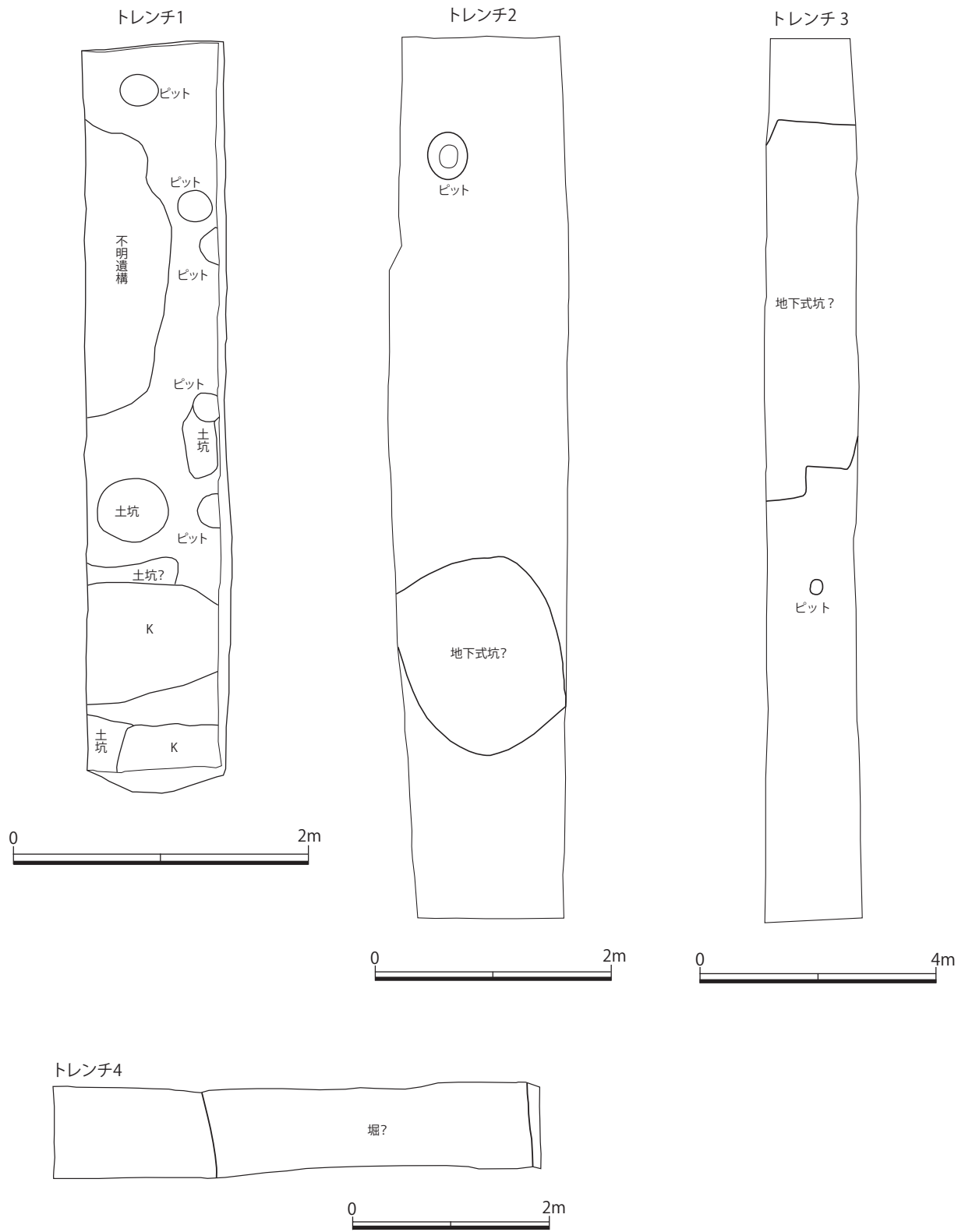
トレンチ 5 では地表下 30cm で関東ローム層上面が確認されたが、遺構・遺物は検出されなかった。



第 24 図 河和田城跡（第 3 地点）の位置



第 25 図 河和田城跡（第 3 地点）のトレンチ配置



第 26 図 河和田城跡 (第 3 地点) のトレンチ 1 ~ 4 遺構検出状況



最終的な調査面積は 50.24 m<sup>2</sup>であった。当初の工事計画では記録保存の発掘調査を実施せざるを得なかったが、調査終了後に事業者と遺構の保存について協議を重ねた結果、盛土により 30cm 以上の保護層を確保でき、蒸発散槽・流入枡設置候補部分については遺構が存在しない空間に移設可能との結論に達したため、工事立会が相当であるとした。(関口)

## 2-12 坏遺跡 (第4地点)

所在地 水戸市河和田 3丁目 2412-5, 2413-1 番地の一部

開発面積 996.39 m<sup>2</sup>

調査期間 平成 18年 6月 13日～6月 14日 (1次)

平成 18年 7月 12日 (2次)

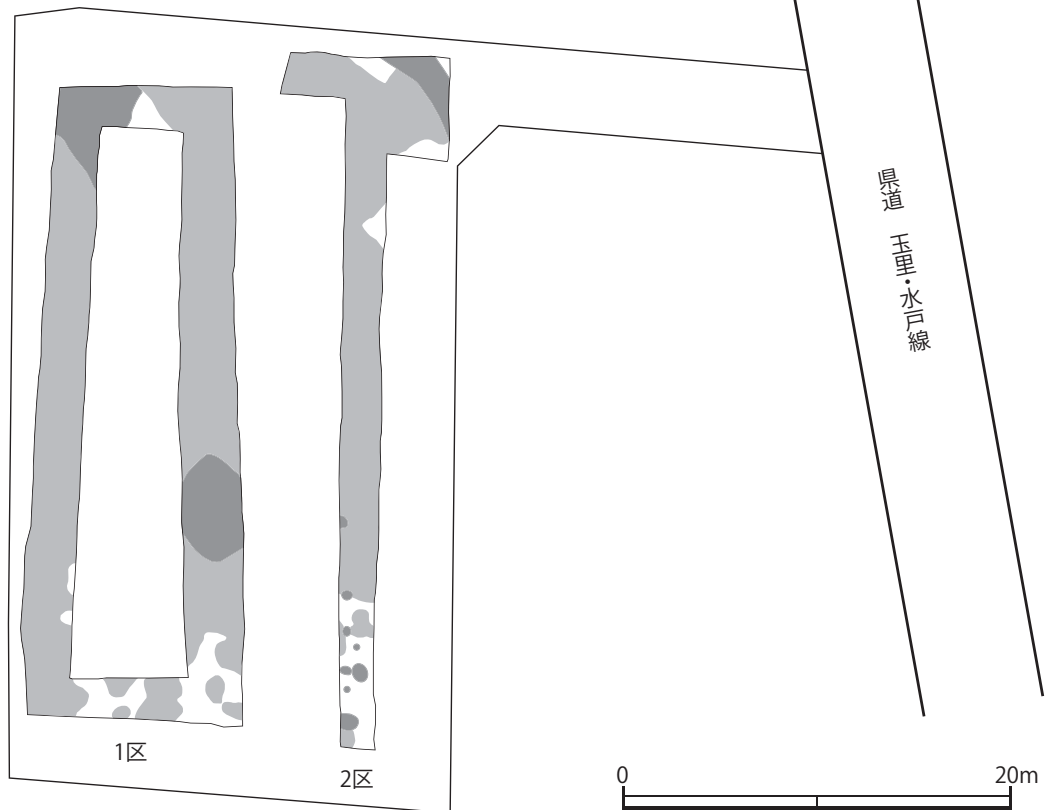
調査原因 共同住宅建築

調査担当 新垣清貴

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分および浄化槽埋設部分にトレンチを 3箇所設定し、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。その結果、浄化槽部分に設置した 2区 (トレンチ 1・3) からは 50～55cm の深さで縄文時代中期末の竪穴住居跡とみられるプラン 1基、時期不明の溝状遺構 1条を確認した。

建物部分に設置した 1区 (トレンチ 2) については、50～55cm の深さで縄文時代中期～後期にかけての土坑群・古墳時代以降とみられる竪穴住居跡とみられるプラン

2箇所を確認した。遺物は縄文時代中期～後期の土器が多数出土した。最終的な調査面積は 184.0 m<sup>2</sup>であった。調査終了後に事業者と遺構の保存について協議を重ねた結果、浄化槽部分については遺構の検出されていない箇所に移設可能であるが、建物部分については移設が困難であり、30cm 以上の保護層の



第 28 図 坏遺跡 (第 4 地点) のトレンチ配置



第 27 図 坏遺跡 (第 4・6 地点) の位置

確保も困難であるとの結論に達したため、記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。

その後、平成 18 年の 7 月 20 日～7 月 31 日の期間に日本窯業史研究所による本発掘調査が行われ、フラスコ状土坑 1 (縄文)、土坑 5 (縄文)、柱穴 5 (縄文)、小ピット 5 (縄文)、円形土坑 2 (時期不明)、ピット 7 (時期不明) が検出されるとともに多数の縄文土器が出土した。なお、今回の試掘調査で出土した遺物については、本発掘調査の遺物と接合する可能性があったため、本発掘調査報告書に収録した (三輪・新垣・川口・関口 2007)。

(新垣)

## 2-13 坏遺跡 (第 6 地点)

所在地 水戸市河和田 3 丁目 2370-1 番地の一部

開発面積 768.26 m<sup>2</sup>

調査期間 平成 18 年 9 月 29 日

調査原因 共同住宅建築

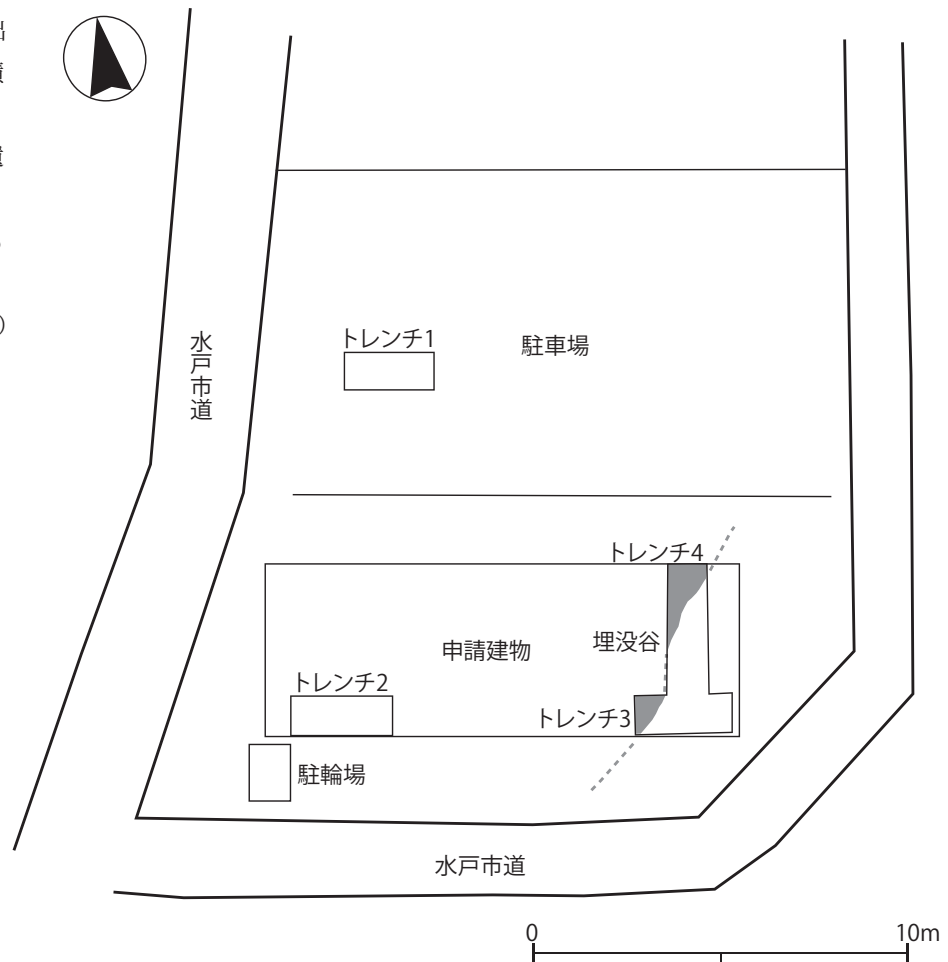
調査担当 新垣清貴

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分および浄化槽埋設部分に、5.0m×2.0m のトレンチを 3 箇所、6.0m×2.0m のトレンチを 1 箇所設定し、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。

その結果、浄化槽部分に設置したトレンチ 1 では 140cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構・遺物は検出されなかった。建物部分に設置したトレンチ 2 では 150cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構・遺物は検出されなかった。建物部分に設置したトレンチ 3 およびトレンチ 4 では 60～70cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともに埋没谷とみられる落ち込みが確認されたが、遺構・遺物は検出されなかった。

遺物については表土から縄文土器の細片 3 点が検出された。最終的な調査面積は 42.0 m<sup>2</sup>であった。遺物は数点出土したものの、遺構は確認されなかったため、慎重工事が相当であるとした。

(新垣)



第 29 図 坏遺跡 (第 6 地点) のトレンチ配置



## 2-14 若林遺跡（第1地点）

所在地 水戸市見和3丁目1391番地1

開発面積 3,378.9 m<sup>2</sup>

調査期間 平成18年10月12日～10月13日

調査原因 宅地造成工事

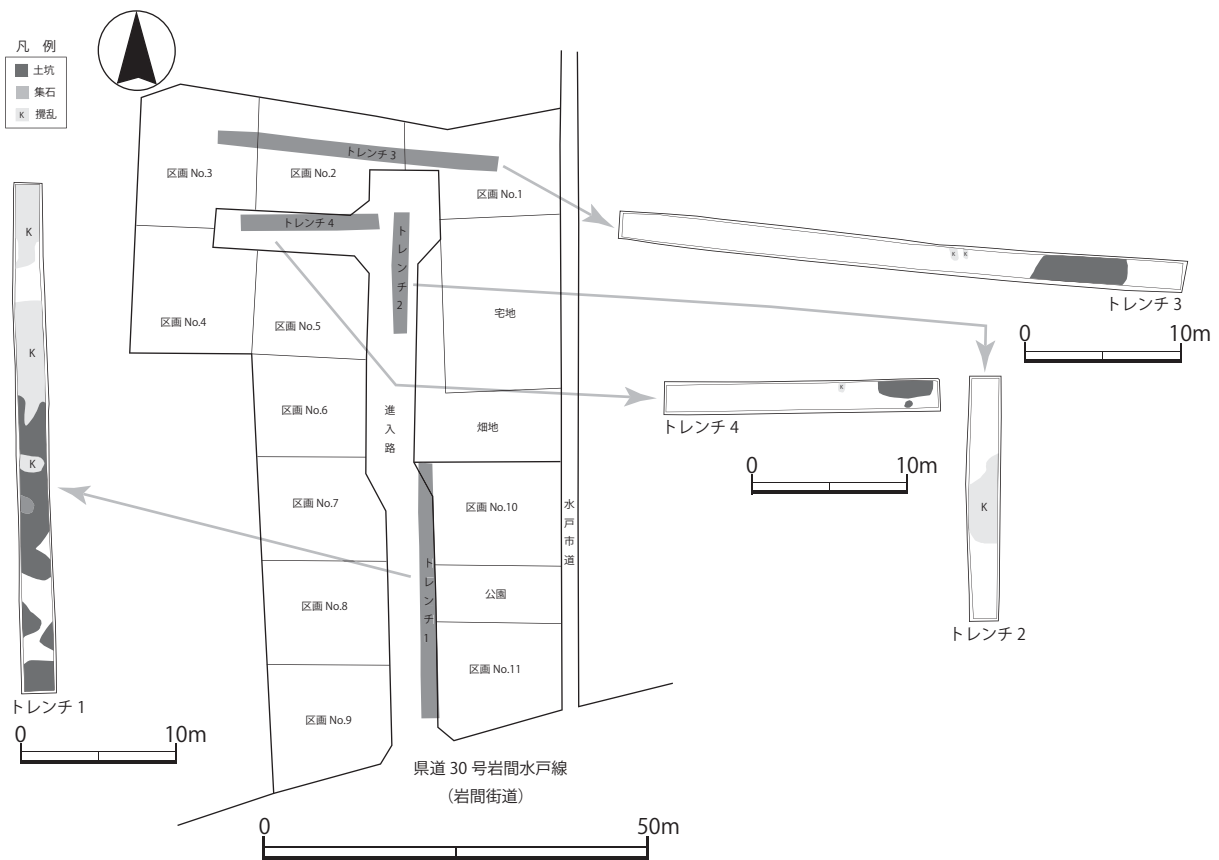
調査担当 川口武彦・新垣清貴

調査概要 開発対象地のうち、道路部分および宅地部分の一部にトレンチを設定し、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。その結果、トレンチ2では遺構は確認されなかったが、トレンチ1・3・4からは縄文時代中期の土坑群や集石が検出され、縄文土器や石器が多数出土した。調査の結果、道路敷設予定部分で遺構・遺物が確認され、茨城県埋蔵文化財発掘調査等取扱基準に照らし合わせた結果、本件は原則Ⅲの(1)道路建設(改良工事を含む)に該当することから、道路部分については記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。その後、事業者と遺跡の保存について協議を重ねたが、保存が困難であるとの結論に達したことから、本発掘調査を実施することとなり、平成20年2月2日～3月20日にかけて、株式会社東京航業研究所による本発掘調査が実施されることとなった。調査の対象となったのは、646.10 m<sup>2</sup>であった。本発掘調査では、縄文時代中期の土坑群57基、屋外炉2基、住居跡1軒が検出されるとともに、多数の縄文土器や石器が出土した。試掘調査で出土した遺物は、本発掘調査の出土遺物が接合する可能性が高いため、遺物については本報告に収録する。

(川口)



第30図 若林遺跡（第1地点）の位置



第31図 若林遺跡（第1地点）のトレンチ配置

2-15 渡里町遺跡（第3地点）

所在地 水戸市渡里町字小山ノ上  
2403-7 番地

開発面積 363.01 m<sup>2</sup>

調査期間 平成 18 年 11 月 9 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 関口慶久

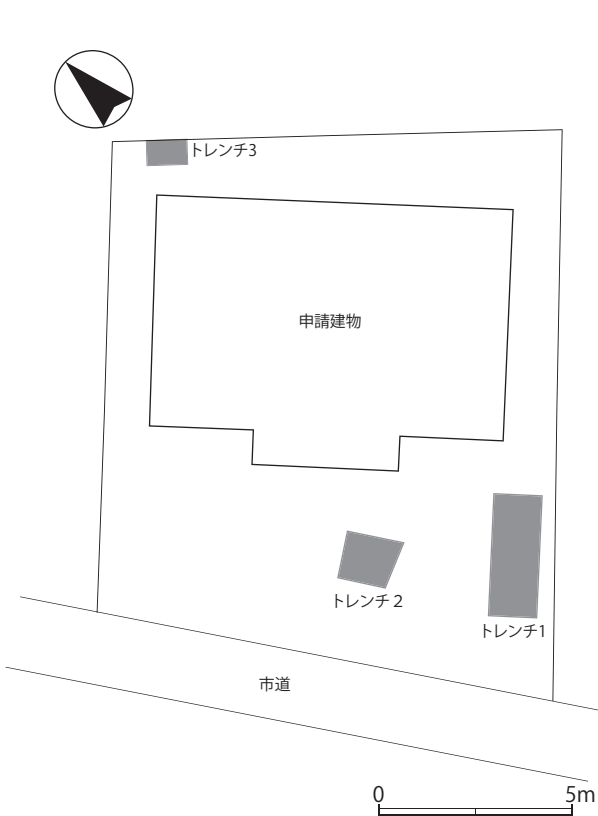
調査概要 開発対象地のうち、合併浄化槽埋設部分に 3.2m×1.2m のトレンチ 1 を、蒸発散槽（セルロームセット）埋設部分に 2.0m×1.2m のトレンチ 2 を、申請建物部分の北西に 1.0m×0.6m のトレンチ 3 を設定し、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。

その結果、トレンチ 1 では地表下 110cm で関東ローム層が確認され、縄文時代や奈良・平安時代の遺物が複数出土したが、遺構は確認されなかった。

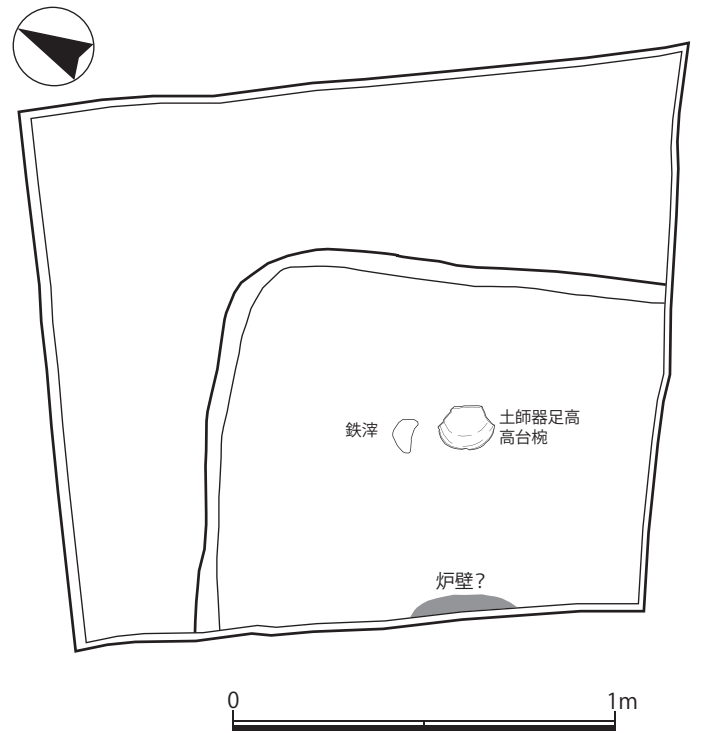
トレンチ 2 では地表下 110cm で関東ローム層が確認されるとともに方形プランの遺構は確認された。鉄滓が出土したことから、製鉄に関連する遺構の可能性がある。遺物は奈良・平安時代のものが多数出土した。



第 32 図 渡里町遺跡（第 3 地点）の位置



第 33 図 渡里町遺跡（第 3 地点）のトレンチ配置



第 34 図 渡里町遺跡（第 3 地点）トレンチ 2 遺構検出状況

トレンチ 3 では地表下 140cm まで掘削したが、境界ブロックが崩落する危険性があるため、これ以上の掘削を断念した。最終的な調査面積は 6.48 m<sup>2</sup> であった。調査終了後に事業者と遺構の保存について協議を重ねた結果、盛土により 30cm 以上の保護層を確保できるとの結論に達したため、工事立会が相当であるとした。(関口)

## 2-16 北屋敷遺跡 (第2地点)

所在地 水戸市大串町字宿内 734-5 番地

開発面積 567.0 m<sup>2</sup>

調査期間 平成 18 年 11 月 15 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 関口慶久

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分に 10.0m×3.0m のトレンチ 1 を、合併浄化槽埋設埋設部分に 2.5m×1.0m のトレンチ 2 を設定し、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。

その結果、トレンチ 1 では地表下 90cm で関東ローム層が確認され、奈良・平安時代の土師器・須恵器片が数点出土したが、遺構は確認されなかった。

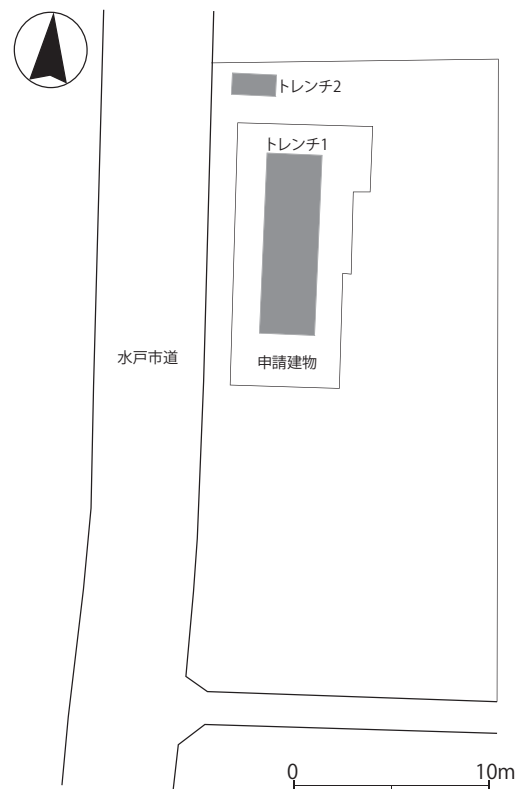
トレンチ 2 では地表下 80cm で関東ローム層が確認され、古墳時代後期の埴輪片および奈良・平安時代の土師器・須恵器片、近世の瓦質土器・磁器片が少量出土したが、遺構は確認されなかった。

最終的な調査面積は 32.5 m<sup>2</sup> であった。遺物は少量出土したものの、遺構が確認されなかったため、慎重工事が相当であるとした。

(関口)



第 35 図 北屋敷遺跡 (第 2 地点) の位置



第 36 図 北屋敷遺跡 (第 2 地点) のトレンチ配置

## 2-17 台渡里遺跡 (第31次)

所在地 水戸市渡里町字前原 2618 番地

開発面積 322.0 m<sup>2</sup>

調査期間 平成 18 年 11 月 29 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 川口武彦, 新垣清貴

調査概要 開発対象地のうち、浄化槽埋設部分に 3.6m × 1.5m のトレンチ 1 を、申請建物部分に 4.8m × 1.5m のトレンチ 2 を設定し、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。その結果、トレンチ 1 では地表下 180cm で関東ローム層が確認され、奈良・平安時代の土器片が 2 点出土したが、遺構は確認されなかった。トレンチ 2 では地表下 160cm で関東ローム層が確認されるとともに、時期不明の溝状遺構 1 条、ピット 3 基と奈良・平安時代の土師器片 1 点が検出された。最終的な調査面積は 12.6 m<sup>2</sup> であった。調査終了後に事業者と遺構の保存について協議を重ねた結果、盛土により 30cm 以上の保護層を確保できるとの結論に達したため、工事立会が相当であるとした。

(川口)



第 37 図 台渡里遺跡 (第 31 次・32 次) の位置

## 2-18 台渡里遺跡 (第 32 次)

所在地 水戸市渡里町字狸久保

2771-1 番地

開発面積 990.93 m<sup>2</sup>

調査期間 平成 19 年 1 月 31 日

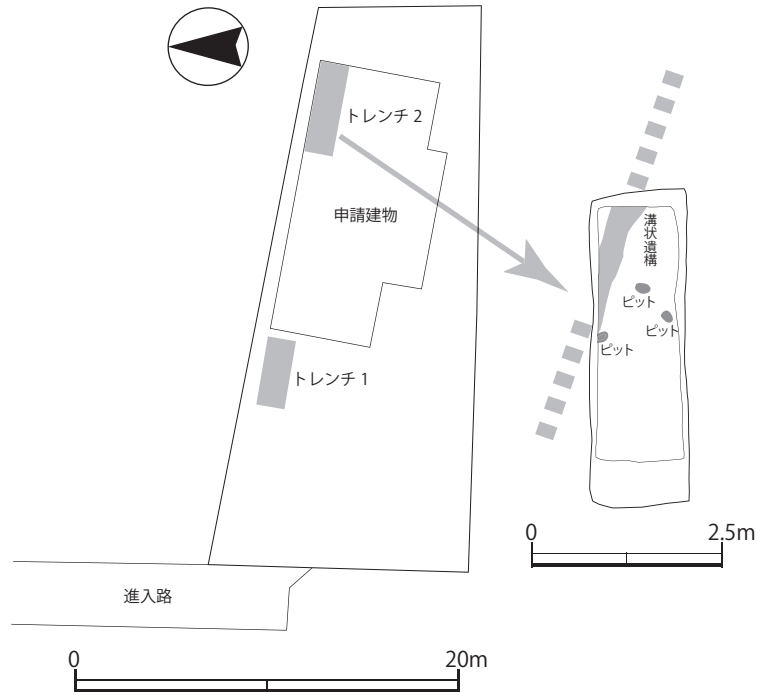
調査原因 宅地造成工事

調査担当 川口武彦, 新垣清貴

調査概要 開発対象地のうち、宅地予定部分に 4.0m × 1.0m のトレンチを 1 箇所 (トレンチ 1)、2.5m × 1.0m のトレンチ

を 1 箇所 (トレンチ 2)、7.5m × 1.0m のトレンチを 1 箇所 (トレンチ 3)、13.0m × 1.0m のトレンチを 1 箇所 (トレンチ 4) を設定し、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。その結果、トレンチ 1 では 1.6m の深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構・遺物は検出されなかった。トレンチ 2 では 0.9m の深さで関東ローム層が確認されたが、遺構・遺物は検出されなかった。トレンチ 3 では 0.9m の深さにおいて、関東ローム層上面が検出されるとともに、北西方向から南東方向に向かう上面幅 6.0m、深さ 2.0m 以上の溝状遺構 1 条、その東側に接する形で土坑 1 基が検出された。遺物は土器片が少量出土した。トレンチ 4 でも 0.9m の深さで関東ローム層上面が検出されるとともに、トレンチ 3 で確認された北西方向から南東方向に向かう深さ幅 6.0m、深さ 2.0m 以上の溝状遺構 1 条とともに土坑 1 基、溝状遺構に切られる竪穴住居跡とみられるプランを確認した。遺物は土器片が少量出土した。最終的な調査面積は 30.40 m<sup>2</sup> であった。調査終了後に事業者と遺構の保存について協議を重ねた結果、盛土により 30cm 以上の保護層を確保できるとの結論に達したため、工事立会が相当であるとした。

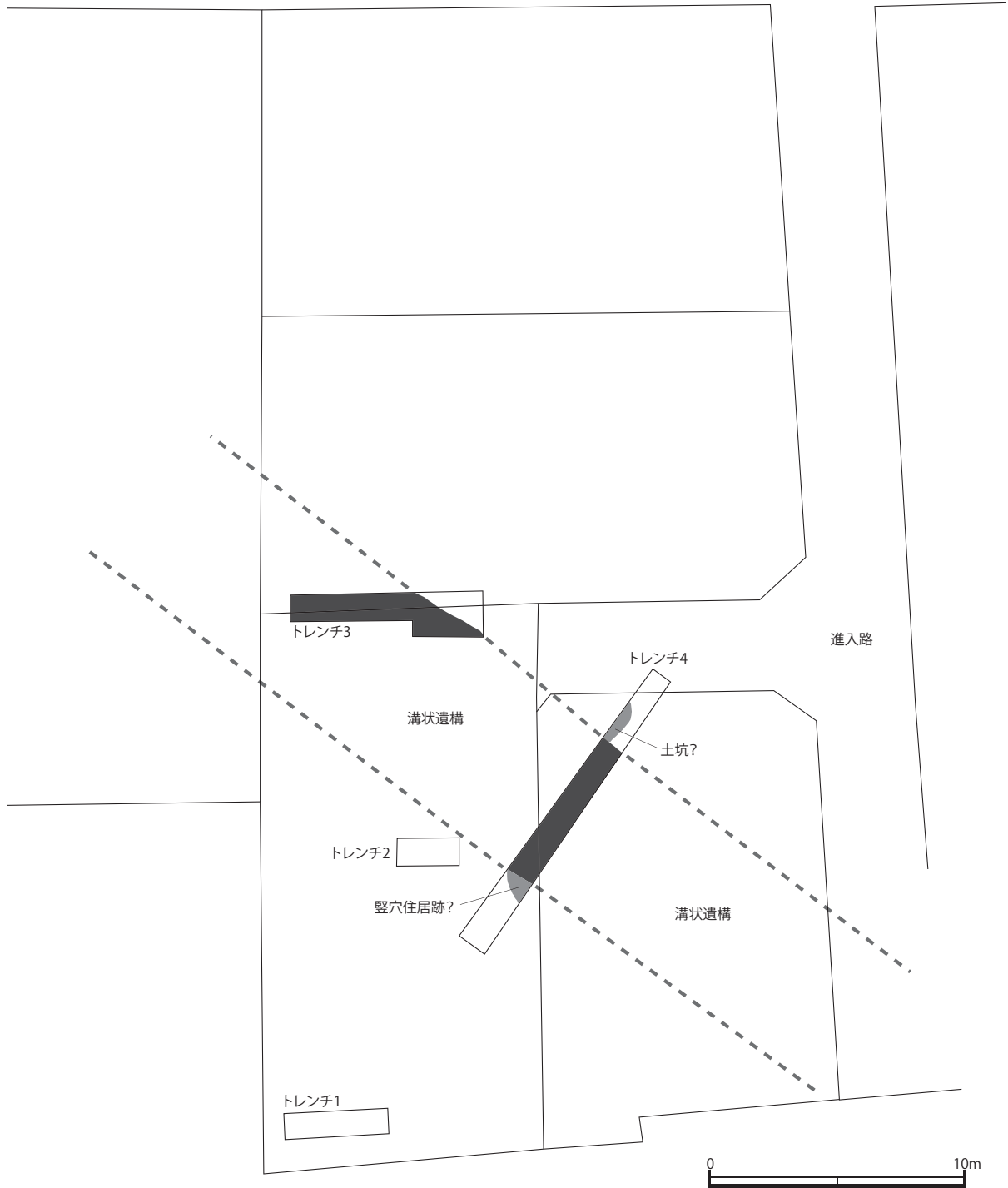
(川口)



第 38 図 台渡里遺跡 (第 31 次) のトレンチ配置



水戸市道常磐2号線



第 39 図 台渡里遺跡（第 32 次）のトレンチ配置



## 2-19 金剛寺遺跡（第7地点）

所在地 水戸市開江町 637-1 番地

開発面積 325.0 m<sup>2</sup>

調査期間 平成 18 年 12 月 5 日

調査原因 倉庫建築

調査担当 川口武彦

調査概要 開発対象地に長さ 12.0m×1.0m のトレンチを設定し、重機により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。その結果、中世の土器片や陶磁器片が表土から出土したものの、攪乱がひどく遺構とみられるものは確認されなかった。最終的な調査面積は 12.0 m<sup>2</sup> であった。遺構が確認されなかったため、慎重工事が相当であるとした。（川口）



第 40 図 金剛寺遺跡（第 7 地点）の位置



第 41 図 金剛寺遺跡（第 7 地点）のトレンチ配置

## 2-20 経塚遺跡（第3地点）

所在地 水戸市河和田町字街道端 1109-6, 1109-7,  
1110-1 番地

開発面積 999.92 m<sup>2</sup>

調査期間 平成 19 年 3 月 7 日

調査原因 共同住宅建築

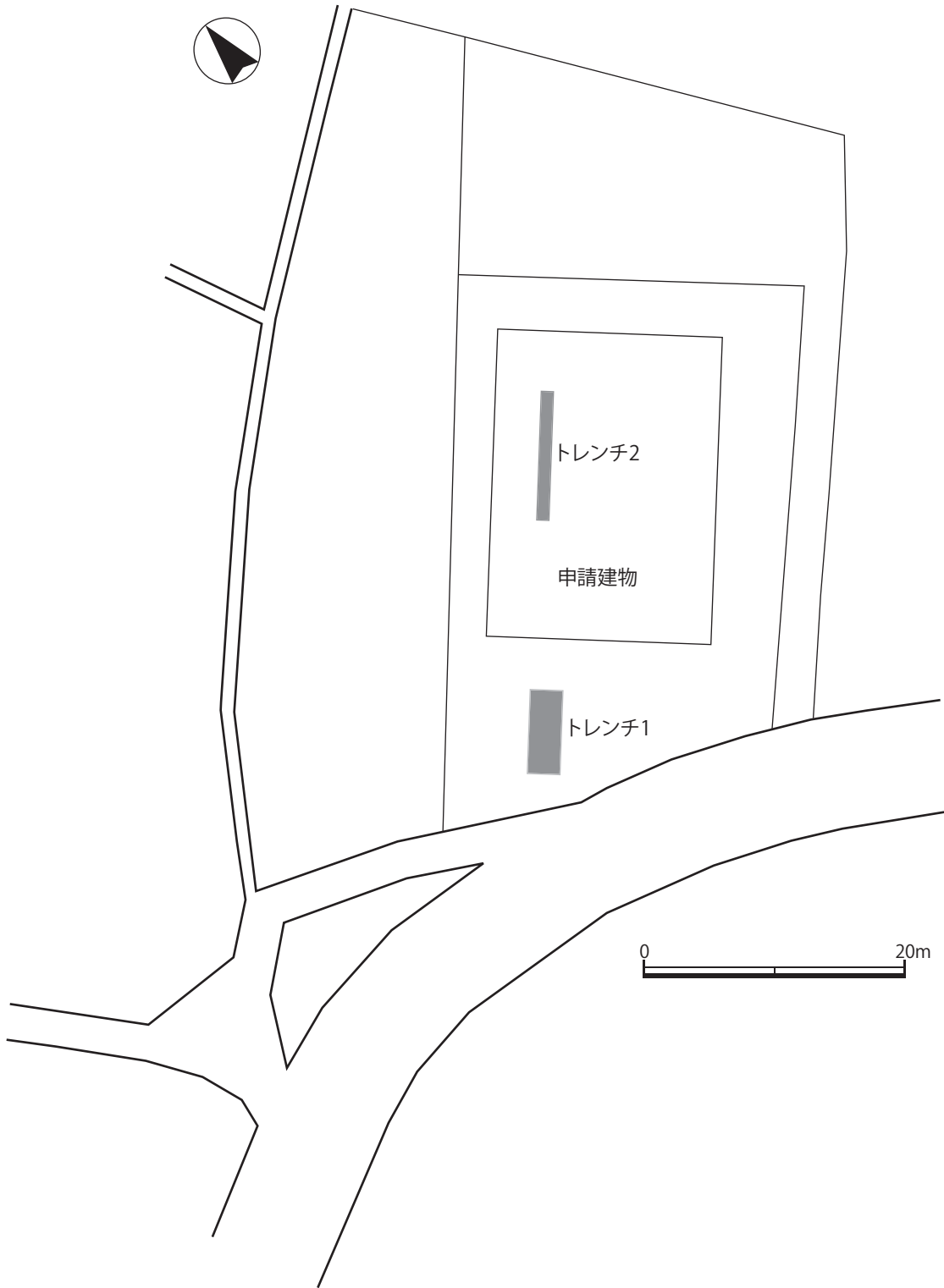
調査担当 関口慶久

調査概要 開発対象地のうち、合併浄化槽埋設部分に 4.0m×1.5m のトレンチ 1 を、申請建物部分に 10.0m×1.0m のトレンチ 2 を設定し、重機により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチ 1 では、地表下 80cm で関東ローム層が検出され、攪乱より近世磁器が出土したが、遺構は確認されなかった。トレンチ 2 では地表下 80cm で関東ローム層が検出され、攪乱中より近世磁器が出土したが、遺構は確認されなかった。最終的な調査面積は 16.0 m<sup>2</sup> であった。遺構が確認されなかったため、慎重工事が相当であるとした。（関口）



第 42 図 経塚遺跡（第 3 地点）の位置





第43図 経塚遺跡（第3地点）のトレンチ配置

## 2-21 柁巷遺跡（第2地点）

所在地 水戸市田島町字柁巷 401-1 番地

開発面積 1,289.71 m<sup>2</sup>

調査期間 平成 19 年 3 月 8 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 関口慶久

調査概要 開発対象地のうち、合併浄化槽埋設部分に 2.6m×1.0m のトレンチ 1 を、申請建物部分に 1.5m×1.0m のトレンチ 2 を設定し、人力により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。

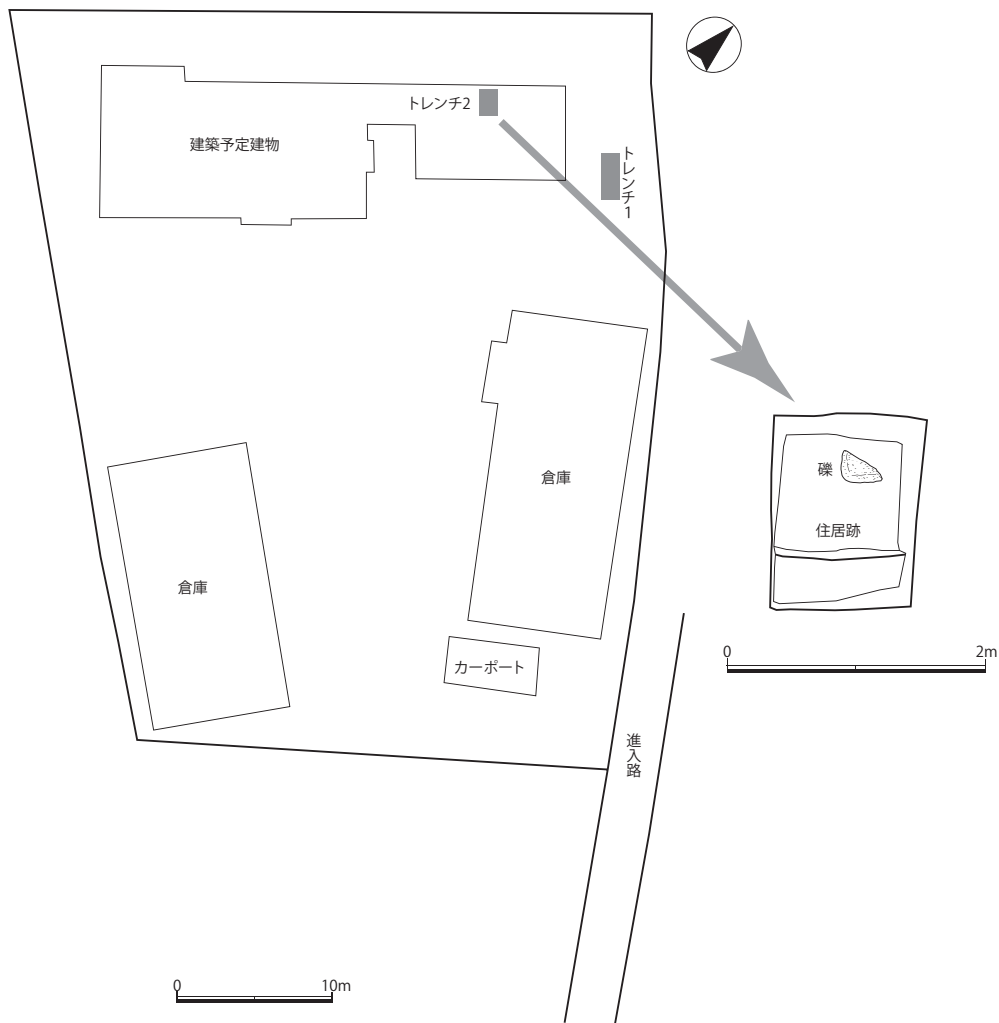
トレンチ 1 では、地表下 100cm で関東ローム層が検出され、土師器片や磁器片等の遺物が出土したが、遺構は確認されなかった。

トレンチ 2 では地表下 70cm で関東ローム層が検出され、出土土器から弥生時代中期後半～後期前半頃のものと思われる竪穴住居跡が 1 軒検出され、弥生土器片のほかに礫が床面から 1 点検出された。

最終的な調査面積は 4.1 m<sup>2</sup> であった。調査終了後に事業者と遺構の保存について協議を重ねた結果、盛土により 30cm 以上の保護層を確保できるとの結論に達したため、工事立会が相当であるとした。（関口）



第 44 図 柁巷遺跡（第 2 地点）の位置



第 45 図 柁巷遺跡（第 2 地点）のトレンチ配置

## 2-22 釜久保遺跡（第3地点）

所在地 水戸市大塚町 1612-17 番地

開発面積 297.61 m<sup>2</sup>

調査期間 平成 18 年 10 月 18 日

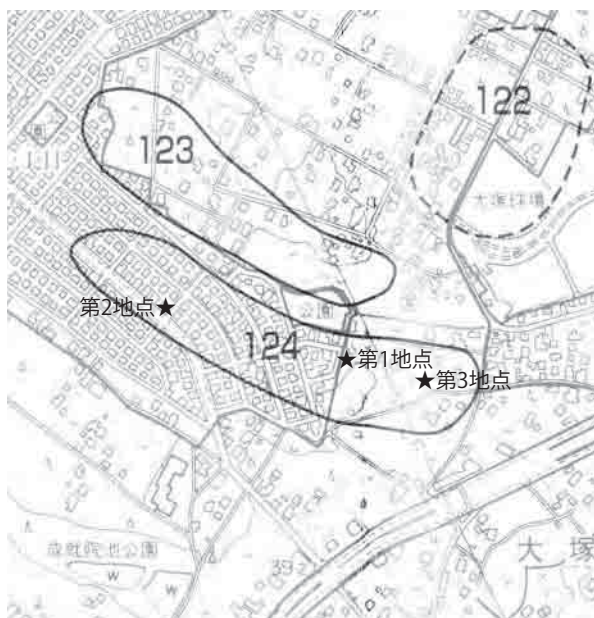
調査原因 個人住宅建築

調査担当 関口慶久

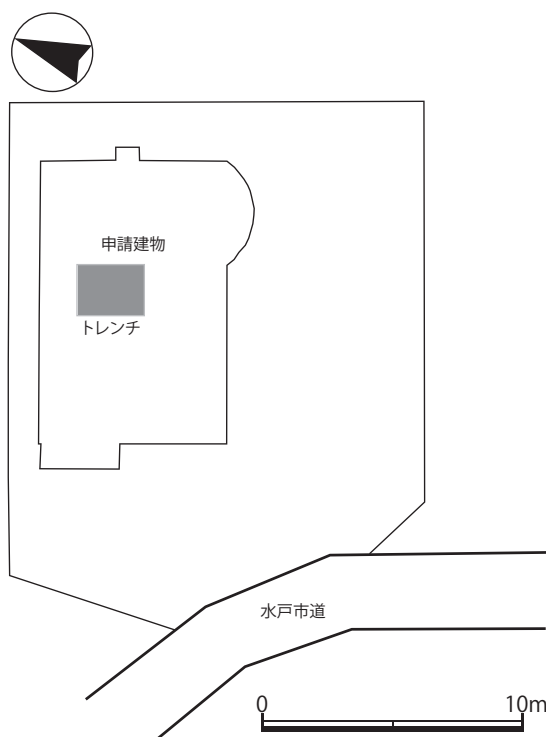
調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分に 2.5m×2.0m のトレンチを設定し、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。

その結果、地表下 85cm で関東ローム層が検出されたが、遺構は検出されなかった。縄文土器片が数点検出された。最終的な調査面積は 5.0 m<sup>2</sup>であった。遺構が確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。

(関口)



第 46 図 釜久保遺跡（第 3 地点）の位置



第 47 図 釜久保遺跡（第 3 地点）のトレンチ配置

## 2-23 試掘調査の出土遺物

試掘調査では21遺跡31地点で遺物が出土している(第1表)。ただし、遺物の大半は小破片であり、図化が困難なものが多い。以下では図化が可能であるものに限定して遺跡別・地点別に報告する。

### 1. 米沢町遺跡(第7地点)

1(第48図)は須恵器有台坏である。時期は8世紀後葉～9世紀前葉に位置づけられる。

### 2. 釜神町遺跡(第2地点)

2(第48図)は磁器の碗で、初期伊万里碗Bである。推定生産地は肥前、推定年代は1640年代～1650年代とみられる。3(第48図)は磁器の蓋で、肥前広東碗蓋Bである。推定生産地は肥前、推定年代は1830年代～1870年代とみられる。4(第48図)は磁器の皿である。推定生産地は在地産、時期は19世紀以降とみられる。5(第48図)は磁器の蕎麦猪口で、蕎麦猪口Bである。推定生産地は肥前、推定年代は1960年代～1780年代とみられる。6(第48図)は磁器の徳利である。推定生産地は瀬戸・美濃、時期は近代とみられる。

7(第48図)は陶器の土瓶蓋で、七面焼土瓶蓋である。推定生産地は七面製陶所、推定年代は1838年～1871年とみられる。8(第48図)は陶器の皿で、折縁皿である。推定生産地は七面製陶所の可能性が高く、時期は19世紀以降とみられる。

9・10(第48図)はかわらけで、時期は近世である。

11(第48図)は磁器の化粧瓶である。推定生産地は瀬戸・美濃、推定年代は1930年代～1945年とみられる。

12～15(第48図)は硝子製品で、12は糊瓶、13は化粧瓶である。

### 3. 堀遺跡(第5地点)

16(第49図)はかわらけである。底面には回転糸切りの痕跡が残されている。時期は近世以降とみられる。

### 4. 堀遺跡(第9地点)

17(第49図)は須恵器無台坏、18・19(第49図)は須恵器蓋である。18は摘み部が環状を呈するタイプで端部を折り返しているが、折り返し面に浅い沈線が巡る。時期は8世紀前葉に位置づけられる。20～24(第49図)は須恵器甕の破片である。20は頸部の破片で、櫛歯状工具による波状文が2段以上施文されている。頸部波状文甕のうち、櫛描によるものは8世紀前葉から9世紀第2四半期にかけて普遍的に認められることから(佐々木2001)、時期を決定することは困難である。21～24は胴部の破片で、外面に平行線文叩き痕がみられる。

25・26(第49図)は土師器無台坏である。25は底部に手持ちへら削りの痕跡が残されており、内面は研磨処理が施されている。時期は10世紀前葉に位置づけられる。26は内面研磨黒色処理が施されており、時期は9世紀後葉に位置づけられる。

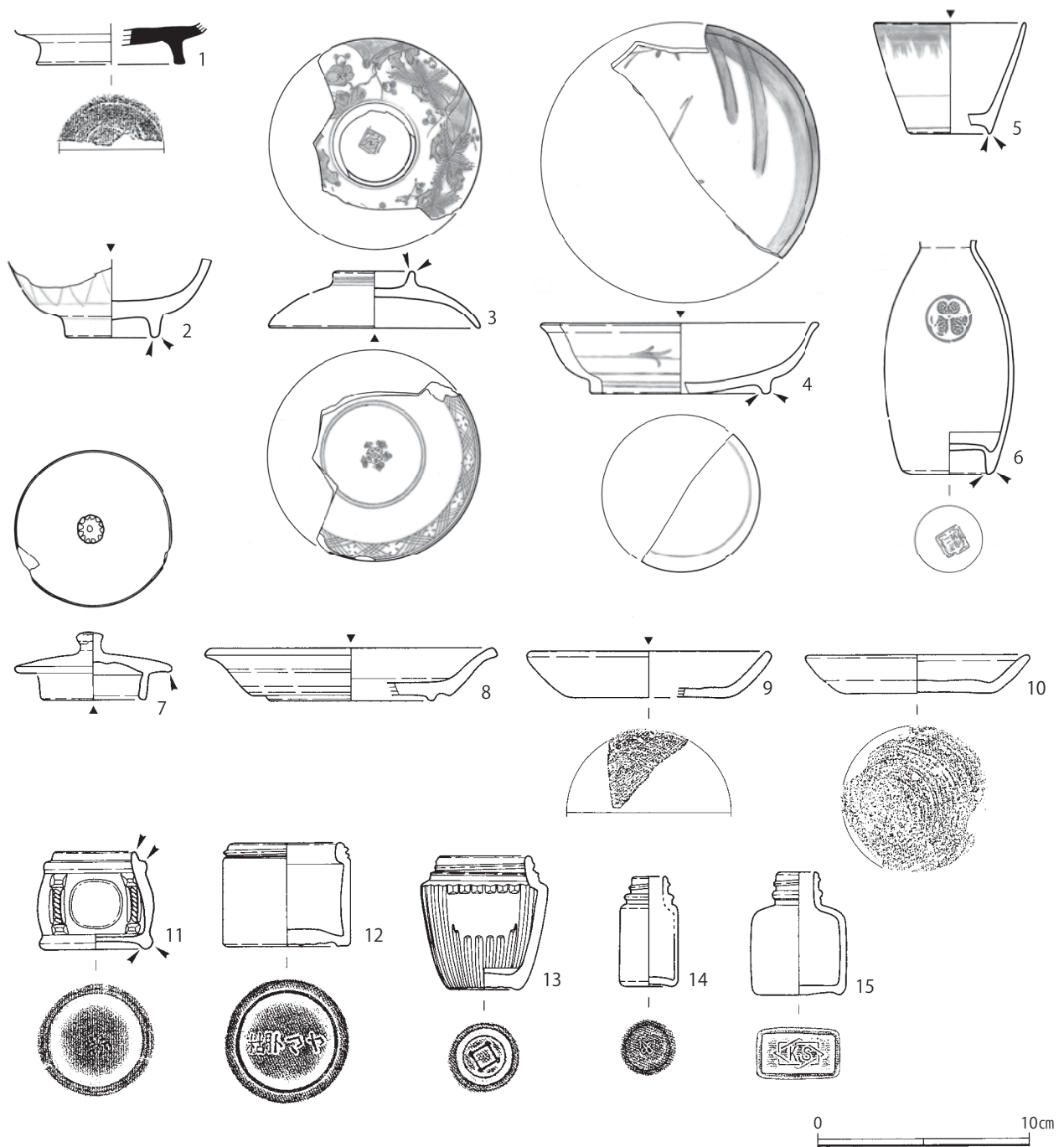
27・28(第49図)は平瓦の破片である。27は割れ口に粘土紐の接合痕が認められることから、粘土紐を輪積みあるいは巻き上げる泥条版築技法によって製作されている。凹面・凸面ともにナデ整形により接合痕を消している。28は凸面に長縄叩きの痕跡を残す平瓦である。凹面には糸切り痕と布目圧痕が認められることから、凸型成形台を用いた一枚作りによるものとみられる。

### 5. 堀遺跡(第10地点)

29(第49図)は須恵器有台坏である。内面見込みには重ね焼きの痕跡が残されている。時期は9世紀前葉に位置づけられる。

### 6. 下ノ内遺跡(第1地点)

30(第50図)は磁器の碗で、端反碗Aである。推定生産地は瀬戸・美濃、推定年代は1810年代～1820年代



第48図 試掘調査の出土遺物（1）

（1: 米沢町遺跡第7地点, 2～15: 釜神町遺跡第2地点）

とみられる。

7. 西原古墳群（第10地点）

31（第50図）は須恵器有台坏である。時期は8世紀後葉～9世紀前葉に位置づけられる。

8. 西原古墳群（第11地点）

32（第50図）は土師器甕である。いわゆる常総型に分類されるもので、時期は8世紀代とみられる。33（第50図）は須恵器無台坏である。底部に二次底部面を持つもので、時期は8世紀前葉～中葉に位置づけられる。

#### 9. 坏遺跡（第4地点）

34（第50図）は須恵器壺・瓶類である。時期は8～9世紀頃に位置づけられる。

#### 10. 釜久保遺跡（第3地点）

35・36（第50図）は縄文土器の破片である。35は単節斜縄文LRを施文後、沈線文が施されている。36は口唇部に沈線が施され、外面に単節斜縄文LRと沈線文が施文されている。35・36は縄文時代後期前葉の「堀之内1式」であろう。

#### 11. 渡里町遺跡（第3地点）

37（第50図）は縄文土器で、内外面に条痕文が施されている。縄文時代早期後葉に位置づけられる。

38～40（第50図）は土師器無台坏である。底面には回転糸切り痕が残されている。41・42（第50図）は土師器足高高台椀である。41は体部外面に横位の方向に「太方」とヘラ書き<sup>1)</sup>され、内面は研磨黒色処理が施されている。38～42は、佐々木義則氏による土師器碗の形式変遷案（佐々木 1999）に対比すると、東茨城郡城里町（旧常北町）青木遺跡198号土坑出土の供膳土器群と同時期の10世紀第4四半期頃に位置づけられよう。

#### 12. 台渡里遺跡（第31次調査）

43（第50図）は縄文土器の胴部片である。単節斜縄文LRが縦位に施文されている。時期は縄文時代中期であろうか。44（第50図）は須恵器有台坏もしくは盤である。時期は8世紀前葉に位置づけられる。

#### 13. 経塚遺跡（第3地点）

45（第50図）は磁器の碗で、端反碗Dである。推定生産地は瀬戸・美濃、推定年代は1850年代～1860年代とみられる。

#### 14. 柁巷遺跡（第2地点）

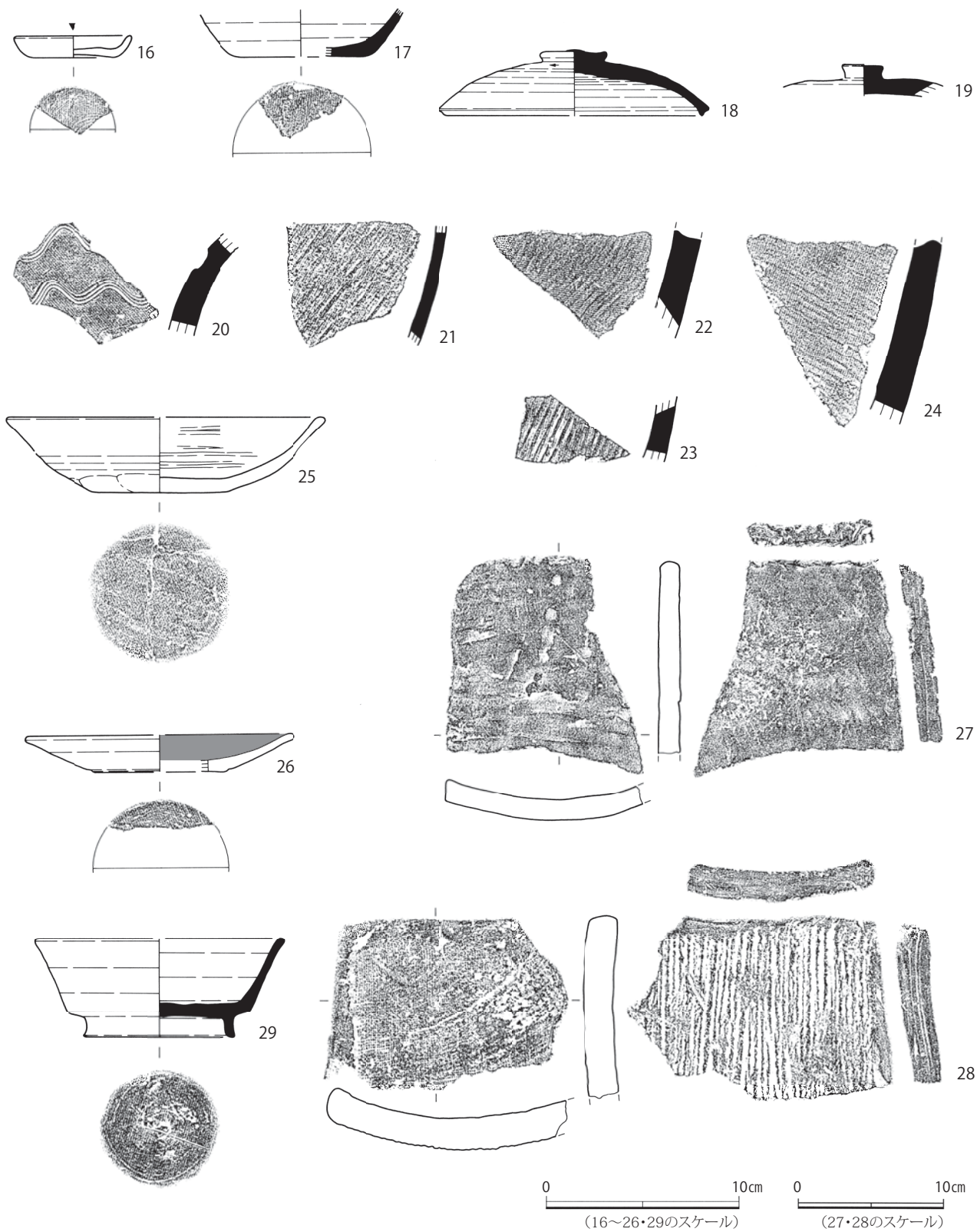
46～48（第50図）は竪穴住居跡から出土した弥生土器である。46は付加条第1種LR+2R、47は付加条1種RL+2L、48はLをZ巻きした原体（軸縄不明）による縄文が施されている。時期は弥生時代中期後半から後期前半に位置づけられる。

（色川・川口）

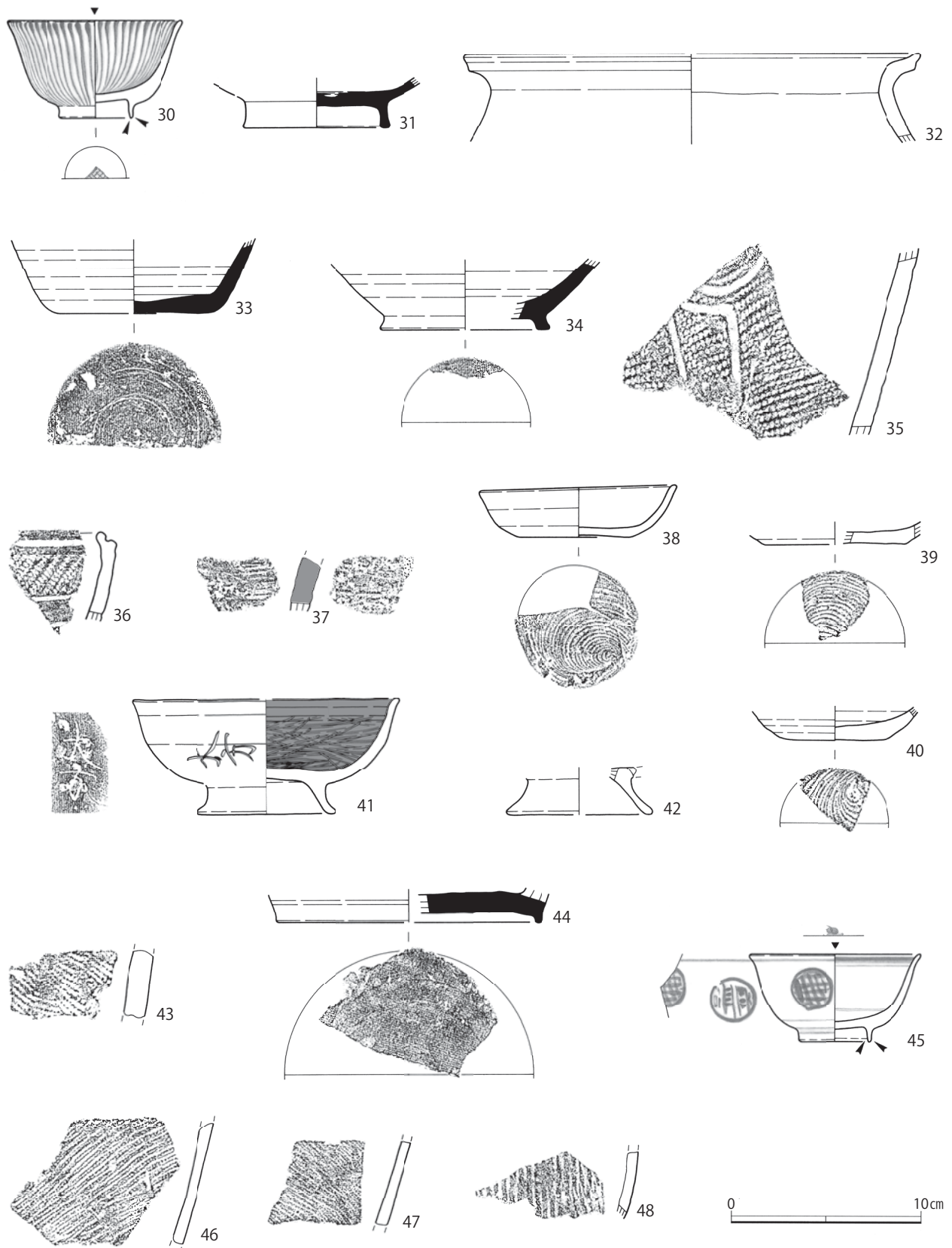
#### 註

1) 本報告では、土器や瓦の焼成前の生乾きの段階で工具を用いて器面に記銘したものを「ヘラ書き」、焼成後に工具を用いて器面を削る形で記銘したものを「線刻」として区別する。





第49図 試掘調査の出土遺物（2）（網部分は黒色処理）  
 （16：堀遺跡第5地点，17～28：堀遺跡第9地点，29：堀遺跡第10地点）



第 50 図 試掘調査の出土遺物（3）（網部分は黒色処理）

（30：下ノ内遺跡第 1 地点，31：西原古墳群第 10 地点，32・33：西原古墳群第 11 地点，34：坏遺跡第 4 地点，35・36：釜久保遺跡第 3 地点，37～42：渡里町遺跡第 3 地点，43・44：台渡里遺跡第 31 次調査，45：経塚遺跡第 3 地点，46～48：柊巷遺跡第 2 地点）

第3表 試掘調査出土遺物観察表

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形細別	法量 (cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	備考
					口径	底径	器高						
48	1	米沢町遺跡 (第7地点)	—	須恵器・有台坏	—	(7.0)	[1.9]	ロクロ水挽き成形	1/4	長石・石英	良好	5Y5/1(灰)	8世紀後葉～9世紀前葉
	2	釜神町遺跡 (第2地点)	トレンチ1	磁器・碗 初期伊万里碗B	—	(4.4)	[3.7]	轆轤成形/染付/畳付 無軸, 外面「一重網目文」, 高台部一重圏線	1/2 以下				肥前, 1640年代～ 1650年代
	3	釜神町遺跡 (第2地点)	トレンチ3	磁器・蓋 肥前広東碗蓋B	受部径 (10.0)	上面径 (3.9)	器高 2.7	轆轤成形/染付/畳付 無軸, 内面口縁部「四方禪文」, 見込み二重圏線・五弁花, 外面岩・梅樹・松文, 高台脇一重圏線, 高台部二重圏線, 底裏銘二重角棒「渦福」	1/2 以上				肥前, 1830年代～ 1870年代
	4	釜神町遺跡 (第2地点)	トレンチ1	磁器・皿	(13.2)	(8.5)	3.3	轆轤成形/陶胎染付・ 白土化粧/畳付無軸, 口鏝, 内面文様あり, 裏文様唐草文, 高台脇 二重圏線, 高台部二重 圏線, 高台内一重圏線 /漆接ぎあり	1/2 以下				在地産, 19世紀以降
	5	釜神町遺跡 (第2地点)	—	磁器・蕎麦猪口 蕎麦猪口B	(7.2)	(4.0)	5.2	轆轤成形/染付/畳付 無軸, 外面雨降り文・ 一重圏線, 高台部一重 圏線/漆接ぎあり	破片				肥前, 1690年代～ 1780年代
	6	釜神町遺跡 (第2地点)	トレンチ2	磁器・徳利	—	4.3	[11.0]	轆轤成形/上色絵(緑) /畳付無軸, 外面「三 葉葵」, 底裏銘「不二 陶器」	1/2 以上				瀬戸・美濃か, 近 代
	7	釜神町遺跡 (第2地点)	—	陶器・土瓶蓋 七面焼土瓶蓋	最大径 7.4	受部径 (4.9)	器高 3.2	轆轤成形/焼締/摘み 上部菊花形型推貼付け /灰軸・外面白土化粧 /受け部・内面無軸	ほぼ 完形				七面製陶所, 1838 年～1871年
	8	釜神町遺跡 (第2地点)	トレンチ2	陶器・皿 折縁皿	(13.8)	(7.7)	2.5	轆轤成形/灰軸, 貫入 あり	破片				七面製陶所か, 19 世紀以降
	9	釜神町遺跡 (第2地点)	トレンチ2	土器・かわらけ 中・土師質	(11.6)	(7.8)	2.2	轆轤成形, 糸切底(右)	1/8		普通	10YR7/4 (にぶい黄 橙)	近世
	10	釜神町遺跡 (第2地点)	トレンチ1	土器・かわらけ 中・瓦質	(10.6)	7.2	1.8	轆轤成形, 糸切底(右) /内外面煤付着	1/2		良好	10YR2/1 (黒)	近世
	11	釜神町遺跡 (第2地点)	トレンチ1	磁器 化粧瓶	3.8	4.8	4.6	底部に統制番号「岐 720」	完形				瀬戸・美濃, 1930 年代～1945年
	12	釜神町遺跡 (第2地点)	トレンチ3	ガラス 糊瓶	5.4	6.0	4.9	緑色透明/1mm以下の 気泡全体に含む/回転 キャップ/底部に陽刻 「ヤマト糊」	完形				
	13	釜神町遺跡 (第2地点)	トレンチ1	ガラス 化粧瓶	4.5	3.4	6.3	紫色透明/回転キャッ プ/底部に商標陽刻	完形				
	14	釜神町遺跡 (第2地点)	トレンチ3	ガラス	1.7	2.8	5.2	無色透明/回転キャッ プ/底部に商標陽刻	完形				
	15	釜神町遺跡 (第2地点)	トレンチ3	ガラス	2.0	4.0	5.8	青色透明/回転キャッ プ/3mmの気泡を含む /底部に陽刻「KS」	完形				
49	16	堀遺跡 (第5地点)	トレンチ2	土器・かわらけ 小・土師質	(6.0)	(6.4)	1.1	轆轤成形, 糸切底	1/2 以下	石英・赤 色粒	普通	7.5YR6/6 (橙)	近世以降(明治以 降か)
	17	堀遺跡 (第9地点)	トレンチ2	須恵器・無台坏	—	(7.0)	[2.4]	ロクロ水挽き成形	1/12	長石・ 石英・ チャート 礫・海綿 状骨針	良好	7.5Y5/1 (灰)	
	18	堀遺跡 (第9地点)	トレンチ2	須恵器・坏蓋	(13.2)	—	3.4	ロクロ水挽き成形	1/4	長石・石 英・海綿 状骨針	良好	5Y4/1(灰)	8世紀前葉

49	19	堀遺跡 (第9地点)	トレンチ2	須恵器・坏蓋	—	—	[1.6]	ロクロ水挽き成形	1/6	長石・石英・海綿状骨針	良好	7.5Y5/1(灰)	8世紀後葉～9世紀前葉
	20	堀遺跡 (第9地点)	トレンチ2	須恵器・甕	—	—	—	櫛描波状文	—	長石・石英・海綿状骨針	良好	5Y3/1(オリープ黒)	
	21	堀遺跡 (第9地点)	トレンチ1	須恵器・甕	—	—	—	外面斜位平行線文叩き	—	長石・石英・海綿状骨針	良好	5Y6/1(灰)	
	22	堀遺跡 (第9地点)	トレンチ1	須恵器・甕	—	—	—	外面斜位平行線文叩き	—	長石・石英・海綿状骨針	良好	5Y5/1(灰)	
	23	堀遺跡 (第9地点)	トレンチ1	須恵器・甕	—	—	—	外面斜位平行線文叩き	—	長石・石英	良好	7.5Y4/1(灰)	
	24	堀遺跡 (第9地点)	トレンチ1	須恵器・甕	—	—	—	外面斜位平行線文叩き	—	長石・石英	良好	5Y5/1(灰)	
	25	堀遺跡 (第9地点)	トレンチ2	土師器・無台坏	(16.4)	7.0	3.9	ロクロ水挽き成形, 内面研磨処理	1/2	長石・石英	普通	2.5Y6/3(にぶい黄)～2.5Y3/2(黒褐)	10世紀前葉
	26	堀遺跡 (第9地点)	トレンチ1	土師器・無台坏	(13.8)	(7.0)	1.9	ロクロ水挽き成形, 内面研磨黒色処理	1/12	長石・石英・海綿状骨針	普通	10YR6/4(にぶい黄橙)・7.5Y2/1(黒)	9世紀後葉
	27	堀遺跡 (第9地点)	トレンチ1	平瓦	全長 15.3	厚さ 1.5	重量 405.0	凹面・凸面痕跡ナデ	—	長石・石英・チャート礫・海綿状骨針	普通	2.5Y8/2(灰白)	
	28	堀遺跡 (第9地点)	トレンチ1	平瓦	全長 13.0	厚さ 2.1	重量 734.0	凹面痕跡糸切痕・布目圧痕, 凸面痕跡長縄叩き, 凹面上半に煤状の二次被熱痕あり。竈等の補強材に転用か。	—	長石・石英・海綿状骨針	普通	2.5Y6/3(にぶい黄)	
29	堀遺跡 (第10地点)	トレンチ4 住居跡	土師器・有台坏	(12.8)	7.8	5.1	ロクロ水挽き成形 内面見込みに重ね焼きの痕跡あり	1/2	長石・石英・海綿状骨針	良好	7.5Y5/1(灰)	9世紀前葉	
50	30	下ノ内遺跡 (第1地点)	—	磁器・碗 端反碗A	(9.1)	(3.9)	5.2	轆轤成形/染付/畳付無釉, 内外面縦稿文, 底裏銘あり	1/2 以下				瀬戸・美濃, 1810年代～1820年代
	31	西原古墳群 (第10地点)	—	須恵器・有台坏	—	7.7	[2.6]	ロクロ水挽き成形	1/2	長石・石英	良好	2.5YR3/3(暗赤褐)～7.5YR4/3(褐)・7.5YR6/4(にぶい橙)	8世紀後葉～9世紀前葉
	32	西原古墳群 (第11地点)	トレンチ1	土師器・甕	(24.0)	—	[4.8]		1/12	長石・石英・白雲母	良好	5YR6/6(橙)	8世紀
	33	西原古墳群 (第11地点)	トレンチ1	須恵器・無台坏	—	(8.0)	[3.9]	ロクロ水挽き成形	1/6	長石・石英・海綿状骨針	良好	7.5Y5/1(灰)	8世紀前葉～中葉
	34	坏遺跡 (第4地点)	トレンチ2	須恵器・壺・甗類	—	(9.0)	[3.7]	ロクロ水挽き成形	1/12	長石・石英	良好	2.5Y5/1(黄灰)	8～9世紀
	35	釜久保遺跡 (第3地点)	—	縄文土器	—	—	—	単節斜縄文L R, 沈線文	—	長石・石英	良好	10YR5/3(にぶい黄褐)～10YR2/1(黒)	縄文時代後期前葉 「堀之内1式」
	36	釜久保遺跡 (第3地点)	—	縄文土器	—	—	—	口唇部沈線文, 単節斜縄文L R, 沈線文	—	長石・石英・海綿状骨針	良好	10YR5/4(にぶい黄褐)・2.5Y4/1(黄灰)	縄文時代後期前葉 「堀之内1式」

50	37	渡里町遺跡 (第3地点)	トレンチ2	縄文土器	—	—	—	内外面条痕文	—	繊維	普通	7.5YR5/4 (にぶい 褐) ~ 10YR5/4 (にぶい 黄褐)・ 7.5YR6/4 (橙)	縄文時代早期後葉
	38	渡里町遺跡 (第3地点)	トレンチ2	土師器・無台坏	10.4	6.1	2.6	ロクロ水挽き成形	1/2	長石・石 英	良好	7.5YR6/6 (橙) ~ 2.5Y3/1 (黒褐)	10世紀第4四半期
	39	渡里町遺跡 (第3地点)	トレンチ2	土師器・無台坏	—	(7.4)	[1.2]	ロクロ水挽き成形	1/12	長石・石 英	良好	5YR5/6 (明赤褐)	10世紀第4四半期
	40	渡里町遺跡 (第3地点)	トレンチ2	土師器・無台坏	—	(5.7)	[1.7]	ロクロ水挽き成形	1/12	長石・石 英	良好	7.5YR6/6 (橙)	10世紀第4四半期
	41	渡里町遺跡 (第3地点)	トレンチ2	土師器・足高 高台碗	(14.0)	7.2	6.0	外面に横位に「太方」 とへら書き、内面研磨 黒色処理	1/2	長石・石 英	良好	5YR5/6 (明赤 褐) ~ 7.5YR3/1 (黒褐)・ 10YR5/3 (にぶい 黄褐) ~ 10YR2/1 (黒)	10世紀第4四半期
	42	渡里町遺跡 (第3地点)	トレンチ2	土師器・足高 高台碗	—	(7.7)	[2.6]	ロクロ水挽き成形	1/4	長石・石 英	良好	10YR6/4 (にぶい 黄橙) ~ 10YR4/2 (灰黄褐)	10世紀第4四半期
	43	台渡里遺跡 (第31次)	—	縄文土器	—	—	—	単節斜縄文LRを縦位 に施文	—	長石・石 英	普通	10YR6/6 (明黄褐)	縄文時代中期か
	44	台渡里遺跡 (第31次)	—	須恵器・有台 坏もしくは盤	—	(14.0)	[1.8]	ロクロ水挽き成形	1/6	長石・石 英	良好	5YR5/1 (灰)	8世紀前葉
	45	経塚遺跡 (第3地点)	トレンチ2	磁器・碗 端反碗D	(9.0)	(3.8)	4.7	轆轤成形/染付/登付 無軸、内面口縁部帯・ 一重圏線、見込み二重 圏線・文様あり、外面 口縁部一重圏線、丸文、 高台脇一重圏線、高台 部二重圏線	1/2 以下				瀬戸・美濃、1850 年代~1860年代
	46	終巷遺跡 (第2地点)	トレンチ2 住居跡	弥生土器	—	—	—	付加条第1種LR+2 R	—	長石・石 英	良好	2.5Y4/1 (黄灰)・ 10YR7/4 (にぶい黄 橙)	弥生時代中・後期
	47	終巷遺跡 (第2地点)	トレンチ2 住居跡	弥生土器	—	—	—	付加条第1種RL+2 L	—	長石・石 英	普通	2.5Y6/3 (にぶ い黄)・ 2.5Y3/2 (黒褐)	弥生時代中・後期
	48	終巷遺跡 (第2地点)	トレンチ2 住居跡	弥生土器	—	—	—	LをZ巻き(軸縄不明)	—	長石・石 英	普通	2.5Y3/1 (黒褐)・ 2.5Y6/4 (にぶい 黄)	弥生時代中・後期



### 第3章 開発に伴う確認調査

第2章で報告した試掘調査については、調査の結果、重要遺構等が確認されたことにより、その内容確認のため、確認調査に切り替えることもある。今年度は軍民坂遺跡（第2地点）と大串遺跡（第7地点）において確認調査を行った。大串遺跡（第7地点）の成果については、本発掘調査に移行したため、本報告書（小川・大淵・川口・木本・渥美・関口・株式会社京都科学 2008）にその成果を収録してある。参照願いたい。

確認調査は、遺構の広がりおよび遺構の内容確認のため、遺構の一部に対してサブトレンチを設定し、部分的な掘り下げも実施した。遺物は遺構確認面一括遺物、遺構出土遺物に区分し、取り上げを行った。

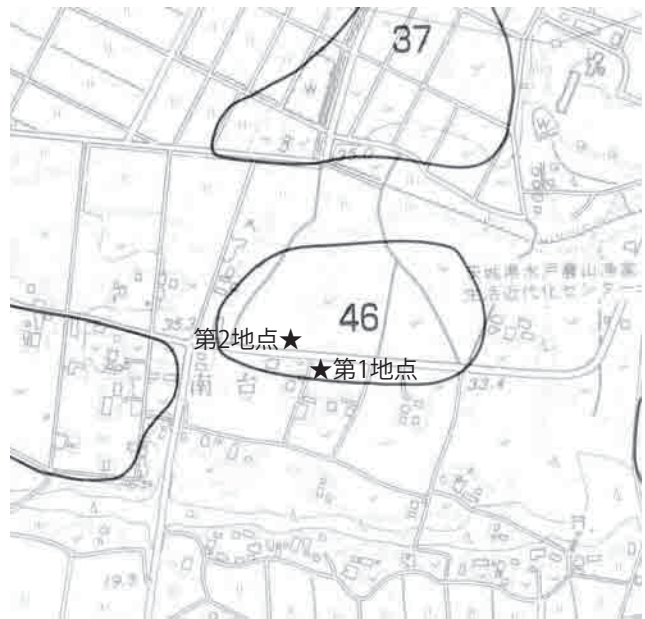
#### 3-1 軍民坂遺跡（第2地点）

所在地 水戸市上国井町字南台 3602-3 番地  
調査面積 140.87 m<sup>2</sup>  
調査期間 平成 18 年 7 月 26 日～ 27 日（1 次）  
平成 18 年 9 月 6 日～ 9 月 8 日（2 次）  
調査原因 個人住宅建築  
調査担当 新垣清貴

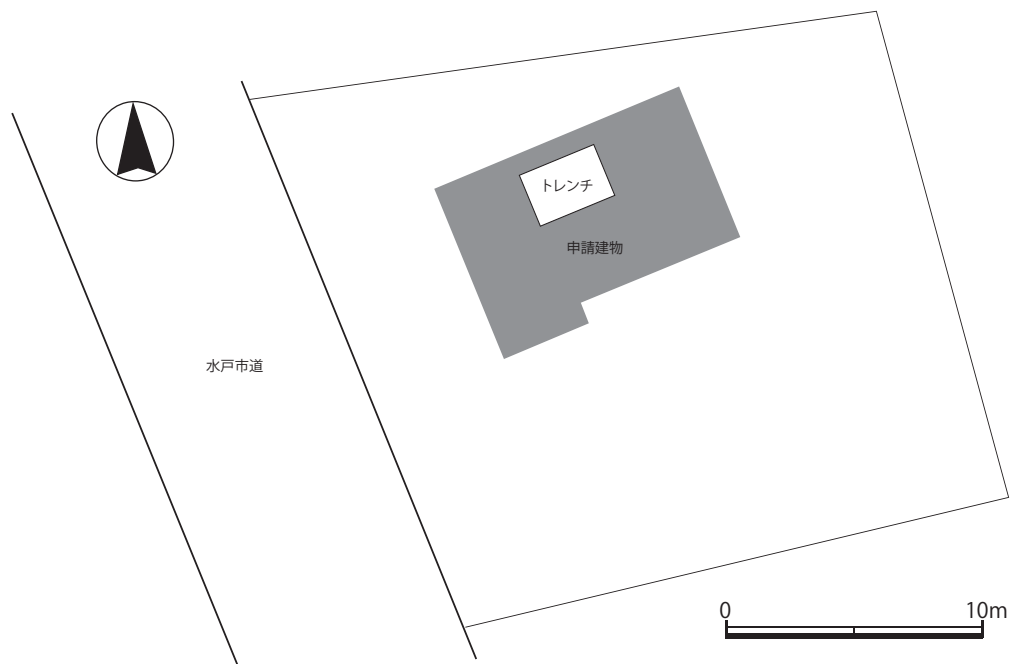
調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分に 2.5 m × 2.0 m のトレンチを設定し、人力により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。その結果、トレンチの東端に近い位置から縄文時代中期の土器を埋設した複式炉が確認され、多数の縄文土器・石器が出土した。遺構が確認されたものの、30 cm 以上の保護層が確保できるため、工事立会が相当であるとしたが、縄文時代を専門とする学識経験者に調査成果について助言を仰いだところ、このような炉址は県内でも調査例が少ない重要な遺構であり、炉址が住居跡内のどの位置に設置されているのか、炉址の底面に石敷きが施されているのか否か

を確認して欲しいとの助言を頂戴した。この助言を受け、事業者の確認調査の実施について申し入れをしたところ、理解と協力が得られたため、平成 18 年 9 月 6 日～ 8 日に内容確認のための確認調査を実施することとなった。

確認調査は、申請建物部分に設定

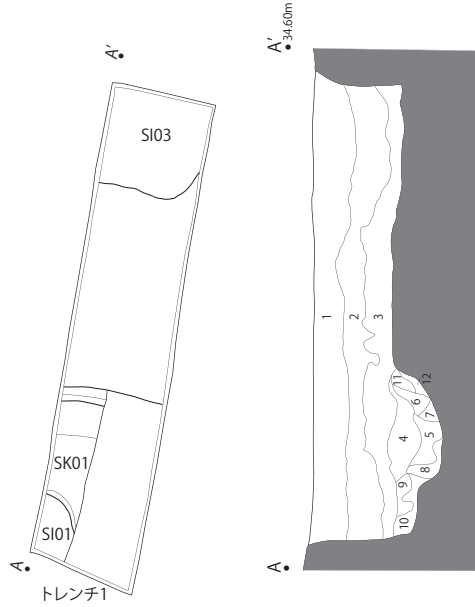


第 51 図 軍民坂遺跡（第 2 地点）の位置



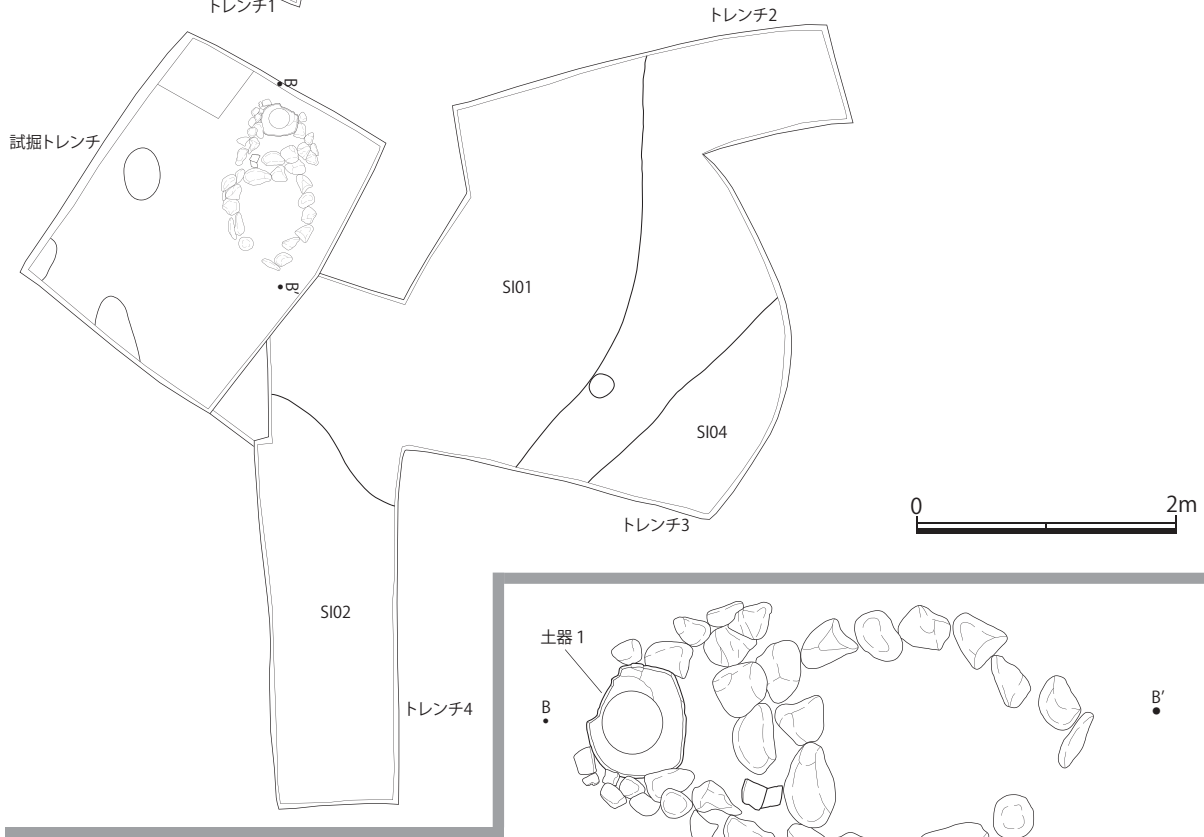
第 52 図 軍民坂遺跡（第 2 地点）のトレンチ配置





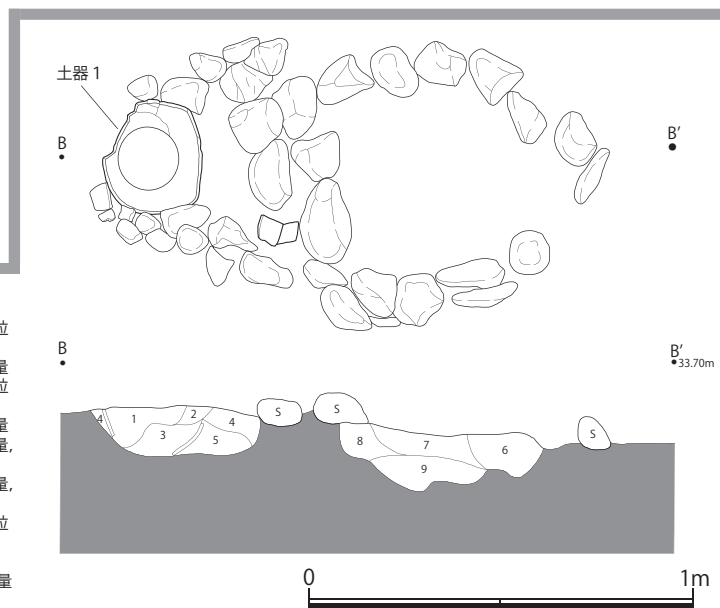
トレンチ1 A-A'断面図堆積覆土

- 1 10YR2/3 黒褐 粘性弱 締まり中 ローム粒微量, 白色粒・炭化粒中量
- 2 10YR2/2 黒褐 粘性弱 締まり弱 ローム粒・白色粒・焼土粒微量
- 3 10YR3/3 暗褐 粘性弱 締まり強 ローム粒・七本桜パミス中量, 焼土粒・炭化粒少量
- 4 10YR2/3 黒褐 粘性弱 締まり中 径2cmロームブロック微量, 炭化粒少量, 七本桜パミス中量 (SK01覆土)
- 5 10YR3/4 暗褐 粘性弱 締まり中 ローム粒・炭化粒微量, 七本桜パミス中量 (SK01覆土)
- 6 10YR3/2 黒褐 粘性弱 締まり中 ローム粒中量, 七本桜パミス少量 (SK01覆土)
- 7 10YR3/3 暗褐 粘性弱 締まり中 ローム粒少量, 七本桜パミス微量 (SK01覆土)
- 8 10YR4/6 褐 粘性弱 締まり中 径2~5cmロームブロック中量, 七本桜パミス微量 (SK01覆土)
- 9 10YR3/3 暗褐 粘性弱 締まり中 径2~3cmロームブロック中量, 七本桜パミス少量 (SI01覆土)
- 10 10YR3/4 暗褐 粘性弱 締まり強 ローム粒中量, 炭化粒微量, 七本桜パミス少量 (SI01覆土)
- 11 10YR3/4 暗褐 粘性弱 締まり中 ローム粒中量, 焼土粒・炭化粒微量, 七本桜パミス少量 (SI01覆土)
- 12 10YR4/4 褐 粘性弱 締まり中 ローム粒少量, 焼土粒微量, 七本桜パミス中量 (SI01覆土)



第1号住居跡炉址堆積覆土

- 1 10YR3/2 黒褐 粘性中 締まりやや強 ローム粒中量, 焼土粒少量
- 2 10YR3/4 暗褐 粘性中 締まり強 ローム粒微量, 焼土粒少量
- 3 10YR4/4 褐 粘性やや強 締まり強 ローム粒多量, 焼土粒中量
- 4 10YR3/4 暗褐 粘性中 締まり中 ローム粒少量, 焼土粒中量
- 5 10YR3/3 暗褐 粘性中 締まりやや強 ローム粒・焼土粒多量, 焼土ブロック少量
- 6 10YR3/3 暗褐 粘性中 締まりやや強 ローム粒・焼土粒少量, 黒色土中量
- 7 10YR3/2 黒褐 粘性中 締まりやや強 ローム粒少量, 焼土粒多量, 炭化物微量
- 8 10YR3/4 暗褐 粘性中 締まり中 ローム粒・焼土粒少量
- 9 2.5YR4/8 赤褐 粘性弱 締まり強 ローム粒少量, 焼土粒多量



第53図 軍民坂遺跡 (第2地点) の遺構配置と第1号住居跡炉址

した試掘トレンチを拡張するとともに、試掘トレンチの北側に3.7 m × 0.8 mのトレンチ1を、試掘トレンチの側にトレンチ2～4を放射状に設定し、重機により遺構確認面まで掘削した。その結果、縄文時代の住居跡4基、時期不明の土坑1基とピット1基を確認した。以下、検出された遺構と遺物の詳細について記述する。

(新垣)

## 1. 住居跡の調査

### (1) 第1号住居跡(S101)

**遺構** 第1号住居跡は、西側で第2号住居跡と重複する。試掘トレンチとトレンチ1の一部を掘り下げたが、他のトレンチは遺構のプランを確認したのみである。トレンチで部分的に確認されているため、住居跡の規模及び主軸は明らかでない。平面形態は、遺構確認面におけるプランから円形が推定される。壁高は20 cmほどである。床面の硬化は認められなかった。ピットは3基検出されたが、確実に支柱穴と捉えられるものはなかった。

炉址は、石組炉内に土器埋設炉が組み合う「土器埋設石組炉」と、石組炉の複合形態である。どちらの装置もほぼ完全に遺存することから、併設と捉えられる。「土器埋設石組炉」は床面を約13 cm掘り込み、胴下部を欠いた土器を正位に設置している。覆土に焼土粒は見られるが、明瞭な炉床は形成されていない。石組炉は床面を約18 cm掘り込んでいる。覆土第9層が炉床に相当する。炉石には、設置面に焼痕が確認できるものがある。

**覆土の堆積と遺物の出土状況** 遺物には、床面直上から出土したものと、覆土から出土したものがある。床面直上の遺物には、炉石以外に土器1がある。土器1は、炉址から正位の状態で検出された(第53図)。覆土中の遺物には、土器22等がある。

**遺物** 出土した遺物には、土器511点(個体数)と石器3点がある(第54～56・62図)。

1(第54図)は深鉢形土器の口縁～胴部である。欠損部はほぼ平坦に整えられており、断面に摩滅が認められる。口縁部は波状口縁を呈する。文様が沈線文により区画されている。胴部は懸垂文間が無文の所謂「磨消縄文」。口縁部は横位回転、胴部は縦位回転で、単節斜縄文RLの縄文が施されている。2～20(第54図)は、深鉢形土器あるいは鉢形土器の口縁部である。文様が沈線文により区画されている。2・20は連弧文土器である。21(第54図)は隆帯が剥がれたような痕跡がある。

22～33(第55図)は、深鉢形土器の胴部である。22は沈線で楕円文が施文され、区画文内は単節斜縄文RLが充填されている。23は隆帯が剥がれたような痕跡がある。24～33は沈線文により文様が区画されている。

34～45(第56図)は深鉢形土器あるいは鉢形土器で、34～37は口縁部、38～45は胴部の破片である。文様が隆起線文により区画されている。46・47(第56図)は、深鉢形土器の口縁部である。単節斜縄文RLが横位に施されている。縄文は、単節斜縄文RLによる斜行縄文が多く、単節斜縄文LRも比較的多い。また、無節斜縄文や複節斜縄文もある。54・55(第56図)は、条線文が施された胴部の破片である。条線文は、櫛歯状工具もしくは刷毛状工具による。56～59(第56図)は、底部である。56は懸垂文間が無文の所謂「磨消縄文」である。

1～21・24～59は「加曾利E3式」、22・23は「大木9式」に相当する。

2(第62図)は石鏃の未製品で、オパール製である。背面と腹面に押圧剥離による二次加工痕がみられる。被熱しており、被熱による剥落の痕跡が認められる。12(第62図)は砥石である。自然面に顕著な研磨の痕跡がみとめられる。他に、安山岩の剥片も出土している(第6表)。

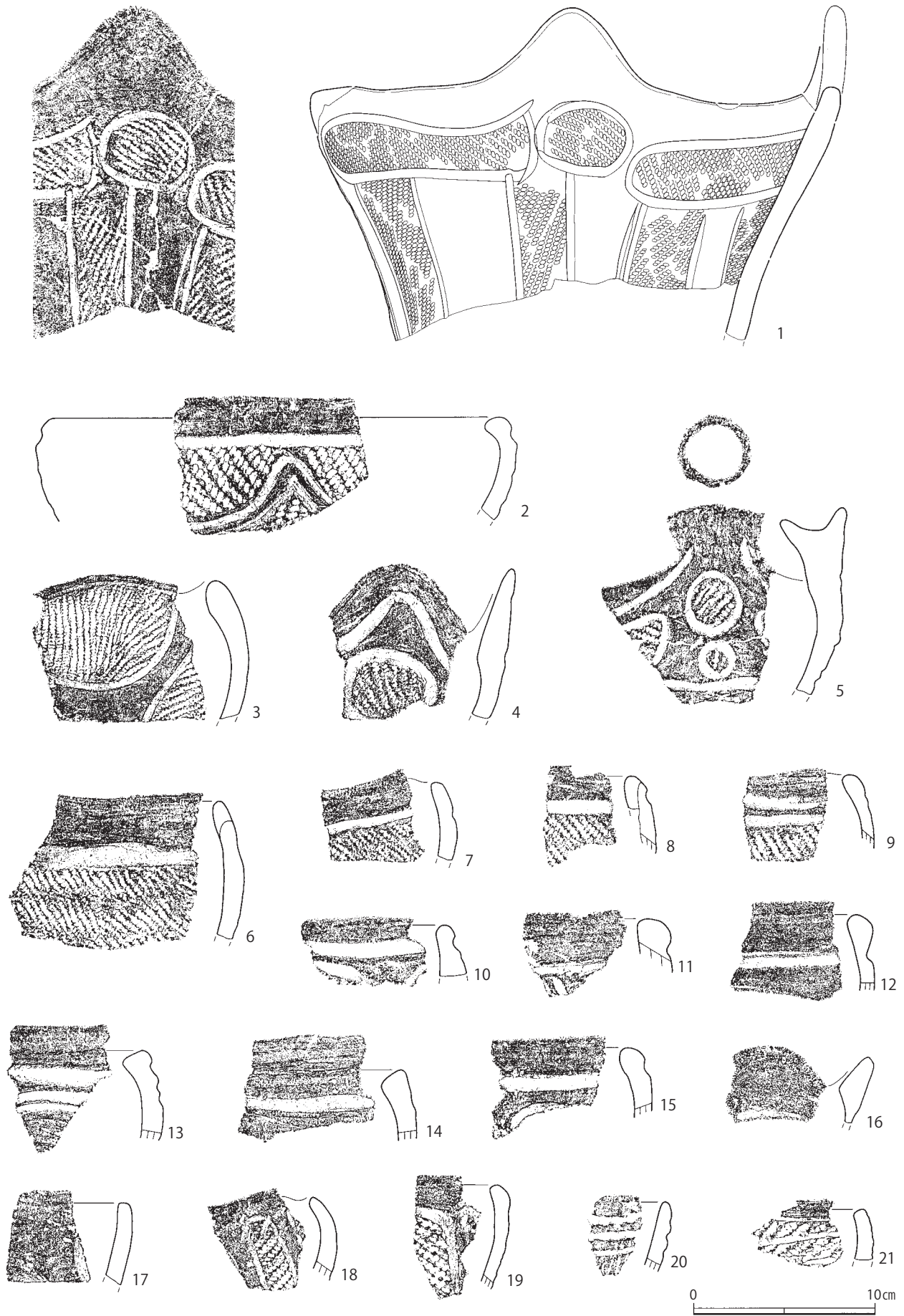
**小括** 第1号住居跡で検出された炉址は、目黒吉明氏により分類された「土器埋設複式炉」(目黒 1995)に該当する。炉石には、設置面に焼痕が確認できるものがあり、再利用の可能性がある。第1号住居跡は、炉址出土の土器から、縄文時代中期後葉「加曾利E3式」の時期に形成されたものと考えられる。

### (2) 第2号住居跡(S102)

トレンチ4で遺構のプランを確認したのみである。

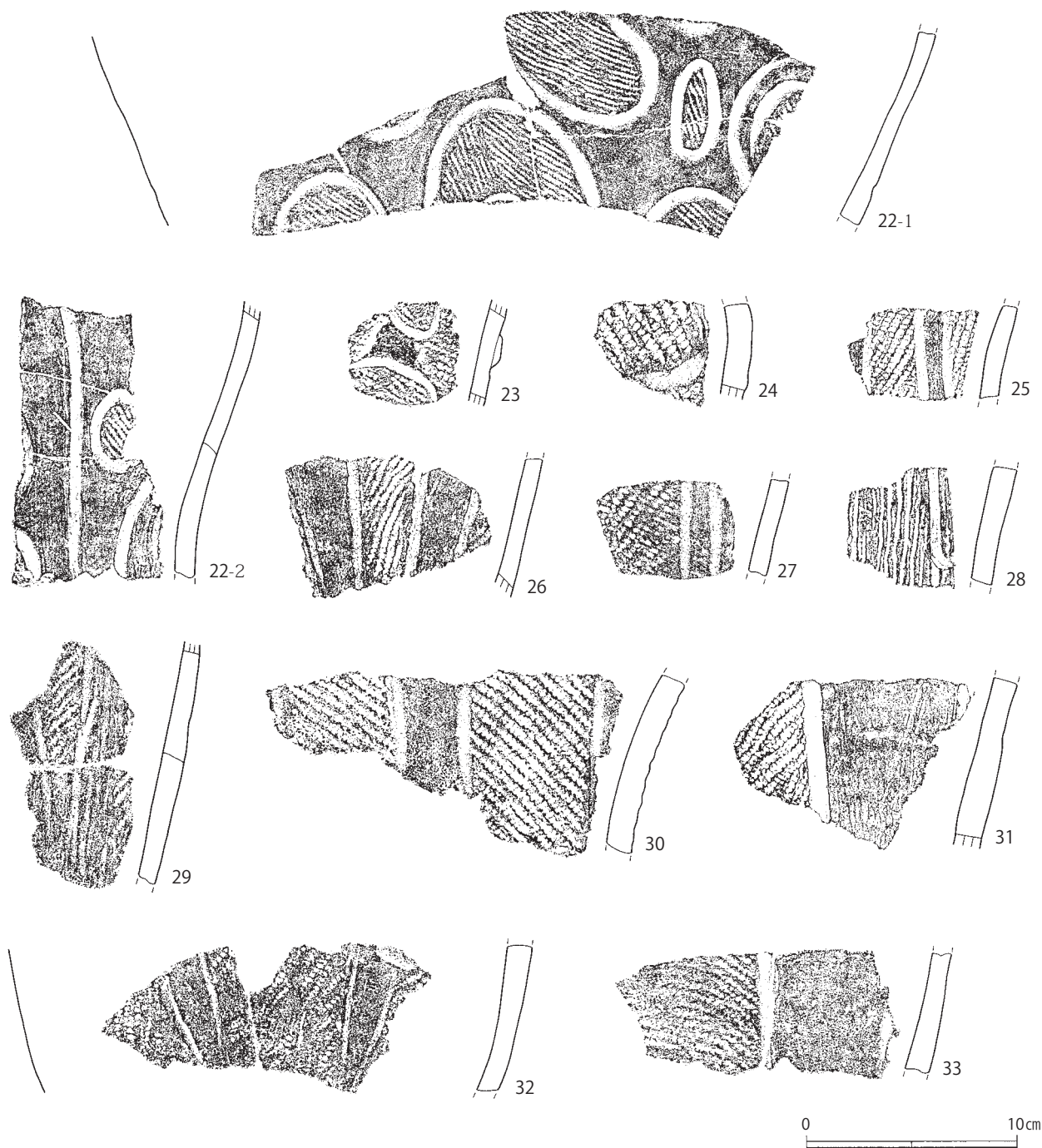
**遺物**(第57図) 第2号住居跡の遺物として報告するのは、遺構確認面において住居跡の範囲内から検出されたものである。覆土の遺物として捉えられるものであろう。出土した数量は、土器35点と石器1点である。

1～7は、深鉢形土器である。1は沈線で楕円文が施文され、区画文内に刺突文が施されている。2～4は沈線文、5は隆起線文により文様が区画されている。6は単節斜縄文RLが横位に施文されている。7は文様が隆起線文に



第 54 图 第 1 号住居跡出土遺物 (1)





第 55 図 第 1 号住居跡出土遺物 (2)

より区画されている。口縁部は幅狭の無文帯を形成し、外面に小突起が施されている。胴部は口縁部区画からの「U」字状文と逆「U」字状文が入り込む構成である。区画文内は、単節斜縄文LRが縦位に充填されている。1は「大木9式」、2～5は「加曾利E3式」、7は「加曾利E4式」に相当する。

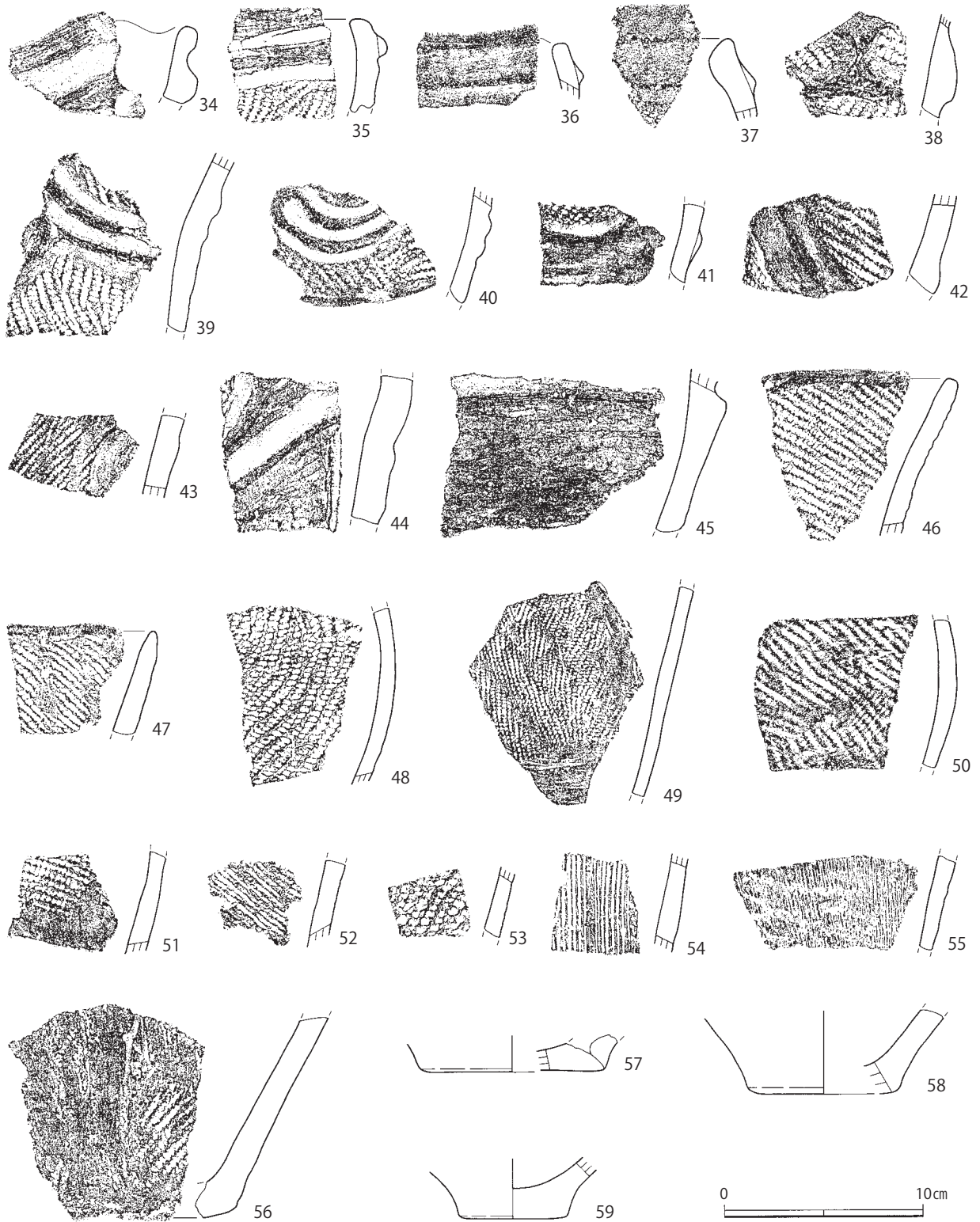
石器は、チャートの剥片が出土している(第6表)。

小括 遺構のプランを確認したのみで、時期を決定する資料に乏しいが、縄文時代中期後葉の「加曾利E3式」あるいは「加曾利E4式」の可能性が高い。

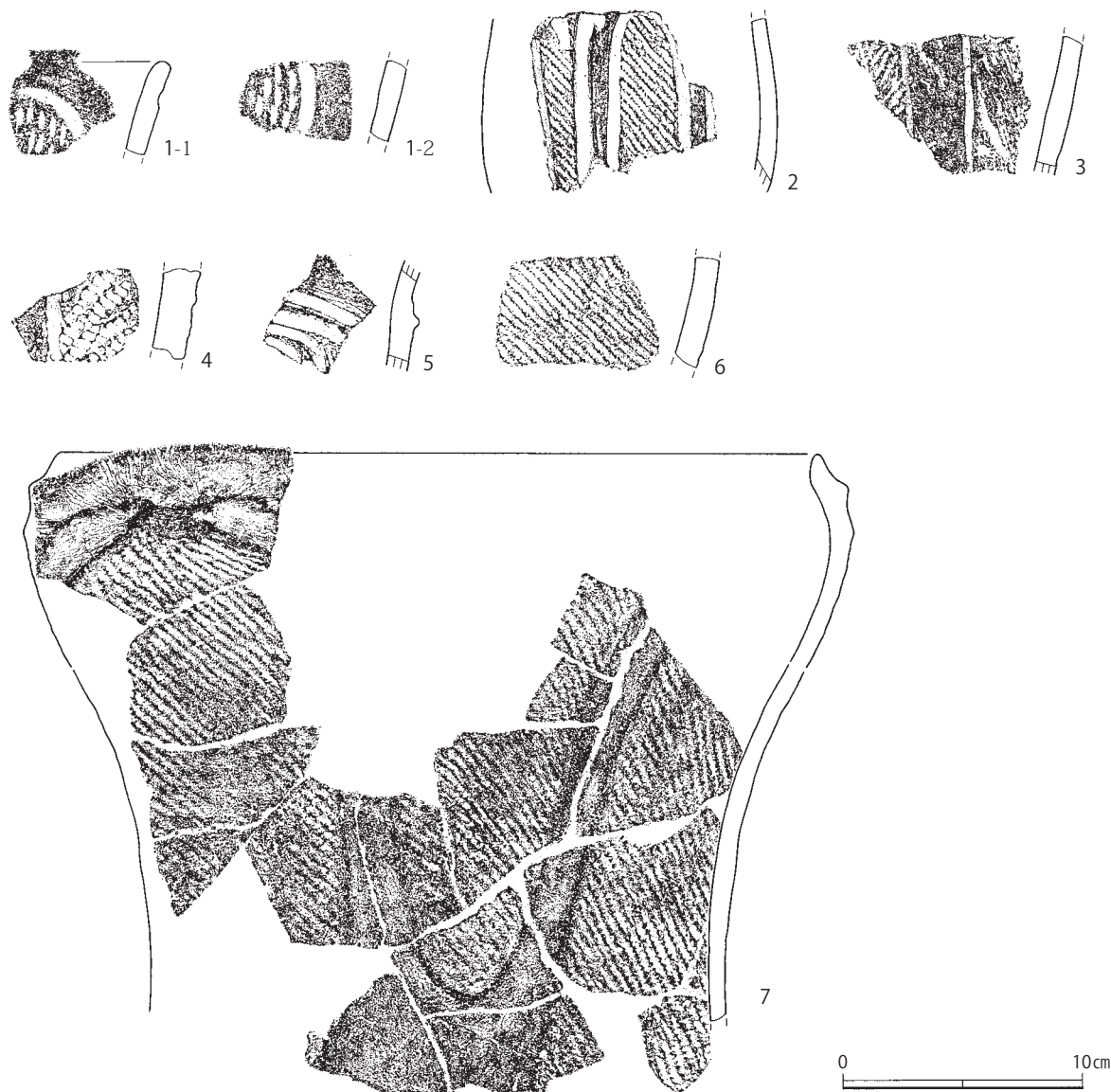
### (3) 第3号住居跡(S103)

トレンチ1の北端で遺構のプランを確認したのみである。

遺物 第3号住居跡の遺物として報告するのは、遺構確認面において住居跡の範囲内から検出されたもので



第 56 图 第 1 号住居跡出土遺物 (3)



第57図 第2号住居跡出土遺物

ある。覆土の遺物として捉えられるものであろう。出土した数量は、土器3点と石器2点である。

1 (第58図) は、鉢形土器の口縁部である。口縁部直下に1条の沈線を巡らし、以下に条線文を施文している。内外面に赤彩が施されている。「加曾利E3式」に相当する。

10 (第62図) は石皿あるいは砥石, 11 (第62図) は砥石である。いずれも破損品であるが、自然面に顕著な研磨の痕跡が認められる。

小括 遺構のプランを確認したのみで、時期を決定する資料に乏しいが、縄文時代中期後葉の「加曾利E3式」の可能性が高い。

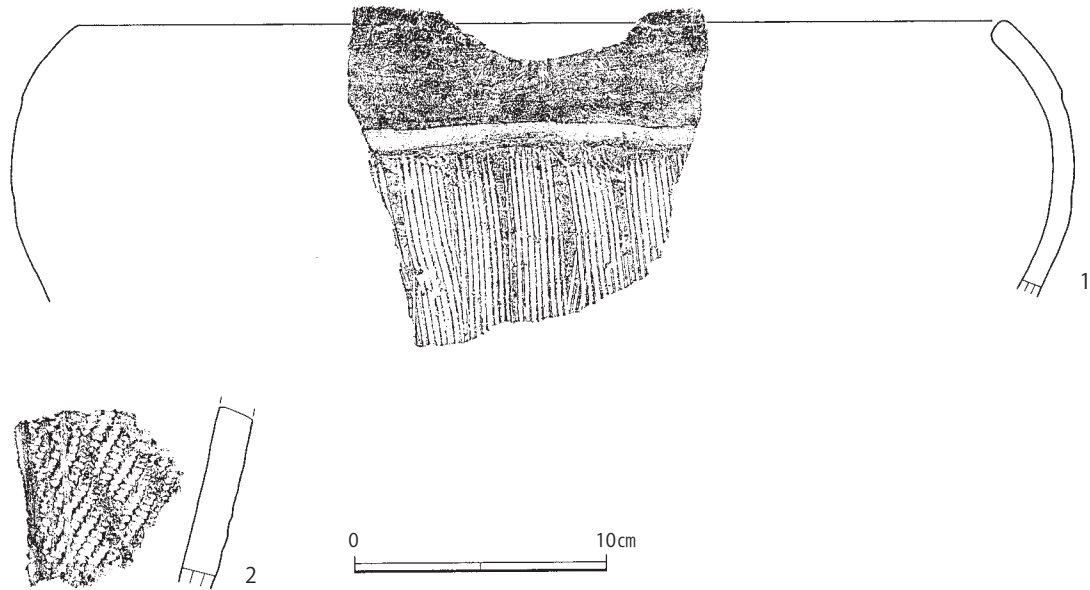
#### (4) 第4号住居跡 (S104)

トレンチ3の南端で遺構のプランを確認したのみである。

遺物 遺構確認面において住居跡の範囲内から、遺物は検出されていない。

小括 遺物は検出されていないが、覆土の特徴から、縄文時代の住居跡の可能性が高い。





第 58 図 第 3 号住居跡出土遺物

## 2. 土坑の調査

### (1) 第 1 号土坑 (SK01)

遺 構 第 1 号住居跡の壁際で検出された (第 53 図)。

遺 物 遺物は検出されなかった。

小 括 時期は、第 1 号住居跡の「加曾利 E 3 式」期以降と考えられる。

## 3. 遺構外の出土土器

第 1～4 号住居跡の範囲外から出土した土器を遺構外として報告する。

縄文土器 (第 59～61 図) 土製品を含む 1,013 点の縄文土器が出土している。

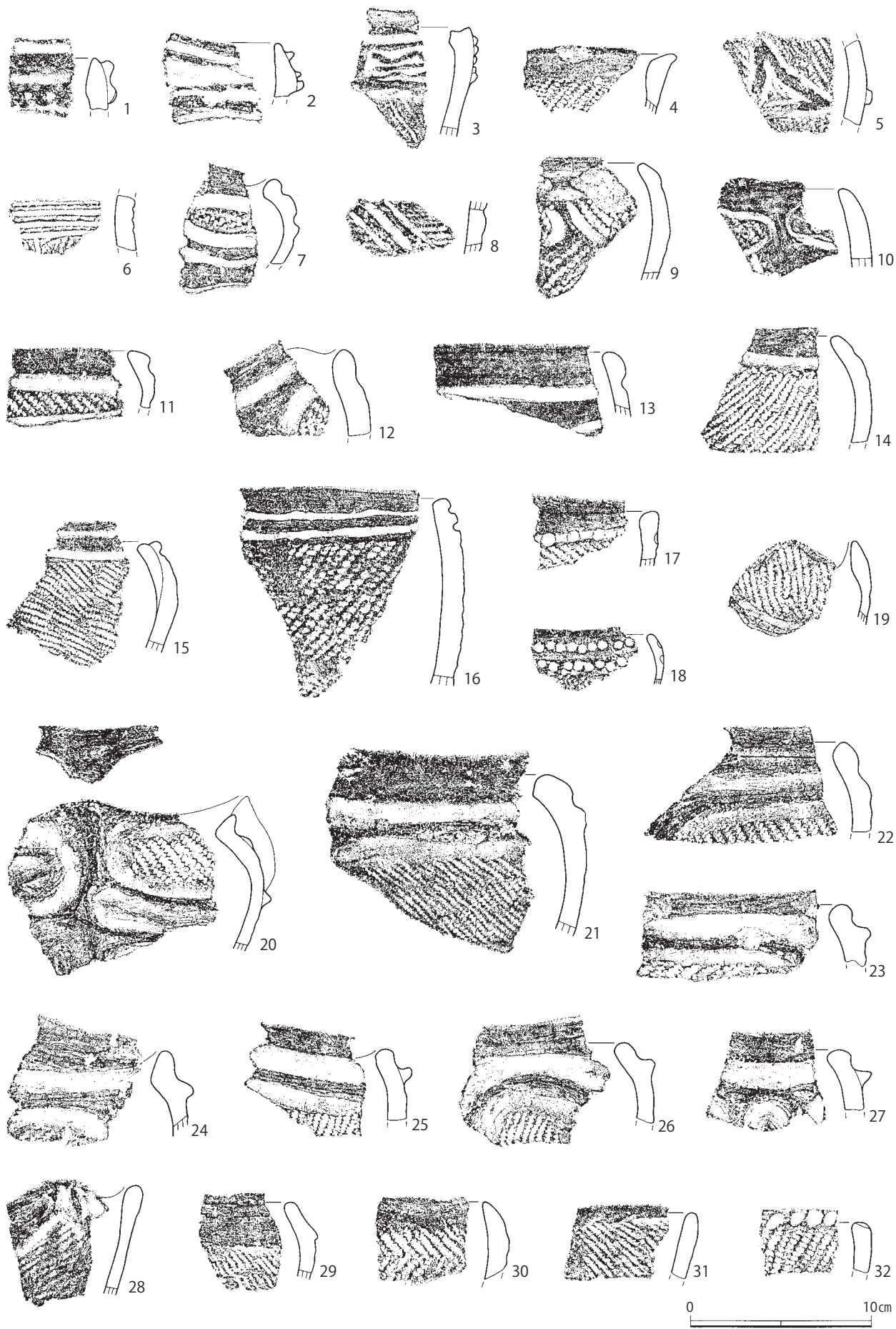
1～32 は、深鉢形土器あるいは鉢形土器で、1～4・7・9～32 は口縁部、5・6・8 は胴部の破片である。1 は外面に隆帯を貼り付け、下端に刻みを施している。2 は隆起線文で文様が施されている。3・5 は縄文を施文後、隆起線文で文様が施されている。4 は単節斜縄文 R L を縦位に施文している。6 は縄文の上に、沈線文が施されている。9～16・19 は沈線文、20～29 は隆起線文により文様が区画されている。17 は沈線文の上に刺突文が施されている。32 は口唇部に棒状工具による刻みが施され、外面に縄文が施文されている。1・2 は「加曾利 E 1 式」、3 は「大木 8 a 式」、4 は「加曾利 E 1 式」または「大木 8 a 式」、5 は「加曾利 E 1 式」または「大木 8 b 式」、6 は「大木 8 b 式」、7 は「加曾利 E 2 式」、8 は「加曾利 E 1 式」または「加曾利 E 2 式」、9～31 は「加曾利 E 3 式」に相当する。

33～48 は、深鉢形土器の胴部である。33～42 は沈線文、43～48 は隆起線文により文様が区画されている。「加曾利 E 3 式」に相当する。49 は貼付隆帯と粗い沈線文が施されている。「加曾利 E 3 式」または「曾利式」に相当する。50 は沈線文と条線文、51 は条線文が施されている。条線文は、櫛歯状工具もしくは刷毛状工具による。縄文は、単節斜縄文 R L による斜行縄文が多く、単節斜縄文 L R も比較的多い。また、無節斜縄文や複節斜縄文もある。

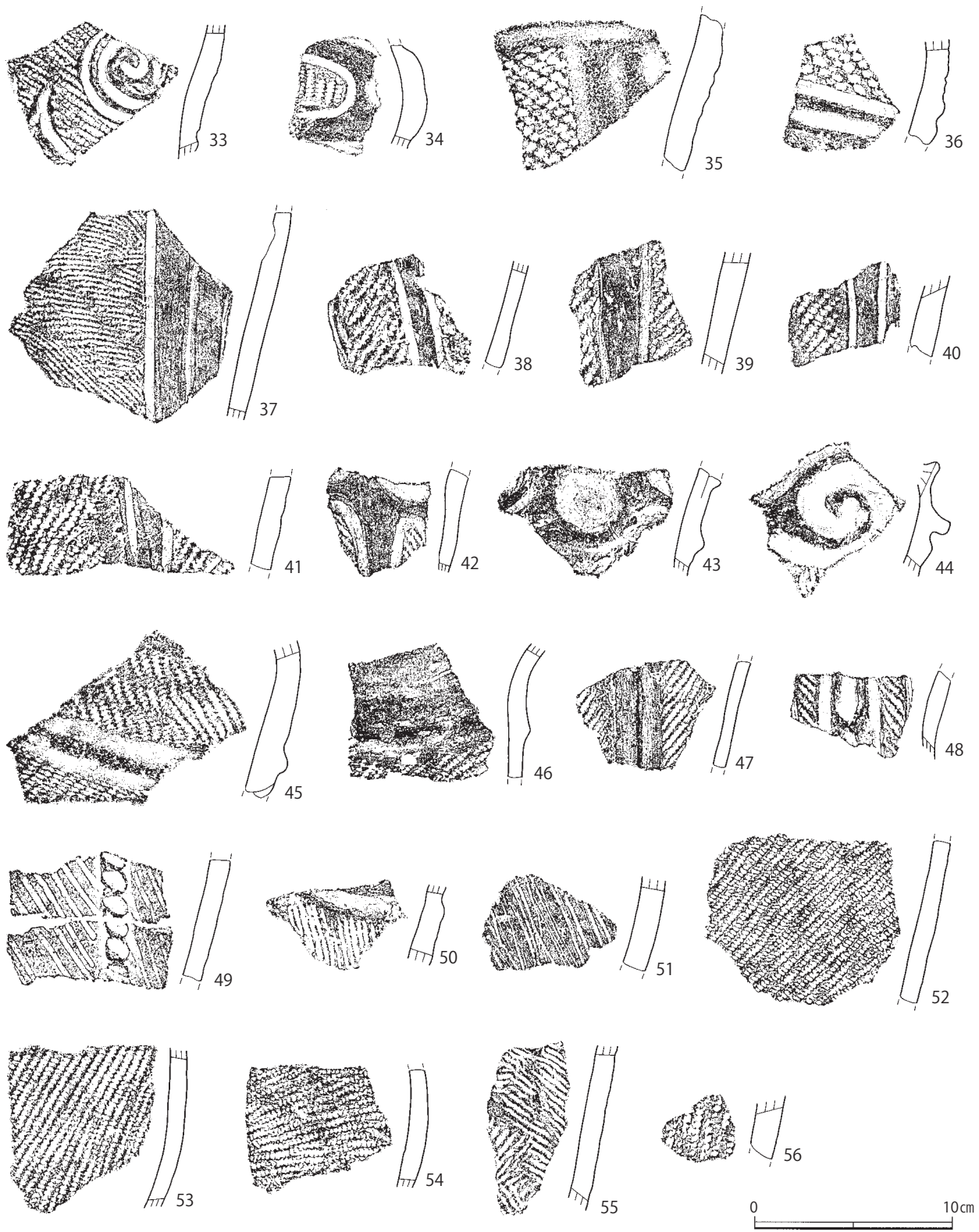
57～65 は、底部である。65 は小型深鉢形土器の上げ底。

71 は壺形土器である。隆起線文による施文である。66・68～71 は「加曾利 E 4 式」、67 は「加曾利 E 4 式」または「大木 10 式」に相当する。

72・73 は、土器破片を円形に整形した土製円盤である。周縁部分に研磨痕が見られる。素材とされた土器は、

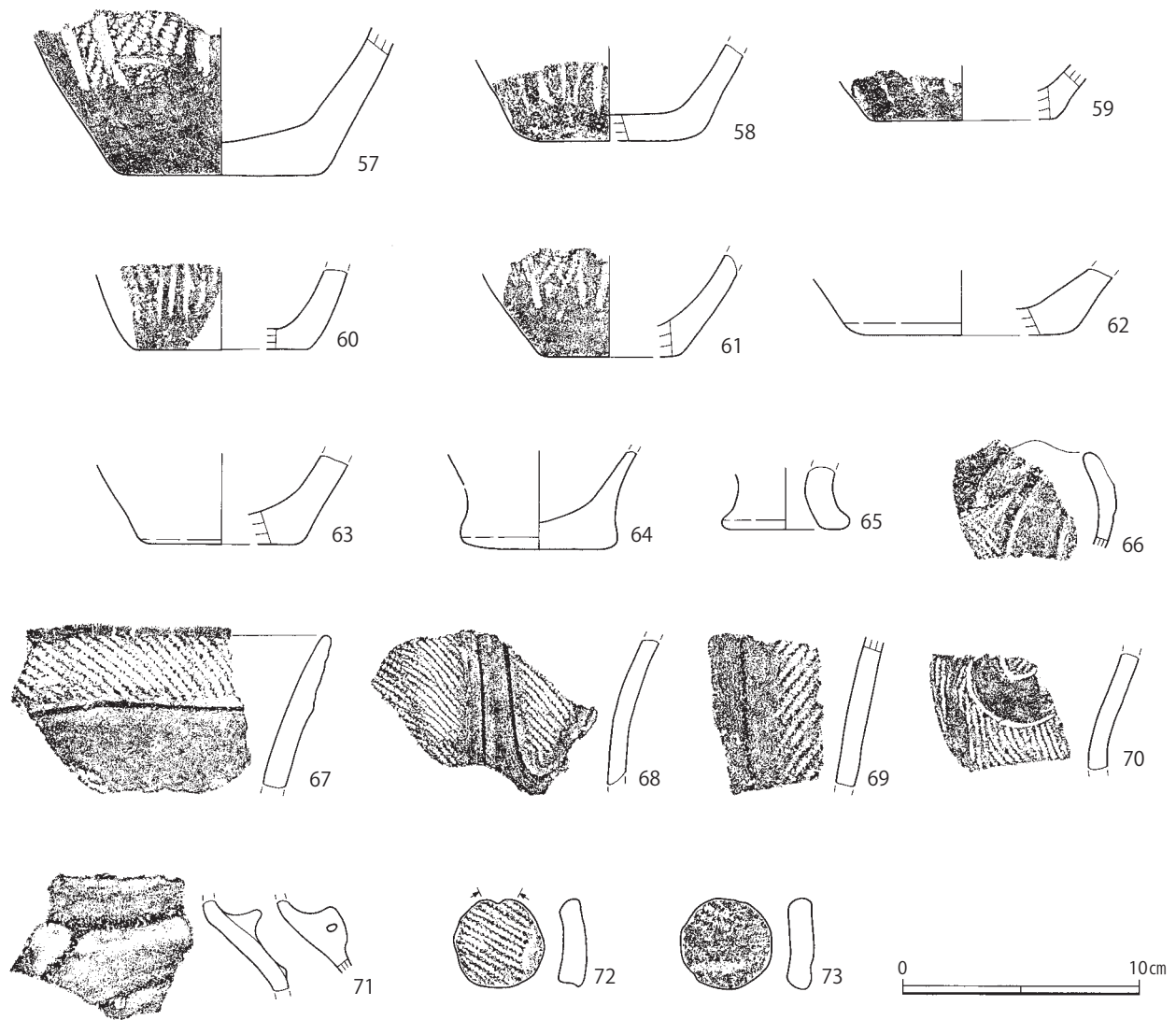


第 59 図 遺構外出土遺物 (1)



第 60 图 遺構外出土遺物 (2)



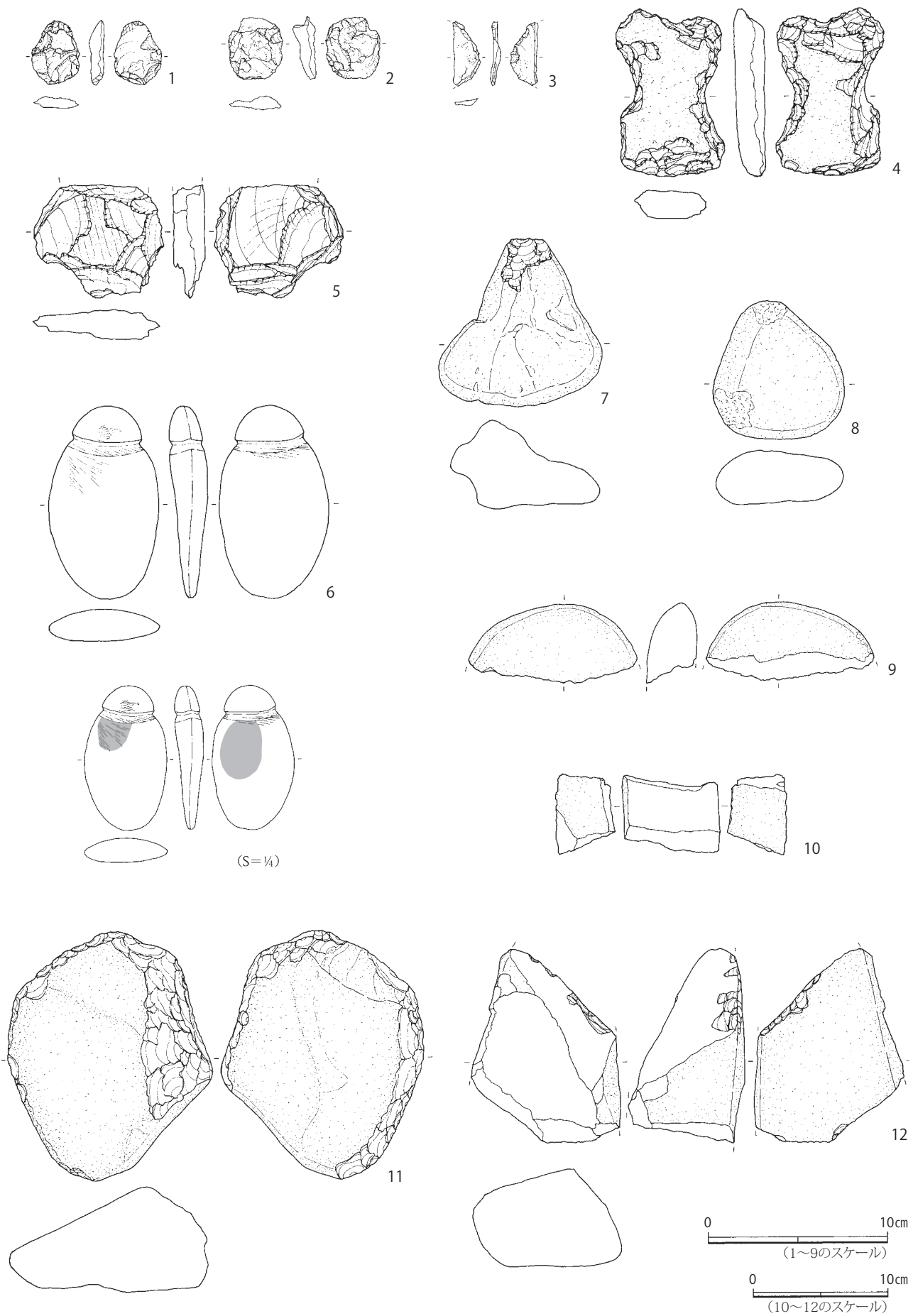


第 61 図 遺構外出土遺物 (3)

「加曾利 E 式」と推定される。

石器 (第 62 図) 13 点の石器が出土している。1・3 は石鏃の未製品で、チャート製である。いずれも背面と腹面に押圧剥離による二次加工痕がみられる。4・5 は打製石斧である。形態的に分銅形に分類されるもので、4 は下側の刃部に使用により形成された摩耗痕がみられる。4 は安山岩、5 は片岩製である。6 は「小形石棒」で、石材は安山岩である。長さ 107 mm と短く、器体は下膨れ状で、頭部は頸部の括れによって表出されている。括れ部直下の表裏両面には顕著な研磨の痕跡が認められる。7・8 は敲石、9 は磨石である。7・8 は礫の一端に敲打痕や敲打に伴う剥離痕が認められる。他に、チャートの石核、メノウやチャートの剥片も出土している (第 6 表)。

(色川・川口)



第 62 図 軍民坂遺跡（第 2 地点）出土石器（網部分は磨痕）



第4表 軍民坂遺跡（第2地点）出土土器観察表

図版	番号	出土位置	計測及び観察	胎土	焼成	色調（外面・内面）	時期
54	1	SI01	法：口292（39），文：唇無，縄LR，沈線文（棒），備：波状口縁（4単位？）	銀，骨針，砂粒（白・黒・透）	普通	にぶい黄橙～灰・にぶい黄橙	加曽利E3式
	2	SI01	法：口266（12），文：唇無，縄RL，沈線文（棒）	骨針多，砂粒（白多・黒・透多）	良好	黒褐	加曽利E3式
	3	SI01	文：唇無，縄RL，沈線文（棒），備：波状口縁	金，砂粒（白）	良好	灰黄褐・にぶい黄橙	加曽利E3式
	4	SI01	文：唇無，縄RL，沈線文（棒），備：波状口縁，外炭付	骨針，砂粒（白・黒・透）	良好	にぶい黄橙～黒褐・にぶい黄褐	加曽利E3式
	5	SI01	文：唇無，縄RL，沈線文（棒），備：外炭付	砂粒（黒多・透多）	良好	灰黄褐	加曽利E3式
	6	SI01	文：唇無，縄RL，沈線文（棒）	砂粒（黒・透多）	良好	にぶい黄橙	加曽利E3式
	7	SI01	文：唇無，縄RL，沈線文（棒），備：波状口縁，外炭付	骨針，砂粒（白・透）	良好	黒褐	加曽利E3式
	8	SI01	文：唇無，縄RL，沈線文（棒）	砂粒（白・透）	良好	にぶい黄橙～黄灰・橙	加曽利E3式
	9	SI01	文：唇無，縄RL，沈線文（棒），備：波状口縁，外炭付	骨針，砂粒（透多）	良好	橙～灰黄褐・にぶい黄褐	加曽利E3式
	10	SI01	文：唇無，縄RL，沈線文（棒），備：外炭付	骨針，砂粒（黒多・透多）	良好	にぶい黄褐	加曽利E3式
	11	SI01	文：唇無，沈線文（棒）	骨針，砂粒（白・黒多・透多）	良好	にぶい黄橙	加曽利E3式
	12	SI01	文：唇無，沈線文（棒），備：外炭付	金多，骨針	普通	にぶい黄橙	加曽利E3式
	13	SI01	文：唇無，沈線文（棒）	砂粒（白多・透多）	良好	灰黄	加曽利E3式
	14	SI01	文：唇無，沈線文（棒）	砂粒（白多・透多）	良好	黒褐	加曽利E3式
	15	SI01	文：唇無，沈線文（棒），備：外炭付	骨針，砂粒（白多・透多）	良好	灰黄褐・にぶい黄褐	加曽利E3式
	16	SI01	文：唇無，沈線文（棒），備：波状口縁	砂粒（黒・透多）	普通	にぶい黄褐	加曽利E3式
	17	SI01	文：唇無，沈線文（棒），備：外炭付	砂粒（白・黒・透）	良好	灰黄褐・にぶい黄褐	加曽利E3式
	18	SI01	文：唇無，縄RL，沈線文（棒），備：波状口縁	骨針，砂粒（黒・透多）	良好	橙～灰黄褐	加曽利E3式
	19	SI01	文：唇無，縄LRL，沈線文（棒），備：外炭付	骨針，砂粒（透多）	良好	灰黄褐・褐	加曽利E3式
	20	SI01	文：唇無，縄RL，沈線文（棒），刺突（棒）	骨針，砂粒（黒・透）	良好	にぶい黄橙	加曽利E3式
	21	SI01	文：唇無，縄LR，隆起線文？，備：隆帯がはがれた痕跡あり	金，砂粒（白・透多）	良好	黒褐	加曽利E3式
55	22	SI01・T2・T3	文：縄RL，沈線文（棒），備：外炭付	金多，骨針，砂粒（白・透）	良好	にぶい黄橙～黒褐	大木9式
	23	SI01	文：縄LR，隆起線文？，備：隆帯がはがれた痕跡あり	骨針，砂粒（白多）	良好	にぶい橙・黒褐	大木9式
	24	SI01	文：縄RL，沈線文（棒）	砂粒（透）	良好	灰黄褐・にぶい黄橙	加曽利E3式
	25	SI01	文：縄RL，沈線文（棒）	砂粒（白・透）	良好	橙～灰黄褐	加曽利E3式
	26	SI01	文：縄RL，沈線文（棒）	金多	良好	にぶい褐・黒褐	加曽利E3式
	27	SI01	文：縄RL，沈線文（棒）	骨針，砂粒（透）	普通	にぶい黄橙・にぶい黄褐	加曽利E3式
	28	SI01	文：縄LR，沈線文（棒）	骨針，砂粒（白・透）	良好	灰黄褐・にぶい黄橙	加曽利E3式
	29	SI01	文：縄RL，沈線文（棒）	金，砂粒（白・透）	普通	橙・明黄褐	加曽利E3式
	30	SI01	文：縄LR，沈線文（棒）	骨針，砂粒（白・黒・透）	良好	橙・明黄褐～灰黄褐	加曽利E3式
	31	SI01	文：縄RL，沈線文（棒）	金，砂粒（白・透）	良好	黒・灰黄褐～黒褐	加曽利E3式
	32	SI01	文：縄RL，沈線文（棒）	砂粒（白・透）	普通	褐・黒褐	加曽利E3式
	33	SI01	文：縄LR，沈線文（棒）	金，骨針	普通	にぶい黄橙～にぶい黄褐・橙	加曽利E3式
	56	34	SI01	文：唇無，隆起線文，備：波状口縁	金，砂粒（白多・黒多・透多）	良好	にぶい黄褐～褐灰・にぶい黄橙
35		SI01	文：唇無，縄RL，隆起線文	砂粒（白・黒・透多）	良好	にぶい褐・灰褐	加曽利E3式
36		SI01	文：唇無，隆起線文，備：波状口縁	砂粒（白・黒多・透多）	普通	橙～黒褐・にぶい黄橙	加曽利E3式
37		SI01	文：唇無，縄RL，隆起線文	金多，砂粒（白多）	普通	にぶい褐	加曽利E3式
38		SI01	文：縄RL，隆起線文	砂粒（黒・透）	良好	にぶい黄橙	加曽利E3式
39		SI01	文：縄LR，隆起線文	骨針，砂粒（黒多・透多）	良好	にぶい黄褐・にぶい褐	加曽利E3式
40		SI01	文：縄RL，隆起線文	骨針，砂粒（白・黒・透）	普通	にぶい黄橙	加曽利E3式
41		SI01	文：縄RL，隆起線文	砂粒（白・透）	良好	黄灰・暗灰黄	加曽利E3式
42		SI01	文：縄RL，隆起線文	砂粒（白・黒・透）	普通	にぶい黄褐～黒褐・黒褐	加曽利E3式
43		SI01	文：縄RL，隆起線文，備：外炭付	金多，砂粒（白）	良好	黒褐	加曽利E3式
44		SI01	文：縄RL，隆起線文？	砂粒（白多・黒・透多）	良好	褐灰～黒褐・にぶい黄橙～黒褐	加曽利E3式
45		SI01	文：隆起線文？	砂粒（白・黒・透多）	良好	にぶい黄橙～黒褐	加曽利E3式
46		SI01	文：唇無，縄RL，備：外炭付	砂粒（白・黒多・透多）	良好	黒褐	加曽利E3式
47		SI01	文：唇無，縄LR	砂粒（白・透多）	良好	にぶい褐	加曽利E3式
48		SI01	文：縄RL	骨針，砂粒（白多・黒・透多）	良好	にぶい黄褐～黒	加曽利E3式
49		SI01	文：縄RL	金，砂粒（白・黒・透）	良好	にぶい黄橙・にぶい黄褐	加曽利E3式
50		SI01	文：縄RL	砂粒（白多・透多）	普通	にぶい黄橙・にぶい黄	加曽利E3式
51		SI01	文：縄LR	砂粒（白・透）	良好	明黄褐・にぶい黄橙	加曽利E3式
52		SI01	文：縄L	砂粒（白多・黒多・透多）	良好	灰黄褐・黄褐～黒褐	加曽利E3式
53		SI01	文：縄RLR	金，骨針，砂粒（白）	良好	黄灰・にぶい黄橙	加曽利E3式
54		SI01	文：条線文（櫛）	砂粒（白・透多）	良好	橙・にぶい褐	加曽利E3式
55		SI01	文：条線文（櫛），備：外炭付	砂粒（白多・透多）	良好	にぶい黄橙～灰黄褐	加曽利E3式
56		SI01	文：縄RL，沈線文（棒）	金多，砂粒（白多）	良好	にぶい褐～黒褐	加曽利E3式
57		SI01	法：底94（25），文：無文	骨針，砂粒（白・透）	良好	黒褐・褐灰	加曽利E3式
58		SI01	法：底76（18），文：無文	砂粒（白多・黒・透多）	良好	にぶい褐・にぶい黄褐	加曽利E3式
59		SI01	法：底54（15），文：無文	砂粒（透多）	良好	にぶい黄褐	加曽利E3式
57		1	SI02・T3	文：唇無，沈線文（棒），刺突文	砂粒（白・透）	普通	にぶい黄褐～灰黄褐・黄褐
	2	SI02	法：胴124（17），文：縄LR，沈線文（棒），備：外赤彩	砂粒（白多・透多）	良好	灰黄褐・黒褐	加曽利E3式
	3	SI02	文：縄RL，沈線文（棒）	骨針，砂粒（白・透）	良好	にぶい黄褐	加曽利E3式
	4	SI02	文：縄RL，沈線文（棒）	砂粒（白多・透多）	良好	にぶい黄褐・褐灰	加曽利E3式
	5	SI02	文：隆起線文	砂粒（白・黒・透多）	普通	にぶい黄褐・にぶい黄橙	加曽利E3式
	6	SI02	文：縄RL，備：外炭付	砂粒（白多・透多）	良好	灰黄褐	加曽利E3式
	7	SI02・T3	法：口316（21），文：唇無，縄LR，隆起線文	金多，砂粒（白多）	普通	褐・褐～暗褐	加曽利E4式

図版	番号	出土位置	計測及び観察	胎土	焼成	色調(外面・内面)	時期
58	1	SI03	法:口366(7), 胴420(9), 文:唇無, 沈線文(棒), 条線文(櫛), 備:外内赤彩, 外内炭付	骨針, 砂粒(白多・透多)	良好	にぶい黄橙~黒	加曾利E3式
	2	SI03	文:縄RL, 沈線文(棒)	砂粒(白多・黒・透多)	良好	灰黄褐・にぶい黄褐	加曾利E3式
59	1	試T	文:唇沈線文(棒)?, 隆帯に棒状工具または指頭による刻み	骨針, 砂粒(白・黒多・透多)	良好	にぶい黄褐・黒褐	加曾利E1式
	2	T1	文:唇無, 隆起線文, 備:波状口縁?	砂粒(白多・透多)	良好	褐・褐~黒褐	加曾利E1式
	3	T1	文:唇無, 縄RS?, 隆起線文	金, 砂粒(白多・透多)	良好	灰黄褐・にぶい黄褐	大木8a式
	4	T1	文:唇無, 縄RL, 備:外炭付	金多, 砂粒(白多)	良好	黒褐・灰黄褐	加曾利E1式, 大木8a式
	5	T1	文:縄LR, 隆起線文	砂粒(白・黒多・透多)	良好	にぶい黄褐~黒褐・にぶい黄橙	加曾利E1式, 大木8b式
	6	T1	文:縄RL, 沈線文(棒)	金多, 砂粒(白多)	良好	にぶい褐, 灰黄褐	大木8b式
	7	T2	文:唇無, 縄LR, 沈線文(棒), 備:波状口縁	銀, 砂粒(白・透)	良好	にぶい黄	加曾利E2式
	8	T2	文:縄LR, 隆起線文	砂粒(白・透多)	普通	にぶい黄橙・にぶい黄	加曾利E1・2式
	9	T1	文:唇無, 縄RL, 沈線文(棒), 備:外内炭付	骨針, 砂粒(白多・透多)	良好	にぶい黄橙~灰黄褐・褐灰	加曾利E3式
	10	T3	文:唇無, 縄RL, 沈線文(棒)	砂粒(黒多・透多)	良好	にぶい黄橙・橙	加曾利E3式
	11	試T	文:唇無, 縄LR, 沈線文(棒)	銀, 砂粒(白多・透多)	良好	にぶい黄褐~黒・にぶい黄褐	加曾利E3式
	12	T2	文:唇無, 縄RL, 沈線文(棒), 備:波状口縁	金多, 砂粒(白多)	良好	にぶい黄褐	加曾利E3式
	13	T3	文:唇無, 沈線文(棒), 備:外炭付	金多, 骨針	良好	灰黄褐・にぶい黄褐	加曾利E3式
	14	T3	文:唇無, 縄RL, 沈線文(棒)	金, 砂粒(白多・透多)	良好	暗灰黄	加曾利E3式
	15	T1	文:唇無, 縄LR, 沈線文(棒), 備:外炭付	砂粒(白・黒多・透)	良好	灰黄褐~黒褐・にぶい黄橙	加曾利E3式
	16	T1	文:唇無, 縄RL, 沈線文(棒)	金, 砂粒(白・透多)	良好	にぶい黄褐~黒褐	加曾利E3式
	17	T1	文:唇無, 縄RL, 沈線文(棒), 刺突(棒)	砂粒(黒・透)	良好	にぶい黄橙	加曾利E3式
	18	T1	文:唇無, 縄, 刺突(棒)	銀, 砂粒(白多)	良好	明褐	加曾利E3式
	19	T1	文:唇無, 縄RL, 沈線文(棒), 備:波状口縁	砂粒(黒・透)	良好	灰黄褐~黒褐	加曾利E3式
	20	T1	文:唇無, 縄RL, 隆起線文, 備:波状口縁	砂粒(白・黒・透)	良好	灰黄褐~黒褐・にぶい黄褐	加曾利E3式
	21	T3	文:唇無, 縄RL, 隆起線文	骨針, 砂粒(透多)	普通	浅黄・にぶい黄	加曾利E3式
	22	T1	文:唇無, 縄RL, 隆起線文?	骨針, 砂粒(黒・透多)	良好	褐灰・灰褐	加曾利E3式
	23	T2	文:唇無, 縄RL, 隆起線文	砂粒(白多・透)	良好	にぶい黄褐	加曾利E3式
	24	T2	文:唇無, 縄LR, 隆起線文, 備:波状口縁	砂粒(白多・透多)	良好	暗灰黄	加曾利E3式
	25	T1	文:唇無, 縄RL, 隆起線文, 備:波状口縁	金, 砂粒(白多・透)	良好	にぶい黄橙・褐灰	加曾利E3式
	26	T2	文:唇無, 縄RL, 隆起線文	砂粒(黒・透)	良好	にぶい黄橙	加曾利E3式
	27	T1	文:唇無, 隆起線文	砂粒(黒・透多)	良好	にぶい黄橙	加曾利E3式
	28	T3	文:唇無, 縄LR, 隆起線文, 備:波状口縁	砂粒(黒・透)	良好	にぶい黄橙	加曾利E3式
	29	T1	文:唇無, 縄LR, 隆起線文	砂粒(白・透)	良好	にぶい黄橙	加曾利E3式
	30	T1	文:唇無, 縄RL・LR	砂粒(白・黒・透多)	普通	にぶい黄橙・明褐	加曾利E3式
	31	T3	文:唇無, 縄LR	砂粒(白多・透多)	良好	明黄褐	加曾利E3式
	32	T1	文:唇棒, 縄RL	砂粒(透多)	良好	にぶい黄褐・灰黄褐	中期
60	33	T1	文:縄LR, 沈線文(棒)	骨針, 砂粒(白・透多)	良好	黒褐・にぶい黄~黄灰	加曾利E3式
	34	T1	文:縄RL, 沈線文(棒)	金多	良好	灰黄褐・にぶい黄橙	加曾利E3式
	35	T1	文:縄LR, 沈線文(棒)	砂粒(白多・黒・透)	普通	にぶい黄	加曾利E3式
	36	T1	文:縄RL, 隆起線文	砂粒(白多・黒・透多)	良好	黒褐・にぶい黄褐	加曾利E3式
	37	T2	文:縄LR, 沈線文(棒), 備:内炭付	砂粒(白・黒・透多)	良好	橙~黒褐・灰黄褐	加曾利E3式
	38	T3	文:縄RL, 沈線文(棒)	砂粒(白・黒・透)	良好	浅黄・灰黄	加曾利E3式
	39	T2	文:縄RL, 沈線文(棒)	砂粒(透多)	良好	にぶい黄橙・黒褐	加曾利E3式
	40	T2	文:縄RL, 沈線文(棒)	砂粒(白多・黒多)	良好	橙・にぶい黄橙~黒褐	加曾利E3式
	41	T1	文:縄RL, 沈線文(棒)	砂粒(透多)	良好	黒褐・にぶい黄褐	加曾利E3式
	42	T1	文:縄LR, 沈線文(棒)	骨針, 砂粒(透多)	良好	明黄褐~黒褐・にぶい黄橙	加曾利E3式
	43	T1	文:隆起線文	砂粒(黒・透多)	良好	にぶい黄橙~黄灰・暗灰黄	加曾利E3式
	44	T1	文:縄RL, 隆起線文	骨針多, 砂粒(透)	良好	にぶい黄橙・黒褐	加曾利E3式
	45	T1	文:縄RL, 隆起線文	金, 砂粒(白・透)	普通	にぶい黄	加曾利E3式
	46	T1	文:縄RL, 隆起線文	砂粒(透)	良好	にぶい黄橙~褐灰・にぶい黄橙	加曾利E3式
	47	T3	文:縄RL, 隆起線文	砂粒(白多・透多)	良好	暗灰黄	加曾利E3式
	48	T1	文:縄LR, 隆起線文	骨針, 砂粒(透)	良好	明黄褐	加曾利E3式
	49	T1	文:沈線文(棒), 隆帯(棒状工具による刻みあり)	砂粒(透)	良好	灰・にぶい黄橙	曾利式, 加曾利E3式
	50	T1	文:沈線文(棒), 条線文(櫛)	骨針多, 砂粒(透)	良好	にぶい黄・灰	加曾利E3式
	51	T2	文:条線文(櫛)	砂粒(白多・黒・透)	良好	にぶい黄褐・黒褐	加曾利E式
	52	T3	文:縄RL	金多, 砂粒(白多)	良好	にぶい黄橙~明赤褐・黒	加曾利E式
	53	T3	文:縄RL	金多, 砂粒(白多)	普通	明黄褐・にぶい黄褐	加曾利E式
	54	T3	文:縄LR	砂粒(透)	良好	にぶい黄橙	加曾利E式
	55	T3	文:縄L	砂粒(白多・黒多・透多)	良好	灰黄褐~黒褐・にぶい黄褐	加曾利E式
	56	T3	文:縄RLR	骨針, 砂粒(白・透)	良好	明黄褐・橙	加曾利E式

61	57	T1	法:底 88 (100), 文:縄 RL, 沈線文 (棒), 備:内炭付	砂粒 (白多・透多)	良好	明黄褐・黄灰	加曽利 E 3 式
	58	T1	法:底 82 (39), 文:沈線文 (棒), 備:内炭付	砂粒 (白多・黒・透多)	普通	にぶい黄・暗灰黄	加曽利 E 3 式
	59	T1	法:底 80 (18), 文:沈線文 (棒)	砂粒 (白多・透多)	普通	にぶい黄橙・黄灰	加曽利 E 3 式
	60	T3	法:底 72 (9), 文:縄 RL, 沈線文 (棒)	砂粒 (白・透多)	良好	明黄褐	加曽利 E 3 式
	61	T2	法:底 60 (14), 文:縄 RL, 沈線文 (棒)	砂粒 (白多・透多)	良好	明黄褐・黒褐	加曽利 E 3 式
	62	試 T	法:底 100 (27), 文:無文	砂粒 (白多・透)	良好	にぶい黄橙・黄灰	加曽利 E 式
	63	試 T	法:底 70 (25), 文:無文	砂粒 (白・透)	良好	にぶい黄褐	加曽利 E 式
	64	T3	法:底 66 (100), 文:無文	砂粒 (白多・透多)	良好	にぶい黄橙・褐～黒褐	加曽利 E 式
	65	T3	法:底 54 (42), 文:無文, 備:外内炭付	砂粒 (白多・黒多・透多)	良好	にぶい黄橙～黒褐	加曽利 E 3 式
	66	T2	文:唇無, 縄 LR, 隆起線文, 備:波状口縁	骨針, 砂粒 (透多)	良好	灰黄褐	加曽利 E 4 式
	67	試 T	文:唇無, 縄 RL, 隆起線文	砂粒 (透多)	良好	にぶい黄橙～橙・にぶい黄褐	加曽利 E 4 式 大木 10 式
	68	T3	文:縄 LR, 隆起線文	砂粒 (白多・透多)	良好	暗赤褐・黒褐	加曽利 E 4 式
	69	T3	文:縄 RL, 隆起線文	金多, 砂粒 (白多)	普通	橙	加曽利 E 4 式
	70	T3	文:縄 RL, 沈線文 (棒)	砂粒 (白・透多)	良好	明黄褐・にぶい黄褐	加曽利 E 4 式
71	SI01	文:隆起線文, 備:外内赤彩, 穿孔 (焼成前)	砂粒 (白・黒・透)	普通	浅黄～暗灰黄・暗灰黄	加曽利 E 4 式	

第 5 表 軍民坂遺跡 (第 2 地点) 出土土製品観察

図版番号	出土位置	器種	長径 (mm)	短径 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	文様	時期
61	72 T1	土製円盤	39	37	12	19	縄 LR	加曽利 E 式
	73 T3	土製円盤	39	39	11	18	縄 RL	加曽利 E 式

・計測値の [ \* ] 付数値は部分的な残存長である。

第 6 表 軍民坂遺跡 (第 2 地点) 出土石器観察表

図版番号	出土位置	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
62	1 試 T	石鏃の未製品	チャート	36.0	27.0	8.5	8	
	2 SI01	石鏃の未製品	オパール	35.0	30.0	13.0	9	
	3 試 T	石鏃の未製品	チャート	36.0	11.0	6.0	2	
	4 T1	石斧	安山岩	93.0	61.0	17.5	130	下端の刃部に磨耗痕
	5 T3	石斧	片岩	(63.5)	(72.0)	(17.5)	91	片側の刃部欠失
	6 試 T	石棒	安山岩	107.0	61.0	21.0	153	表裏両面に研磨痕
	7 T1	敲石	不明	93.5	91.5	51.5	376	
	8 T2	敲石	砂岩	77.0	73.5	31.0	203	
	9 T3	磨石	安山岩	44.0	84.0	28.0	122	
	10 SI03	石皿または砥石	砂岩	55.0	44.5	72.5	241	表裏両面に研磨痕, 破損面に赤化の痕跡
	11 SI03	砥石	砂岩	185.5	152.0	78.0	2,035	
	12 SI01	砥石	石英斑岩	145.0	112.0	87.0	1,400	
	SI01	剥片	安山岩	30.0	47.0	10.0	10	
	SI02	剥片	チャート	27.0	18.0	9.0	1	
	試 T	石核	チャート	102.0	53.0	55.0	340	
	試 T	剥片	メノウ	24.0	52.0	17.0	14	
	T1	剥片	チャート	27.0	18.0	9.0	1	
	T1	剥片	チャート	20.0	17.0	4.0	1	両面ボジ
T1	剥片	メノウの集合岩	22.0	21.0	9.0	3		

・計測値は, 残存する状態での最大値である。

(第 4～6 表 凡例)

\* 「出土位置」は, 遺構を次のように記号化している。

「 S 」 住居跡, 「 T 」 トレンチ

\* 「計測及び観察」は, 次のように記号化して, 記載を分けている。

「法」法量に関する記載

「文」文様の特徴に関する記載 (特に施文工具について記述した。文様の形象については実測図及び拓影図を参照とする。)

「備」その他の備考とすべき記載

\* 「法」の記載には, 次の記号で, 部位の計測値を表記している。(単位は「mm」, 括弧内の数値は残存率で単位は「%」)

「口」口縁部直径, 「底」底部直径

\* 「文」の記載には, 次の記号を使用する。

「唇」口唇部の施文 (さらに, 「無」施文無し, という記号の組み合わせで表記する。)

「底」底面の痕跡 (さらに, 「調」調整痕, 「不明」痕跡の有無及び圧痕原体の不明, という記号の組み合わせで表記する。)

「篋」篋状工具 (沈線の断面が鋭角的なものを典型とした工具に対する表記。)

「棒」棒状工具 (沈線の断面が半円形のものをも典型とした工具に対する表記。)

「半竹」半截竹管状工具 (2本の沈線を同時に施文した工具に対する表記。)

「櫛」櫛歯状工具 (3本以上の沈線を同時に施文した工具に対する表記。)

「縄」縄文原体

\* 「備」の記載には, 次の記号を使用する。

「外」器外面, 「内」器内面, 「炭付」炭化物付着, 「赤彩」赤色顔料の塗彩

\* 「胎」の記載には, 次の記号を使用する。

「金」金色を呈する風化した黒雲母片 (さらに, 「多」含有が多量, という記号の組み合わせで表記する。)

「銀」銀色を呈する風化した黒雲母片 (さらに, 「多」含有が多量, という記号の組み合わせで表記する。)

「骨針」白色針状物質とも表記される海綿骨針 (さらに, 「多」含有が多量, という記号の組み合わせで表記する。)

「白」白色不透明で長石あるいは石英と考えられる粒子 (さらに, 「多」含有が多量, という記号の組み合わせで表記する。)

「黒」黒色で光沢を有し輝石あるいは角閃石と考えられる粒子 (さらに, 「多」含有が多量, という記号の組み合わせで表記する。)

「透」透明で石英と考えられる粒子 (さらに, 「多」含有が多量, という記号の組み合わせで表記する。)

## 第4章 個人住宅建築に伴う本発掘調査

第2章で報告した試掘調査のうち、個人住宅建築に伴い本発掘調査の対象となったのは米沢町遺跡（第6地点）と堀遺跡（第6地点）の2件であった。

本発掘調査は、地下に掘削の及ぶ申請建物部分及び合併浄化槽埋設箇所のうち遺構が確認された箇所を対象とし、重機（バックホウ）により、関東ローム層上面まで表土を掘削し、遺構の精査を行い、確認された遺構を調査の対象とした。遺物は遺構確認面一括遺物、遺構出土遺物に区分し、取り上げを行った。

### 4-1 米沢町遺跡（第6地点）

所在地 水戸市千波町字中道南 1502-12 番地

調査面積 22.5 m<sup>2</sup>

調査期間 平成18年5月31日～6月1日

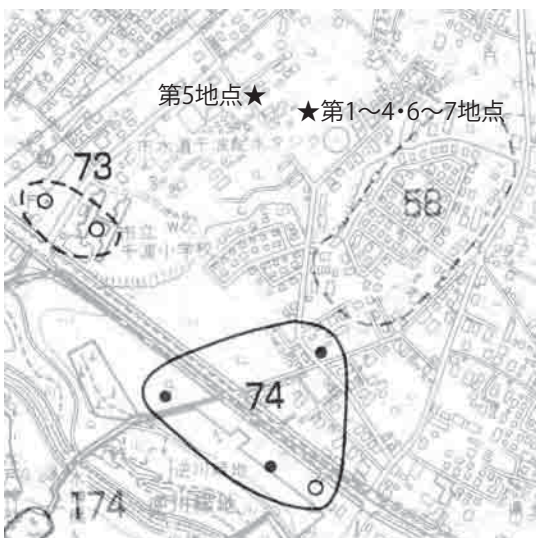
検出遺構 溝状遺構1条、土坑1基

出土遺物 なし

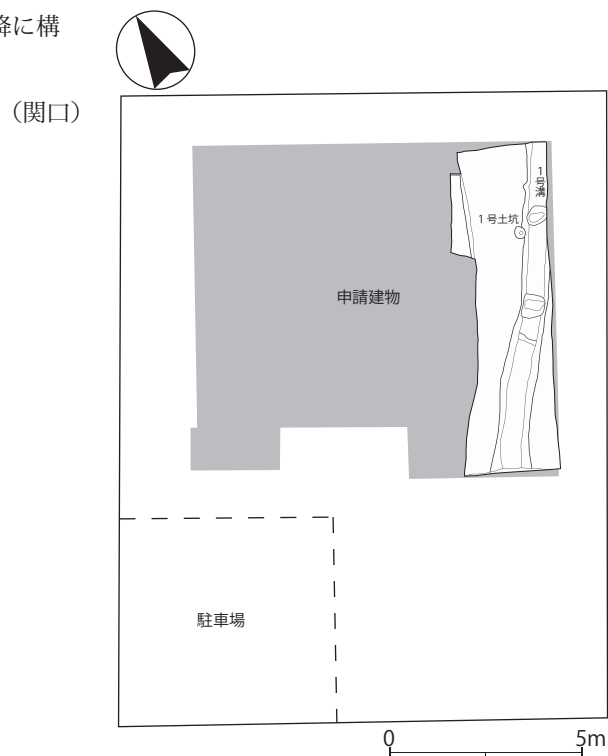
調査担当 関口慶久

調査概要 試掘調査のトレンチ2およびトレンチ4で確認されていた溝状遺構（1号溝）および土坑（1号土坑）を対象とし、重機を用いて表土除去を行った。その結果、溝は幅0.8～1.4mの断面逆台形を呈し、深さは40～50cmであることが確認された（第65図）。溝は北側および中央部の底面に土坑状のプランを有し、中央よりの南側の位置で南側に階段状に傾斜している。覆土は7層に区分され、自然堆積により埋没している（第65図）。1号溝の確認面より上に近世以降に堆積したとみられる土層が堆積していることから、中世頃に機能していた溝であった可能性が高いが、構築時期・埋没時期を示す遺物は得られていない。

1号土坑は直径40cm、深さ40cmの円形プランを呈する土坑であり、覆土は1層のみである（第65図）。自然堆積とみられる。構築時期・埋没時期を示す遺物は得られていないが、1号溝を切っていることから、1号溝の埋没以降に構築されたとみられる。

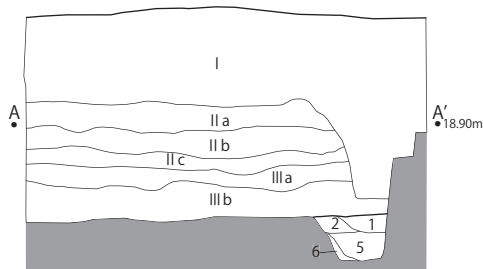
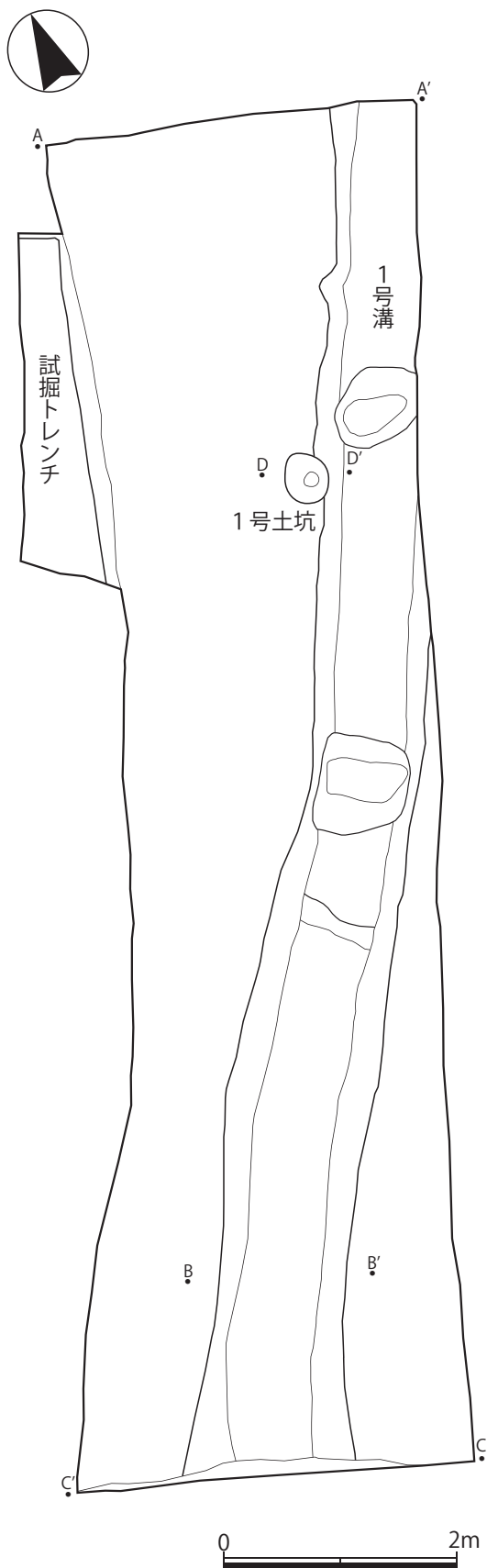


第63図 米沢町遺跡（第6地点）の位置

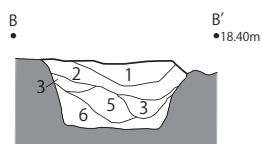


第64図 米沢町遺跡（第6地点）の本調査範囲と遺構配置

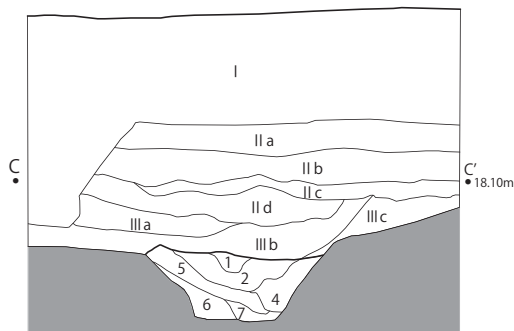




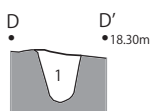
- I 表土層 (2005年の宅地造成工事による盛土)
- II a 10YR2/2 黒褐 ローム粒 (5mm) 多量 粘性弱 締まり強 (近代~現代)
- II b 10YR2/3 黒褐 ローム粒 (5mm) 微量 粘性やや弱 締まりやや弱 耕作土 (近代~現代)
- II c 10YR2/2 黒褐 ローム粒 (1mm) 少量 粘性やや弱 締まりやや弱 耕作土 (近代~現代)
- III a 10YR3/3 暗褐 ローム粒 (1mm) 微量 粘性やや強 締まりやや強 (近世)
- III b 10YR3/1 黒褐 ローム粒 (2mm) 少量 粘性あり 締まりあり (近世)
- 1 10YR2/3 黒褐 ローム粒 (2mm) 少量 粘性あり 締まりやや強
- 2 10YR2/3 黒褐 ローム粒 (2mm) あり 粘性あり 締まりやや強
- 5 10YR1/3 黒褐 ローム粒 (3mm) 多 粘性やや弱 締まりあり
- 6 10YR3/2 黒褐 ローム粒 (3mm) 多 粘性やや弱 締まりやや弱



- 1 10YR2/3 黒褐 ローム粒 (2mm) 少量 粘性あり 締まりやや強
- 2 10YR2/3 黒褐 ローム粒 (2mm) あり 粘性あり 締まりやや強
- 3 10YR1/3 黒褐 ローム粒 (3mm) やや多 粘性やや強 締まりあり
- 5 10YR1/3 黒褐 ローム粒 (3mm) 多 粘性やや弱 締まりあり
- 6 10YR3/2 黒褐 ローム粒 (3mm) 多 粘性やや弱 締まりやや弱



- I 表土層 (2005年の宅地造成工事による盛土)
- II a 10YR2/2 黒褐 ローム粒 (5mm) 多量 粘性弱 締まり強 (近代~現代)
- II b 10YR2/3 黒褐 ローム粒 (5mm) 微量 粘性やや弱 締まりやや弱 耕作土 (近代~現代)
- II c 10YR2/2 黒褐 ローム粒 (1mm) 少量 粘性やや弱 締まりやや弱 耕作土 (近代~現代)
- II d 10YR2/2 黒褐 ローム粒 (2mm) 少量 粘性あり 締まりあり 耕作土 (近代~現代)
- III a 10YR3/3 暗褐 ローム粒 (1mm) 微量 粘性やや強 締まりやや強 (近世)
- III b 10YR3/1 黒褐 ローム粒 (2mm) 少量 粘性あり 締まりあり (近世)
- III c 10YR3/2 黒褐 ローム粒 (2mm) 微量 粘性あり 締まりあり (近世)
- 1 10YR2/3 黒褐 ローム粒 (2mm) 少量 粘性あり 締まりやや強
- 2 10YR2/3 黒褐 ローム粒 (2mm) あり 粘性あり 締まりやや強
- 4 10YR2/2 黒褐 ローム粒 (2mm) 少量 粘性あり 締まりやや弱
- 5 10YR1/3 黒褐 ローム粒 (3mm) 多 粘性やや弱 締まりあり
- 6 10YR3/2 黒褐 ローム粒 (3mm) 多 粘性やや弱 締まりやや弱
- 7 10YR2/1 黒 ローム粒 (15mm) あり 粘性やや強 締まりやや強



- 1 7.5YR2/1 黒 ローム粒微量、粘性あり、締まりあり

第 65 図 米沢町遺跡 (第 6 地点) の遺構配置とセクション

## 4-2 堀遺跡（第6地点）

所在地 水戸市堀町字馬場東 381-1, 382-3 番地

調査面積 99.4 m<sup>2</sup>

調査期間 平成 19 年 3 月 12 日～ 3 月 20 日

検出遺構 掘立柱建物跡 2 棟, 土坑 3 基, ピット 14 基

出土遺物 土師器, 須恵器

調査担当 川口武彦, 新垣清貴

調査概要 試掘調査のトレンチ 2 で確認されていた土坑およびその広がりを確認するため, 申請建物全般を対象とし, 重機を用いて表土除去を行った。その結果, 掘立柱建物跡 2 棟に係る柱穴, 土坑 3 基, ピット 14 基が確認された。以下, 基本層所と検出された遺構・遺物の詳細について記述する。



第 66 図 堀遺跡（第 6 地点）の位置

### (1) 基本層序

本地点における基本層序は下記の 4 層に区分される。

- ①層 10YR3/2 黒褐 粘性弱 締まり強 ローム粒少量（耕作土）
- ②層 10YR3/3 暗褐 粘性弱 締まり強 ローム粒微量, 白色粒多量（耕作土）
- ③層 10YR4/3 暗褐 粘性弱 締まり中 ローム粒微量, 白色粒多量（奈良・平安時代包含層, 旧表土）
- ④層 10YR4/3 暗褐 粘性弱 締まり強 ローム粒少量, 白色粒多量（縄文時代包含層）

### (2) 検出された遺構

#### 【SB01】

検出位置 調査区の東端において検出された。調査区外に展開している。

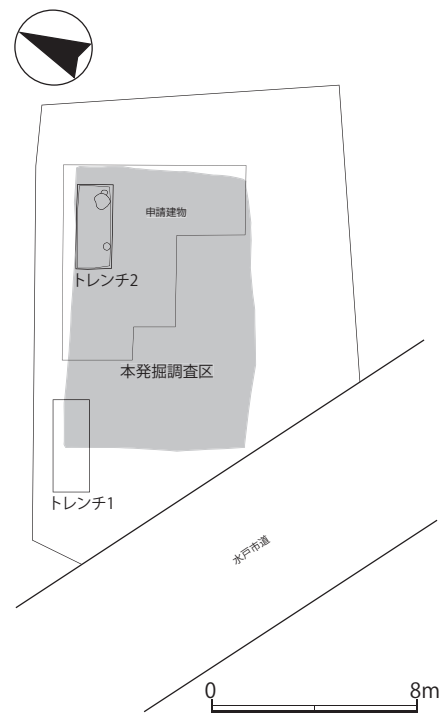
形式 側柱式の掘立柱建物。

規模 本建物は, 桁行 6.2m 以上, 梁行 4.8m 以上。柱の掘方は円形を呈する（第 68 図・第 7 表）。主軸方位は N-30° -W。

構造 四面に廂を持ち, さらに外側に孫廂とみられる柱列が巡る。身舎の柱間は桁行 1.8m（6 尺）等間, 梁行 4 尺（1.2m）等間。桁行 3 間以上, 梁行 1 間以上の南北棟とみられる。廂と孫廂の柱間は 1.8m（6 尺）等間（第 74 図）。柱痕跡の大きさは不明。

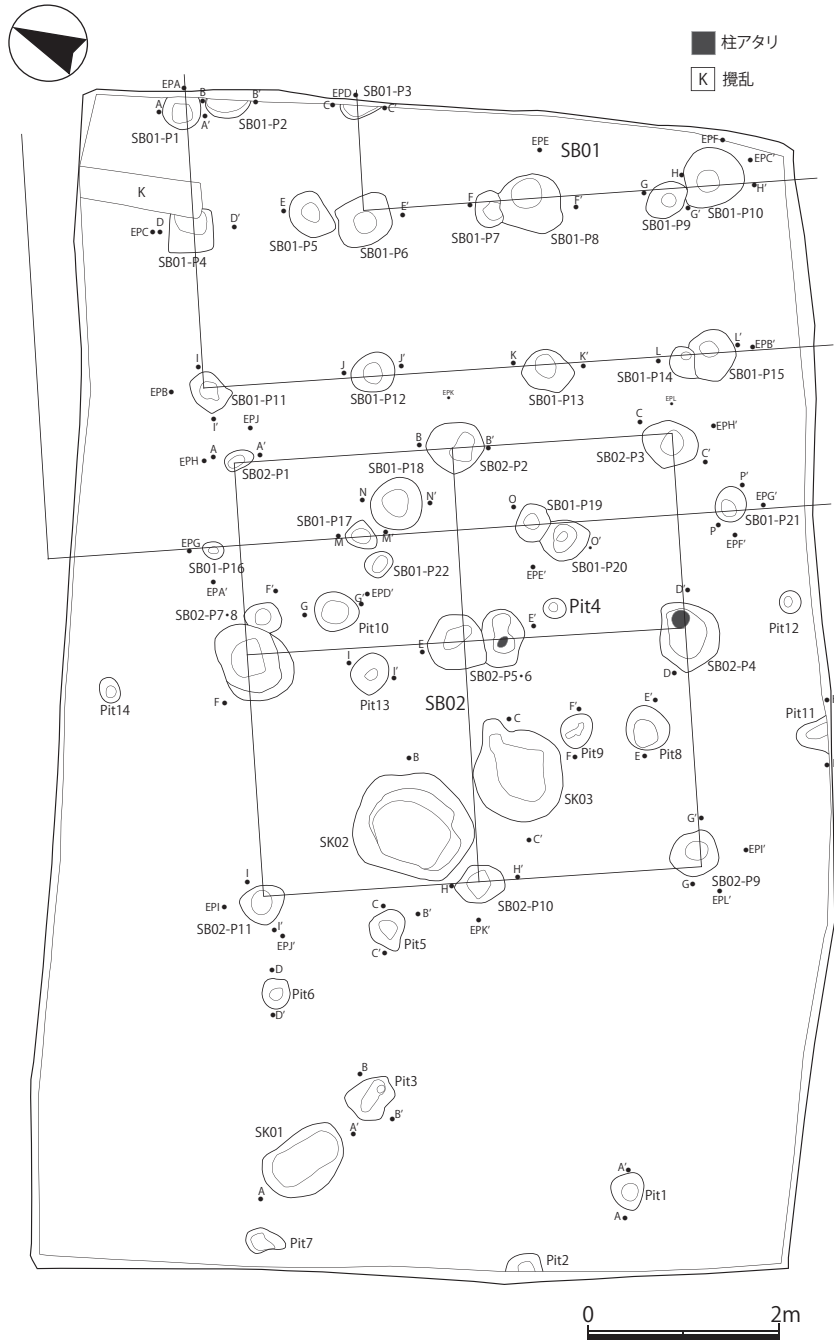
P1～P21 の規模は最大 0.65m であるが, 柱穴毎に平均規模を見ていくと, 身舎を構成する柱穴が平均 0.57m, 廂を構成する柱穴が平均 0.46m, 孫廂を構成する柱穴が平均 0.41m となっており, 身舎→廂→孫廂の順に小さくなっていく傾向が見られる（第 69～71 図・第 7 表）。

また, P1～P21 の深さは 0.06～0.55m であるが, 柱穴毎に深さを見ていくと, 身舎を構成する柱穴が平均 0.34m, 廂を構成する柱穴が平均 0.34m であるのに対し, 孫廂を構成する柱穴は平均 0.20m となっており, 身舎と廂を構成する柱穴の平均深度が近い値を示しているのに対し, 孫廂を構成する柱穴は約半分に近い深さとなっており, 柱穴の規模と同様, 身舎・廂→孫廂の順に小さくなっていく傾向が見られる（第 69～71 図・第 7 表）。柱痕跡を確認

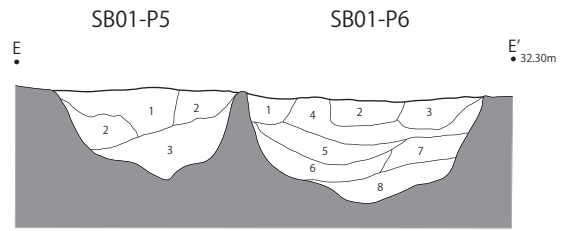
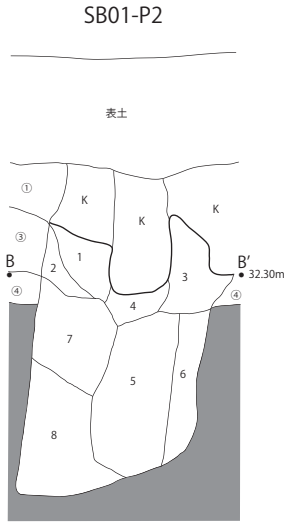
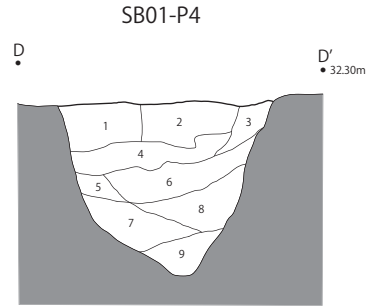
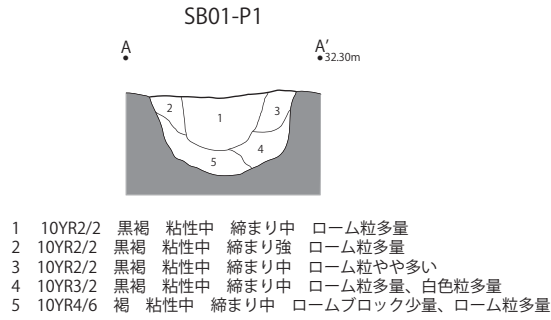


第 67 図 堀遺跡（第 6 地点）の本調査範囲



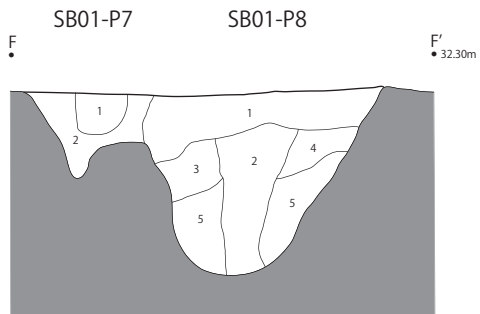
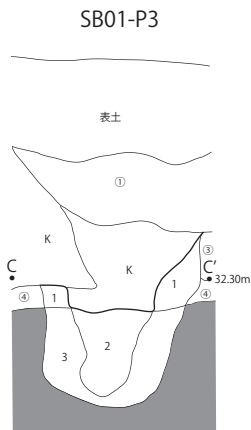


第 68 図 堀遺跡 (第 6 地点) の遺構配置



- P5
- 1 10YR3/4 暗褐 粘性中 締まり中 ローム粒多量  
 2 10YR3/2 黒褐 粘性中 締まり強 ローム粒多量、ロームブロック少量  
 3 10YR3/3 黒褐 粘性中 締まり強 ローム粒多量、黒色土ブロック少量

- P6
- 1 10YR4/4 褐 粘性中 締まり強 ローム粒多量  
 2 10YR4/2 にぶい褐 粘性中 締まり強 ローム粒・白色粒多量  
 3 10YR4/6 褐 粘性中 締まり強 ローム粒多量  
 4 10YR5/6 黄褐 粘性強 締まり強 ロームブロック多量  
 5 10YR5/6 黄褐 粘性強 締まり強 ロームブロック多量、黒色土ブロック少量  
 6 10YR4/4 褐 粘性強 締まり中 ロームブロック少量、黒色土ブロック多量  
 7 10YR3/4 暗褐 粘性強 締まり中 ロームブロック少量、ローム粒多量  
 8 10YR5/6 黄褐 粘性強 締まり強 ローム粒多量

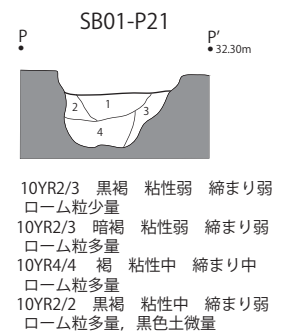
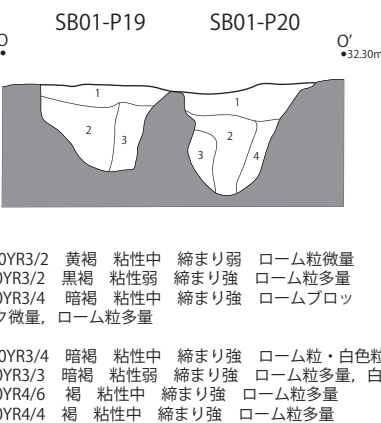
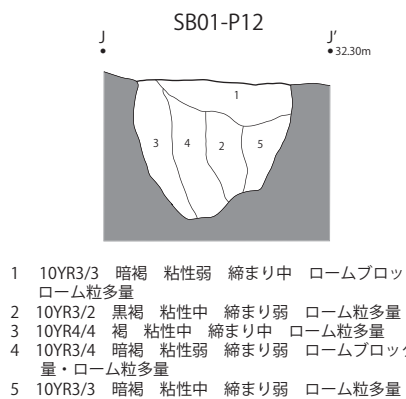
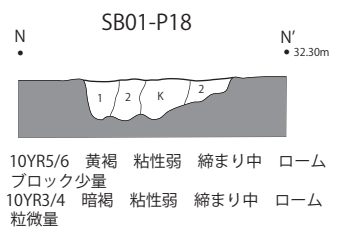
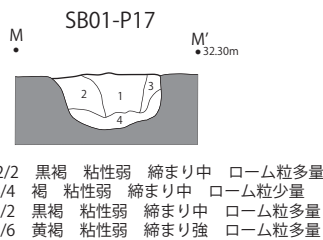
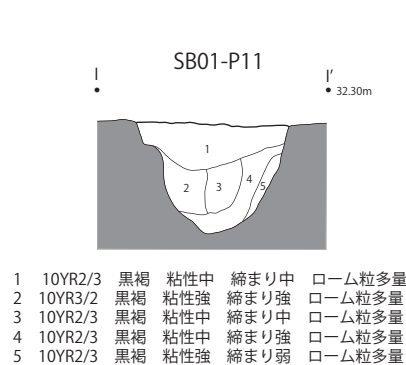
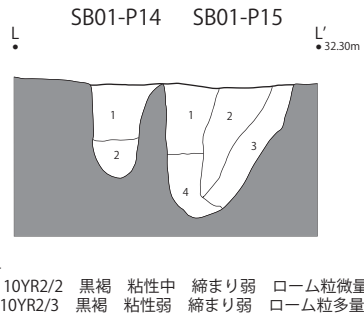
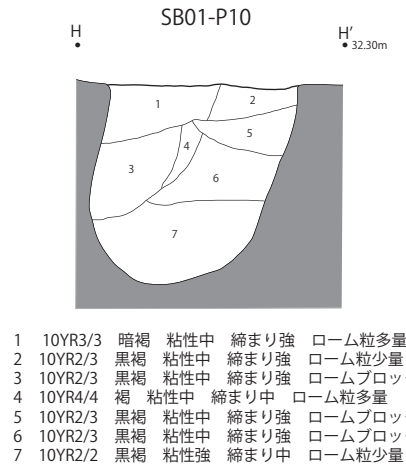
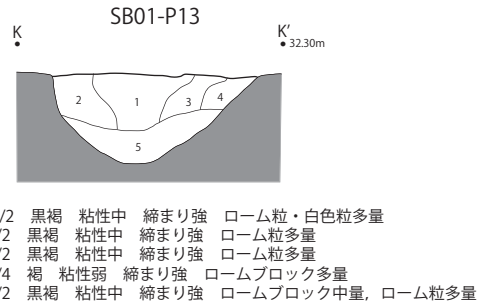
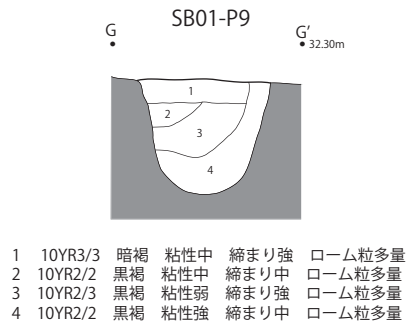


- P7
- 1 10YR3/3 暗褐 粘性弱 締まり中 ローム粒多量  
 2 10YR4/6 褐 粘性弱 締まり強 ローム粒多量

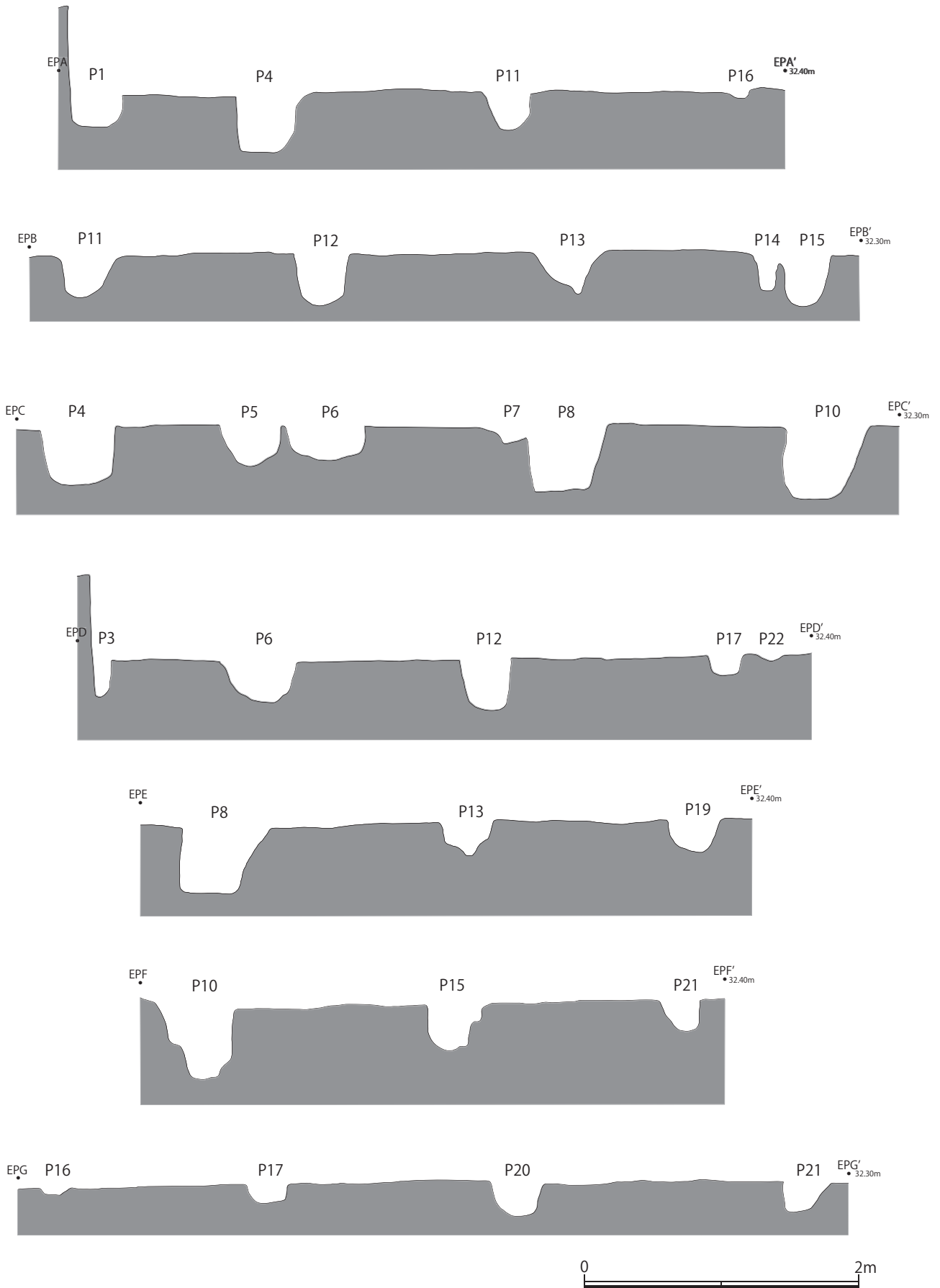
- P8
- 1 10YR4/4 褐 粘性中 締まり中 ロームブロック多量、ローム粒多量  
 2 10YR3/4 暗褐 粘性弱 締まり強 ロームブロック少量、ローム粒多量  
 3 10YR3/4 暗褐 粘性中 締まり中 ロームブロック多量、ローム粒多量  
 4 10YR3/4 暗褐 粘性中 締まり中 ロームブロック多量、ローム粒多量  
 5 10YR3/3 暗褐 粘性強 締まり中 ローム粒多量



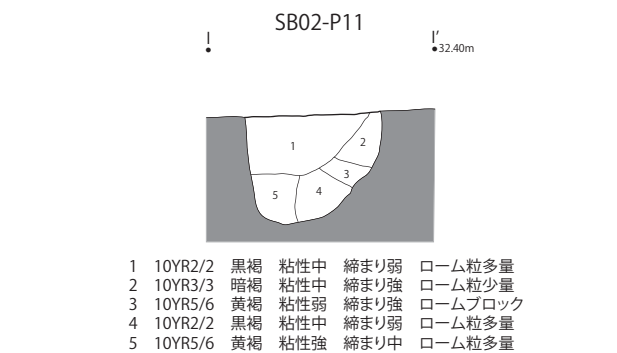
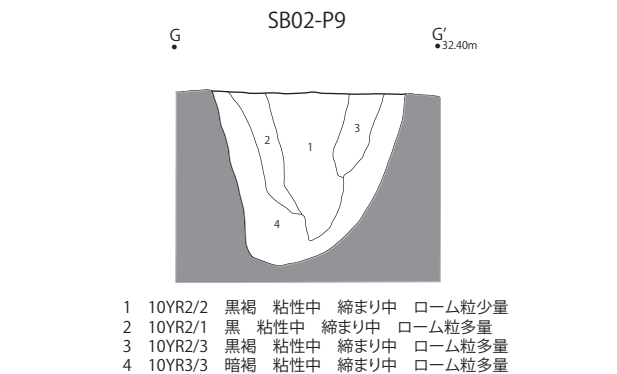
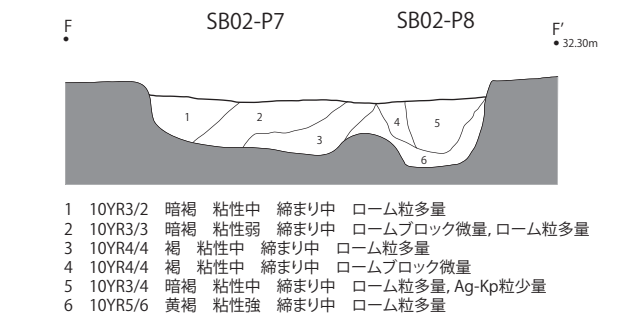
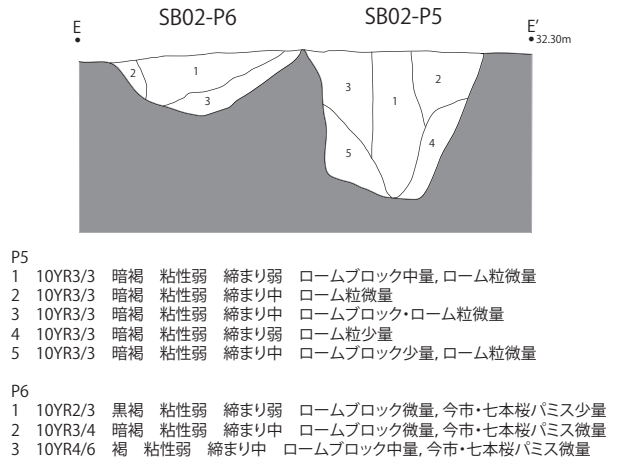
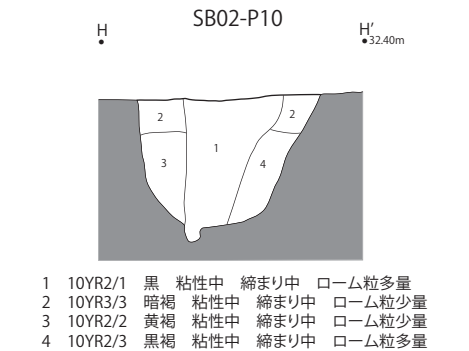
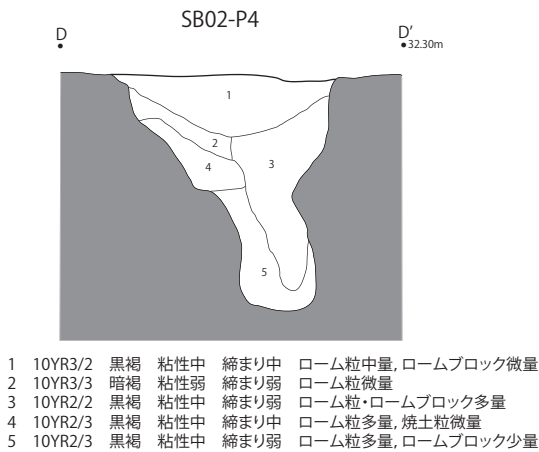
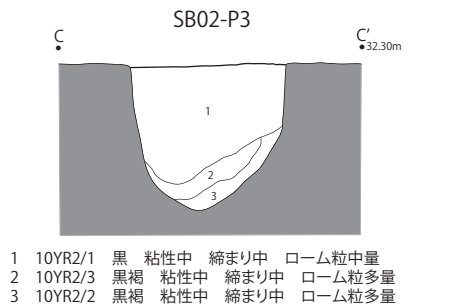
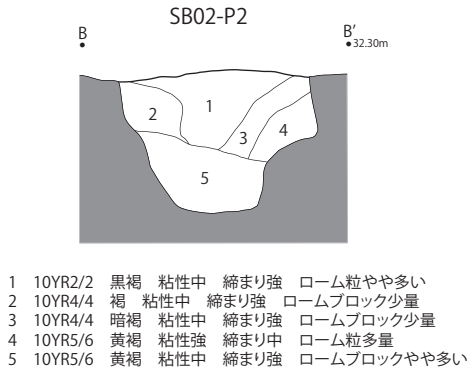
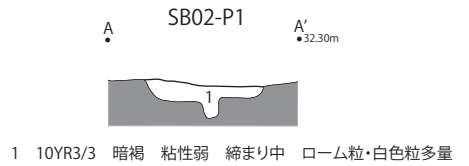
第 69 図 掘立柱建物跡 SB01 柱穴セクション①



第 70 図 掘立柱建物跡 SB01 柱穴セクション②

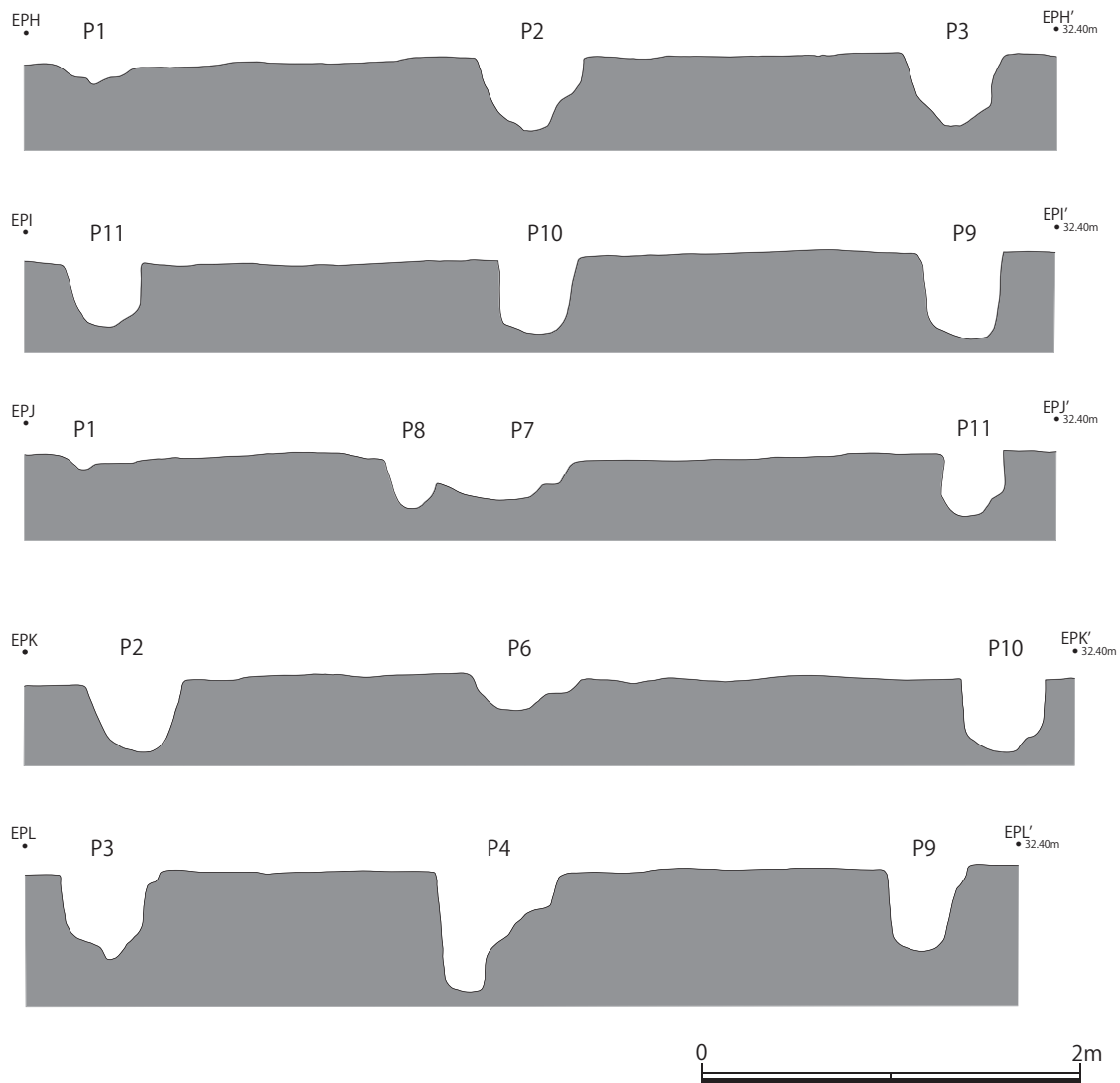


第 71 図 掘立柱建物跡 SB01 柱穴エレベーション



第 72 図 掘立柱建物跡 SB02 柱穴セクション





第 73 図 掘立柱建物跡 SB02 柱穴エレベーション

することができなかったが、柱材には長さの揃った規格材ではないものを利用したことから、柱穴の掘削深度に差が現れているとみられる。

時 期 柱掘方から須恵器の無台坏と有台坏片が出土しており（第 77 図-2～3）、8 世紀後葉頃の所産とみられることから、8 世紀後葉に造営されたとみられる。

【SB02】

検出位置 SB01 の西側において検出された。東側の柱穴列が SB01 の廂および孫廂を構成する柱穴列の間の空間で重複している（第 68 図）。

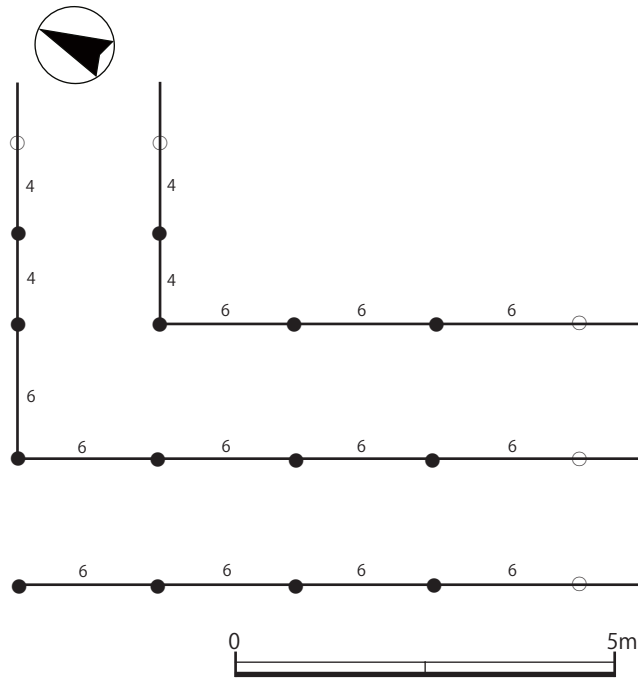
形 式 総柱式の掘立柱建物。

規 模 本建物は、桁行 4.8m、梁行 4.8m。柱の掘方は円形を呈する（第 68 図）。主軸方位は N-30° -W。

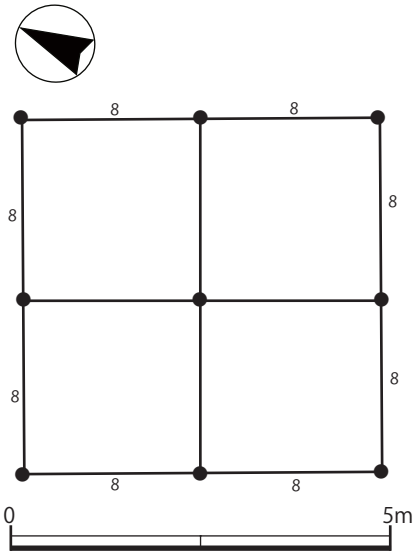
構 造 柱間は桁行・梁行ともに 2.4m（8 尺）等間で桁行 2 間、梁行 2 間（第 75 図）。

P1～P11 の規模は 0.3～0.75m であり、掘削深度は 0.2～0.65m である（第 72～73 図・第 8 表）。柱痕跡は P4～P5・P9～11 で確認されており、その直径は 0.1～0.15m であった。また、P4 と P5 では柱掘り方の基底面に柱のアタリ痕が確認されており、直径は 0.1～0.2m であった。柱材には長さの揃った規格材ではないものを利用したことから、柱穴の掘削深度に差が現れているとみられる。

P4 については柱痕跡とみられる 3 層の上に堆積している 1 層が柱切取穴の可能性がある。P5 と P6 および P7



第 74 図 掘立柱建物 SB01 柱間概念図



第 75 図 掘立柱建物 SB02 柱間概念図

第 7 表 掘立柱建物 SB01 柱穴一覧

柱穴名	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	柱痕跡・アタリ (m)
SB01-P1	0.4	(0.35)	0.24	—
SB01-P2	0.47	(0.20)	0.46	—
SB01-P3	0.42	(0.15)	0.25	—
SB01-P4	0.48	0.47	0.46	—
SB01-P5	0.5	0.38	0.33	—
SB01-P6	0.57	0.52	0.30	—
SB01-P7	0.38	(0.30)	0.18	—
SB01-P8	0.65	(0.64)	0.49	—
SB01-P9	0.49	0.34	0.31	—
SB01-P10	0.61	0.6	0.55	—
SB01-P11	0.43	0.33	0.29	—
SB01-P12	0.47	0.43	0.37	—
SB01-P13	0.57	0.48	0.26	—
SB01-P14	0.38	(0.25)	0.28	—
SB01-P15	0.55	0.5	0.37	—
SB01-P16	0.24	0.18	0.06	—
SB01-P17	0.33	0.27	0.15	—
SB01-P18	0.57	0.55	0.24	—
SB01-P19	0.42	0.37	0.24	—
SB01-P20	0.53	0.43	0.28	—
SB01-P21	0.4	0.33	0.24	—

第 8 表 掘立柱建物 SB02 柱穴一覧

柱穴名	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	柱痕跡・アタリ (m)
SB02-P1	0.3	0.25	0.2	—
SB02-P2	0.6	0.55	0.4	—
SB02-P3	0.6	0.5	0.4 ~ 0.45	—
SB02-P4	0.75	0.65	0.65	0.2
SB02-P5	0.65	0.45	0.25	0.1
SB02-P6	0.6	0.6	0.4	—
SB02-P7	0.4	0.3	0.2	—
SB02-P8	0.85	0.85	0.25	—
SB02-P9	0.5	0.5	0.45	—
SB02-P10	0.55	0.4	0.4	0.15
SB02-P11	0.48	0.45	0.35	0.15

第 9 表 土坑・ピット一覧

遺構名	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)
Pit1	0.42	0.35	0.15
Pit2	0.4	(0.2)	0.23
Pit3	0.55	0.45	0.15 ~ 0.32
Pit4	0.25	0.22	0.19
Pit5	0.42	0.4	0.17
Pit6	0.35	0.3	0.19
Pit7	0.44	0.28	0.10
Pit8	0.46	0.46	0.45
Pit9	0.37	0.33	0.15
Pit10	0.47	0.42	0.33
Pit11	(0.38)	(0.33)	0.22
Pit12	0.24	0.24	0.13
Pit13	0.42	0.37	0.24
Pit14	0.27	0.2	0.19
SK01	0.9	0.62	0.3
SK02	1.3	1.2	0.65
SK03	1.1	0.95	0.2

と P8 については隣接および切り合っていることから柱の立て替えが行われている可能性が高い。

時期 柱掘方から 8 世紀後葉～9 世紀前葉に位置づけられる須恵器有台坏片が出土しているが (第 77 図-6)、P4 からは図示できない内面黒色処理土師器の小片も出土していることから、9 世紀第 1 四半期以降に造営されたとみられる。

#### 【SK01】

検出位置 調査区の西端で検出された。Pit3 と Pit7 の間に位置している (第 68 図)。

規模 長軸 0.9m, 短軸 0.62m, 深さ 0.3m (第 76 図・第 9 表)。

時期 出土遺物がないため、構築時期・廃絶時期ともに不明である。

#### 【SK02】

検出位置 調査区中央のやや西寄りの位置で検出された (第 68 図)。

規模 長軸 1.3m, 短軸 1.2m, 深さ 0.65m (第 76 図・第 9 表)。

時期 出土遺物はないが、覆土が縄文時代に堆積した土と酷似していることから、縄文時代の土坑とみられる。

#### 【SK03】

検出位置 調査区中央のやや西寄りの位置で検出された (第 68 図)。

規模 長軸 1.1m, 短軸 0.95m, 深さ 0.2m (第 76 図・第 9 表)。

時期 出土遺物はないが、覆土が縄文時代に堆積した土と酷似していることから、縄文時代の土坑とみられる。

#### 【ピット群 (Pit1 ～ Pit14)】

検出位置 調査区中央から西端にかけて 14 基検出されている (第 68 図)。掘立柱建物跡を構成する可能性を検討してみたが、いずれも並ばないことから、ピット群として一括して扱う。

規模 長軸 0.24 ～ 0.55m, 短軸 0.2 ～ 0.46m, 深さ 0.1 ～ 0.45m (第 76 図・第 9 表)。

時期 出土遺物はないが、こうしたピット群は中世以降に多く見られることから、中世以降のピット群とみられる。

(川口)

#### (3) 出土遺物

第 77 図-1 ～ 11 は本発掘調査の出土遺物である。

1 は縄文土器の胴部片である。単節斜縄文 LR が縦位に施されている。中期であろうか。

2 は須恵器無台坏である。底部から体部の屈曲部には回転ヘラケズリによる二次底部面が認められる。8 世紀後葉頃とみられる。

3 ～ 6 は須恵器有台坏である。3・5 が大形、4・6 は小形である。3・5 が 8 世紀後葉頃、4 が 9 世紀前葉頃、6 が 8 世紀後葉～9 世紀前葉とみられる。

7 は須恵器長頸瓶である。8 世紀代の遺物とみられる。

8・9 は須恵器壺・瓶類の底部片である。9 は 8 世紀後葉頃とみられる。

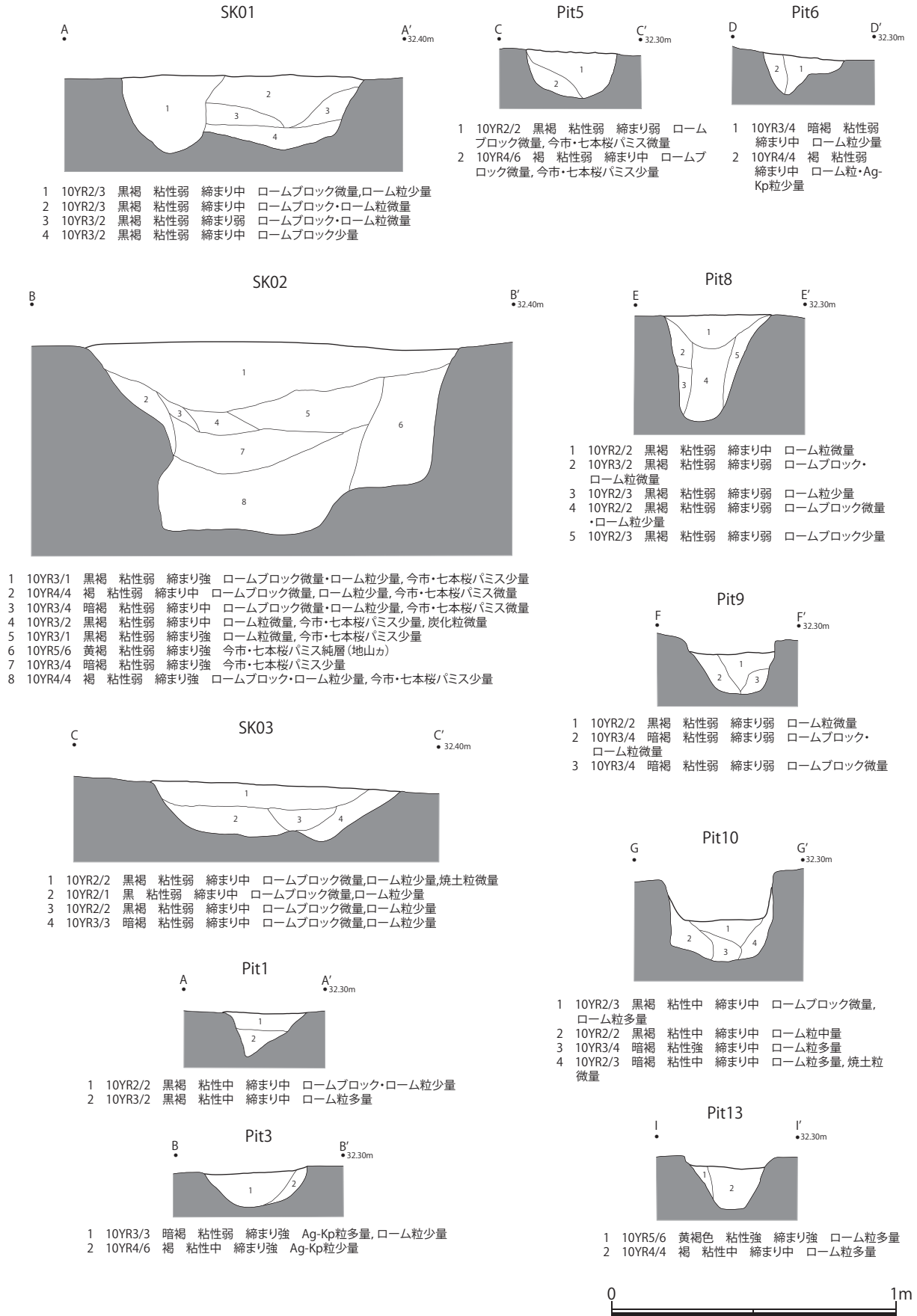
10 は須恵器甗である。内外面にはロクロ水挽き成形痕が残されている。11 は須恵器甗の頸部直下の胴部片である。外面には平行線文叩き痕がみられる。

(色川)

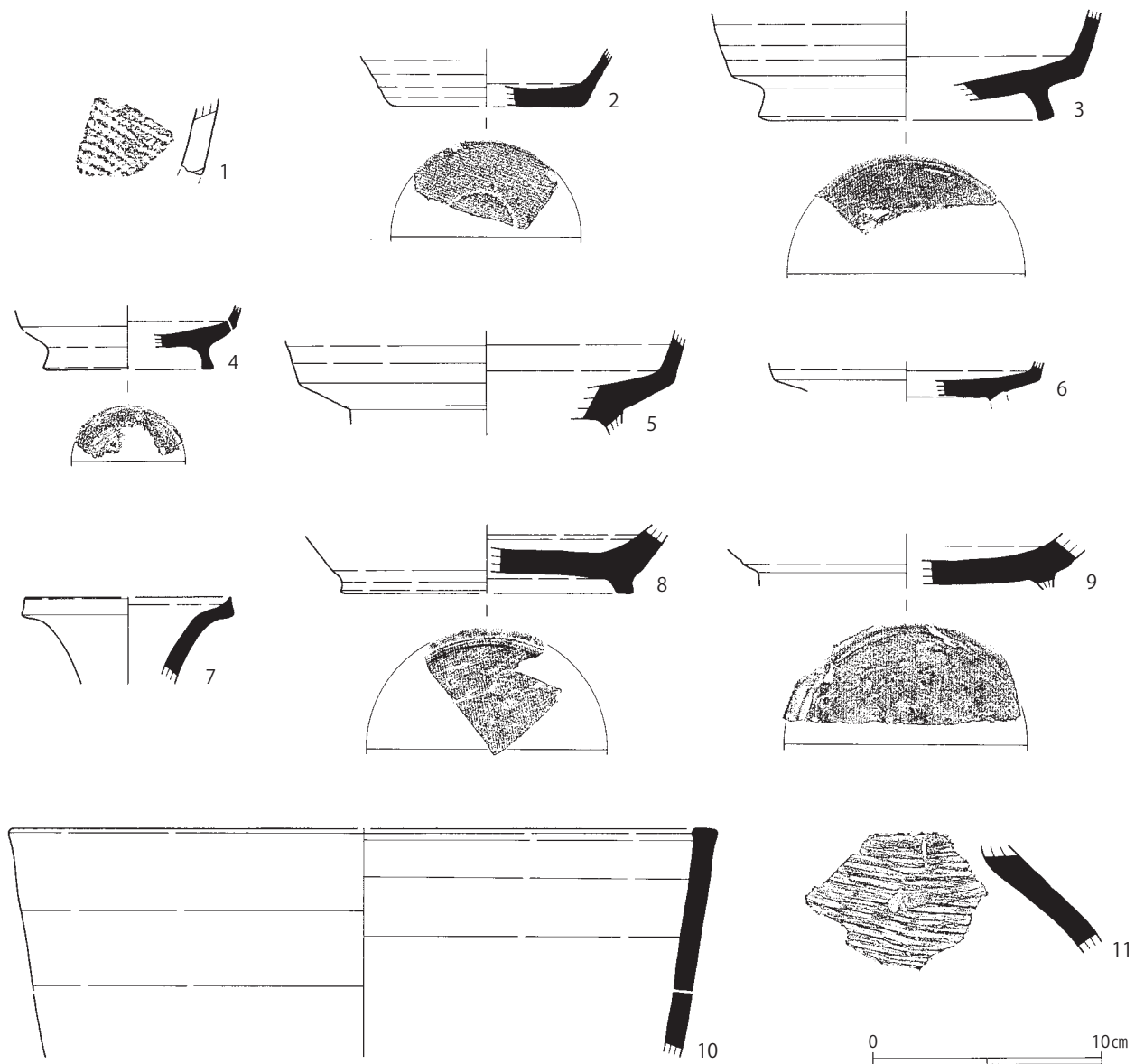
#### (4) 土地利用の変遷

本発掘調査で確認された遺物の中には縄文土器片が 1 点含まれており (第 77 図-1)、縄文時代からの土地利用が展開していたことが推定される。土坑 3 基のうち SK02 と SK03 は覆土の堆積状況から当該期の遺構と推定されるが、遺物が出土しておらず、性格については未詳である。これまで堀遺跡においては、10 地点において発掘調査が行われているものの、縄文時代の遺構は未だ確認されていない。今後も当該期の土地利用について検討していく必要がある。

奈良・平安時代の遺構の中で注目されるのは SB01 と SB02 の 2 棟の掘立柱建物跡である。



第76図 土坑・ピット群セクション



第77図 堀遺跡（第6地点）出土遺物

SB01は廂および孫廂を持つとみられる側柱式の掘立柱建物跡である。SB02は2×2間の総柱式の掘立柱建物跡である。SB01の孫廂の柱列とSB02の北側の柱列は重複してしまうことから（第68図）、両建物の造営時期には差があると考えられる。

SB01の柱穴のうちP8とP9には8世紀後葉頃に位置づけられる須恵器の無台坏と有台坏の破片が含まれていた。SB02のP4からも8世紀後葉に位置づけられる須恵器の有台坏片が出土しているが、SB02のP4からはこの他に凶化が困難な内面黒色処理土師器の小片が含まれていた。内面黒色処理土師器は当該地域では9世紀第1四半期以降に増加する遺物であり（佐々木 1998b・1999）、SB02は9世紀第1四半期以降に造営されたとみられる。これらの遺物については、土層堆積状況を確認するために半裁した際に出土したものであり、柱掘り方埋土中からの出土遺物なのか、柱痕跡中からの出土遺物なのかを区別せずに取り上げてしまったものである。従って、厳密に言えば、構築時期や廃絶時期を示す遺物としては扱えないものである。

現状では推測の域を出ないが、柱穴内の出土遺物から内面黒色処理土師器が出土していないSB01については、8世紀後葉頃に構築され、9世紀第1四半期までには廃絶していた。そして、9世紀第2四半期にはSB02が構築されたと理解しておく。



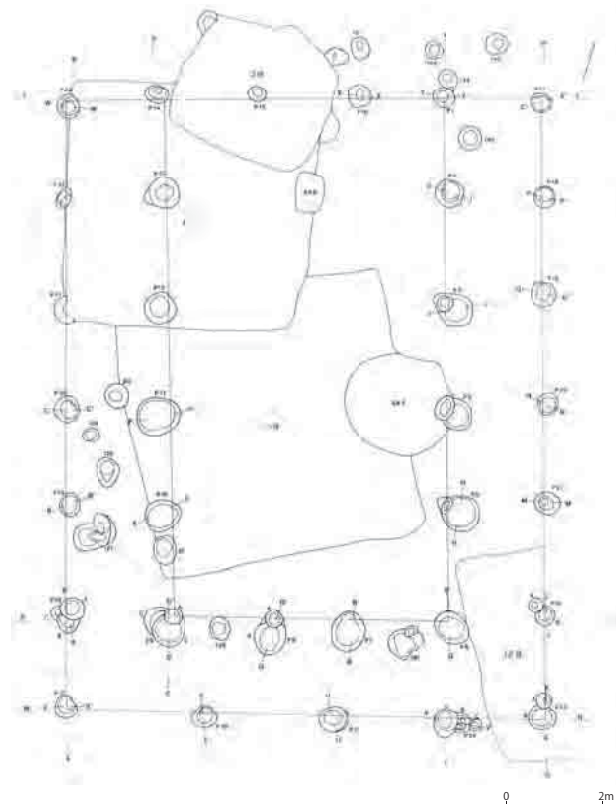
第 10 表 堀遺跡（第 6 地点）出土遺物観察表

図版	番号	出土位置	種別・器形細別	法量 (cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	備考
				口径	底径	器高						
77	1	遺構確認面	縄文土器	—	—	—	単節斜縄文LRを縦位に施文	—	長石・石英	普通	2.5Y6/4 (にぶい黄) ~ 2.5Y3/1 (黒褐)・2.5Y5/3 (黄褐)	縄文時代中期か
	2	SB01・P9	須恵器・無台坏	—	(8.4)	[2.5]	ロクロ水挽き成形	1/8	長石・石英・海綿状骨針	良好	5Y5/1 (灰)	8世紀後葉
	3	SB01・P8	須恵器・有台坏	—	(12.9)	[4.7]	ロクロ水挽き成形	1/6	長石・石英・チャート礫・海綿状骨針	良好	5Y5/1 (灰)	8世紀後葉
	4	遺構確認面	須恵器・有台坏	—	(9.3)	[2.8]	ロクロ水挽き成形	1/6	長石・石英・黒色粒	良好	5Y5/1 (灰)	9世紀前葉
	5	遺構確認面	須恵器・有台坏	—	—	[4.6]	ロクロ水挽き成形	1/12	長石・石英・黒色粒	良好	7.5Y4/1 (灰)	8世紀後葉
	6	SB02・P4	須恵器・有台坏	—	—	[1.7]	ロクロ水挽き成形	1/8	長石・石英・海綿状骨針・黒色粒	良好	5Y6/1 (灰)	8世紀後葉~9世紀前葉
	7	遺構確認面	須恵器・長頸瓶	(9.2)	—	[3.8]	ロクロ水挽き成形	1/6	長石・石英・黒色粒	良好	2.5Y5/2 (暗灰黄)	8世紀
	8	遺構確認面	須恵器・壺・瓶類	—	(14.0)	[3.2]	ロクロ水挽き成形	1/6	長石・石英・黒色粒	良好	5Y5/1 (灰)	
	9	廃土	須恵器・壺・瓶類	—	—	[1.7]	ロクロ水挽き成形	1/4	長石・石英・海綿状骨針	良好	N6/ (灰)	8世紀後葉
	10	遺構確認面	須恵器・甕	(31.0)	—	[10.0]	ロクロ水挽き成形	1/12	長石・石英・チャート礫・海綿状骨針	良好	2.5Y6/2 (灰黄)	
	11	遺構確認面	須恵器・甕	—	—	—	外面斜位平行線文叩き、内面ナデ	—	長石・石英	良好	7.5Y5/1 (灰)	

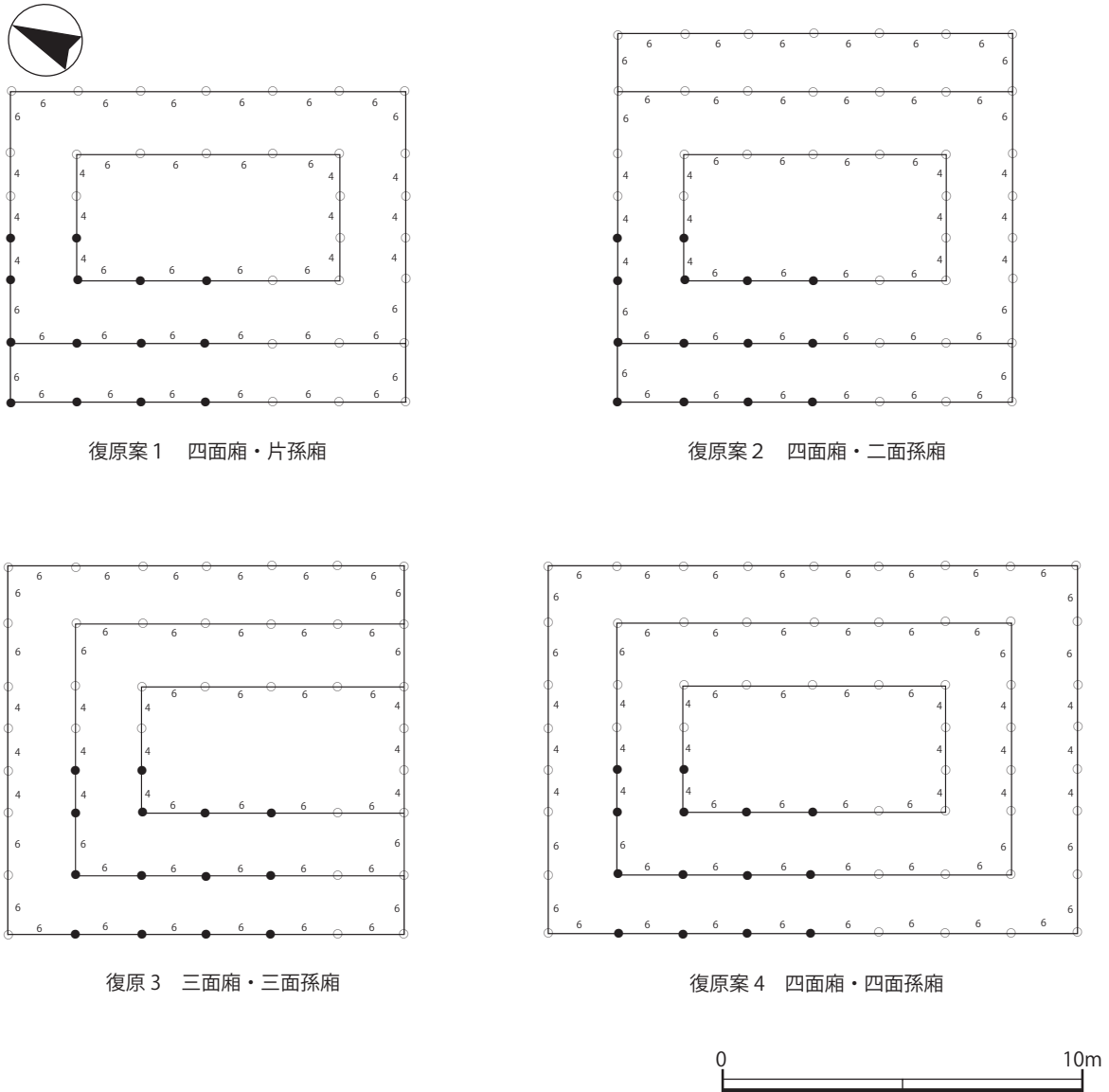
SB02 については、堀遺跡の東側に造営されている古代常陸国那賀郡の郡衙周辺寺院である台渡里廃寺跡観音堂山地区の東側において、規模はやや小さいものの同様の2×2間の総柱式の掘立柱建物が検出されている（蓼沼・川口・池田・瓦吹・黒澤・渥美 2004）。その主軸は郡衙周辺寺院の区画溝と一致していることから、古代の掘立柱建物であった可能性が高い。これらの建物には総柱構造が採用されていることから仏堂や社のような宗教施設的性格は考えにくい。物品を収納しておく倉庫的な性格が考えられようか。

次に SB01 の全容について復原案を提示しておきたい。先にも述べたように SB01 は、検出された柱穴の配置から身舎が桁行3間以上、梁行2間以上あるとみられ、二面以上の廂と孫廂を持つとみられるが、茨城県内の掘立柱建物跡の集成によると、孫廂を伴う側柱式の掘立柱建物はこれまでのところ1棟も確認されていないようである（佐々木 1998）。

二面以上の廂を伴う掘立柱建物については、1×1間の四面廂（日立市泉前遺跡2次調査第4号



第 78 図 ひたちなか市武田原前遺跡第 2 号掘立柱建物跡



第 79 図 掘立柱建物 SB01 の復原案

掘立柱建物跡，3×2 間の二面廂（鹿嶋市厨台遺跡群 BR3 遺跡 SB181），3×2 間の四面廂（鹿嶋市厨台遺跡群 BR3 遺跡 SB185），4×3 間の四面廂（武田原前遺跡第 2 号掘立柱建物跡），5×2 間の三面廂（鹿嶋市厨台遺跡群 BR3 遺跡 SB183），6×3 間の四面廂（鹿嶋市神野向遺跡 SB730）等が例として挙げられている（佐々木前掲）。SB01 は角に近い部分が一部確認されたに過ぎないことから，桁行方向も梁行方向も柱間の詳細は不明であるが，1×1 間や 3×2 間のような小規模な建物である可能性は低い。類例に挙げたひたちなか市武田原前遺跡第 2 号掘立柱建物跡(第 78 図)と同等もしくはそれ以上の規模を持っていたと推察される。

仮説の域を出ないが，武田原前遺跡の例を参考に身舎を桁行 4 間，梁行 3 間で復原してみた（第 79 図）。桁行および梁行の柱間については今後の調査次第で大幅な修正があることを予めお断りしておく。ひたちなか市武田原前遺跡第 2 号掘立柱建物跡は身舎の面積が 62.7 m<sup>2</sup>，総面積が 128.7 m<sup>2</sup>である。堀遺跡第 6 地点 SB01 は，4×3 間で復原すると身舎の平面積は 25.92 m<sup>2</sup>となる。

復原案 1 は四面に廂が巡るが，孫廂は西側にのみ付くという復原案である。この場合の総面積は 97.2 m<sup>2</sup>となる。復原案 2 は四面に廂は巡るが，孫廂は東西の両側に孫廂が付くという復原案である。この場合の総面積は 116.64 m<sup>2</sup>となる。復原案 3 は東西と北の 3 面に廂と孫廂が付くという復原案である。この場合も総面積は 116.64 m<sup>2</sup>となる。

そして、復原案4は四面に廂と孫廂が巡るという復原案である。この場合の総面積は159.84㎡となる。

いずれの案が正鵠を得ているのかあるいはまったく別の考え方が出来るのかについては、隣接地点の調査に期待する他はないのが現状である。ただし、廂と孫廂を持つ点からは集落にある通常の建物ではなく、格式の高い建物であったことは指摘できるだろう。

中世以降の土地利用については、14基のピット群があるが、出土遺物がないこと、掘立柱建物としても柱穴が並ばないことから、性格については不明と言わざるを得ない。今後の周辺調査の進展に期待し、収束としたい。

(川口)

## 引用・参考文献

- 井上義安・蓼沼香未由・仁平妙子・根本睦子 1999 『水戸市埋蔵文化財分布調査報告書 平成10年度版』水戸市教育委員会
- 井上義安・千葉隆司 1995 『水戸市台渡里廃寺跡 都市計画道路3・6・30号線埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市台渡里廃寺跡発掘調査会
- 茨城県教育委員会 2001 『茨城県遺跡地図』
- 小川和博・大淵淳志・川口武彦・松谷暁子 2006 『台渡里遺跡—集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』水戸市教育委員会
- 小川和博・大淵淳志・関口慶久 2007 『米沢町遺跡(第5地点)—住宅展示場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』水戸市教育委員会
- 小川和博・大淵淳志・川口武彦・木本挙周・渥美賢吾・関口慶久・株式会社京都科学 2008 『大串遺跡(第7地点)—介護老人保健施設建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』水戸市教育委員会
- 小川和博・大淵淳志・川口武彦・木本挙周・渥美賢吾 2008 『堀遺跡(第9地点)—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』水戸市教育委員会
- 佐々木義則 1998a 「茨城県における掘立柱建物跡の概観」『常総台地14—川崎純徳先生還暦記念号—』常総台地研究会
- 1998b 「常陸におけるロクロ成形土師器坏の展開—古代久慈・那賀・信田の三郡を中心として—」『婆良岐考古』第20号 婆良岐考古同人会
- 1999 「茨城県北部における土師器椀の形式変遷」『婆良岐考古』第21号 婆良岐考古同人会
- 2001 「茨城県における8・9世紀の須恵器甕概観」『婆良岐考古』第23号 婆良岐考古同人会
- 鈴木素行 2005 「君ヶ台貝塚の土錘と石錘」『ひたちなか埋文だより』第22号 ひたちなか市埋蔵文化財調査センター
- 2007 「向野E遺跡における縄文時代中期後葉の集落跡について—君ヶ台貝塚の再検討を添えて—」『向野遺跡群』(財)ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告第36集 財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社
- 鈴木素行・中村哲也・小松崎恵子・色川順子 2005 「茨城県における縄文時代中期後葉の屋内炉」『日本考古学協会2005年度福島大会シンポジウム資料集』日本考古学協会2005年度福島大会実行委員会
- 鈴木素行・白石真理・佐々木義則・小松崎恵子・色川順子・窪田恵一・長沼正樹・吉川純子・パリノサーヴェイ株式会社 2006 『武田原前遺跡 旧石器～平安時代(第2分冊)』ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告第35集 財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社
- 蓼沼香未由・川口武彦・池田敏宏・瓦吹 堅・黒澤彰哉・渥美賢吾 2004 『台渡里廃寺跡—集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』水戸市教育委員会

- 細谷弘一・佐藤次男・川井正一・根本康弘・市毛美津子 1994 『内原町の遺跡—内原町遺跡分布調査報告書—』  
内原町史編さん委員会
- 松田光太郎 2004 「縄文時代前期の小形石棒に関する一考察」『古代』第116号 早稲田大学考古学会
- 三輪孝幸・新垣清貴・川口武彦・関口慶久 2007 『坏遺跡（第4地点）—プランタンコリーヌⅡ建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書—』水戸市教育委員会
- 目黒吉明 1995 「住居の炉」『縄文文化の研究』8 雄山閣出版株式会社
- 山中敏史 2003a 「Ⅵ-1 外周柱穴列の諸類型」『古代の官衙遺跡Ⅰ 遺構編』独立行政法人文化財研究所 奈良  
文化財研究所
- 2003b 「Ⅵ-2 廂・縁・軒支柱」『古代の官衙遺跡Ⅰ 遺構編』独立行政法人文化財研究所 奈良文  
化財研究所
- 2007 『古代官衙の造営技術に関する考古学的研究 平成15年度～平成18年度科学研究費補助金  
（基盤研究（B））研究成果報告書』独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所

# 報告書抄録

ふりがな	へいせいじゅうはちねんどみとしないいせきはくつちようさほうこくしょ							
書名	平成18年度水戸市内遺跡発掘調査報告書							
シリーズ名	水戸市埋蔵文化財調査報告 第22集							
編集者名	川口武彦・色川順子							
著者名	川口武彦・色川順子・関口慶久・新垣清貴							
編集・発行機関	水戸市教育委員会	所在地	〒310-8610 茨城県水戸市中央1-4-1 ☎029-224-1111 (代)					
発行年月日	2009 (平成21) 年3月26日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯 。' "	東経 。' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
米沢町遺跡 (第5地点)	千波町字中道南1501-3, 1501-4番地	08201	058	36° 21' 16"	140° 28' 05"	2006.04.20～04.21	17.2	住宅展示場建築
米沢町遺跡 (第6地点)	千波町字中道南1502-12 番地	08201	058	36° 21' 14"	140° 28' 05"	試掘 2006.04.19 本調査 2006.05.31～06.01	試掘12.0 本調査22.5	個人住宅建築
米沢町遺跡 (第7地点)	千波町字中道南1502-23 番地	08201	058	36° 21' 14"	140° 28' 05"	2006.06.22	76.0	個人住宅建築
釜神町遺跡 (第2地点)	天王町1727-3外	08201	020	36° 22' 26"	140° 27' 42"	2006.05.17・05.22 ～05.23	72.0	宅地造成工事
堀遺跡 (第6地点)	堀町字馬場東381-1, 382-3番地	08201	064	36° 24' 32"	140° 25' 11"	試掘 2006.12.04 本調査2007.03.12 ～03.20	試掘20.0 本調査99.4	個人住宅建築
堀遺跡 (第9地点)	渡里町字高野台3314番 地外	08201	064	36° 24' 31"	140° 25' 33"	2007.02.26～02.27	238.0	宅地造成工事
堀遺跡 (第10地点)	渡里町字高野台3217-1, 3217-6	08201	064	36° 24' 34"	140° 25' 34"	2007.03.26	35.0	介護老人保健福祉施設建築
有賀台遺跡 (第1地点)	有賀町1494-1番地	08305	027	36° 23' 26"	140° 21' 13"	1次 2006.06.29 2次 2006.08.28～ 08.29	100.0	携帯電話通信基地局建築
下ノ内遺跡 (第1地点)	谷田町576番地	08201	237	36° 21' 16"	140° 30' 26"	2006.07.27	4.0	個人住宅建築
西原古墳群 (第11地点)	堀町282番地	08201	080	36° 24' 34"	140° 25' 13"	2006.08.23	13.6	個人住宅建築
河和田城跡 (第3地点)	河和田町字中道546-2番 地	08201	102	36° 21' 56"	140° 24' 59"	2006.10.04・10.10	56.1	事務所兼個人住宅建築
環遺跡 (第4地点)	河和田3丁目2412-5, 2413-1番地の一部	08201	015	36° 22' 24"	140° 24' 37"	1次 2006.06.13～ 06.14 2次 2006.07.12	184.0	共同住宅建築
環遺跡 (第6地点)	河和田3丁目2370-1番 地の一部	08201	015	36° 22' 22"	140° 24' 31"	2006.09.29	42.0	共同住宅建築
若林遺跡 (第1地点)	見和3丁目1391番地1	08201	016	36° 22' 16"	140° 25' 22"	2006.10.12～10.13	208.0	宅地造成工事
渡里町遺跡 (第3地点)	渡里町字小山ノ上2403-7 番地	08201	121	36° 24' 20"	140° 26' 33"	2006.11.09	6.48	個人住宅建築
北屋敷遺跡 (第2地点)	おおくしちょう新ざいしゆくち 大串町字宿内734-5番地	08201	248	36° 20' 04"	140° 32' 24"	2006.11.15	32.5	個人住宅建築
台渡里遺跡 (第31次調査)	渡里町字前原2618番地	08201	276	36° 24' 19"	140° 26' 11"	2006.11.29	12.6	個人住宅建築
台渡里遺跡 (第32次調査)	渡里町字狸久保2771-1番 地	08201	276	36° 24' 22"	140° 26' 01"	2007.01.31	30.4	宅地造成工事
金剛寺遺跡 (第7地点)	開江町637-1番地	08201	134	36° 24' 04"	140° 23' 51"	2006.12.05	12.0	倉庫建築
経塚遺跡 (第3地点)	河和田町字街道端1109- 6, 11-09-7, 1110-1番地	08201	274	36° 21' 57"	140° 24' 28"	2007.03.07	16.0	共同住宅建築
柵遺跡 (第2地点)	田島町字柵巷401-1番 地	08305	066	36° 23' 49"	140° 22' 16"	2007.03.08	4.1	個人住宅建築
釜久保遺跡 (第3地点)	おおくしちょう大塚町1612-17	08201	124	36° 23' 10"	140° 23' 51"	2006.10.18	5.0	個人住宅建築



軍民坂遺跡 (第2地点)	上国井町字南台 3602-3 番地	08201	046	36° 26' 36"	140° 26' 25"	1次 2006.07.26～ 07.27 2次 2006.09.06～ 09.08	140.87	個人住宅建築
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
米沢町遺跡 (第5地点)	集落跡	奈良・平安・ 近世	竪穴状遺構		土師質土器			
米沢町遺跡 (第6地点)	集落跡	近世以降	溝跡1, 土坑1		土師器			
米沢町遺跡 (第7地点)	集落跡	奈良・平安	なし		土師器, 須恵器			
釜神町遺跡 (第2地点)	集落跡	近世	溝状遺構・ピット・土塁ほか		陶磁器・土器・ガラス製品	近世の武家屋敷に伴うとみられる遺構および水戸城惣構の土塁が確認された。		
堀遺跡 (第6地点)	集落跡	奈良・平安	掘立柱建物跡2, 土坑3, ピット14		土師器・須恵器	奈良・平安時代の2棟の掘立柱建物跡のうち, SB01は廂の外側に孫廂とみられる柱列を伴う格式の高い建物であったことが確認された。		
堀遺跡 (第9地点)	集落跡	奈良・平安	竪穴住居跡2, 溝跡1		土師器・須恵器・瓦			
堀遺跡 (第10地点)	集落跡	奈良・平安	竪穴住居跡2, 遺物包含層1		土師器・須恵器			
有賀台遺跡 (第1地点)	集落跡	奈良・平安	道路状遺構1		土師器・須恵器	東海道駅路から分岐するとみられる道路が確認された。		
下ノ内遺跡 (第1地点)	集落跡	近世	なし		磁器			
西原古墳群 (第11地点)	集落	奈良	遺物包含層		土師器・須恵器			
河和田城跡 (第3地点)	城館跡	中世	地下式坑?2, ピット7, 土坑4, 不明遺構1		なし			
環遺跡 (第4地点)	集落跡	縄文・古墳	土坑多数・竪穴住居跡1		縄文土器			
環遺跡 (第6地点)	集落跡	縄文	なし		縄文土器			
若林遺跡 (第1地点)	集落跡	縄文	土坑多数・集石		縄文土器・石器			
渡里町遺跡 (第3地点)	集落跡	縄文・平安	竪穴状遺構1		土師器・鉄滓	竪穴状遺構からは、「太方」とヘラ書きされた10世紀第4四半期の土師器足高台碗等が出土した。また、鉄滓も出土していることから製鉄に関連する遺構の可能性がある。		
北屋敷遺跡 (第2地点)	集落跡	古墳・奈良・ 平安・近世	なし		埴輪・土師器・須恵器・瓦質土器・磁器			
台波里遺跡 (第31次調査)	官衙跡/ 集落跡	縄文・奈良	溝状遺構1		縄文土器・須恵器			
台波里遺跡 (第32次調査)	官衙跡/ 集落跡	奈良・平安	溝状遺構1, 土坑2, 竪穴住居跡1		土師器			
金剛寺遺跡 (第7地点)	集落跡	中世	なし		土器・陶磁器			
経塚遺跡 (第3地点)	集落跡	中世・近世	なし		磁器			
終巻遺跡 (第2地点)	集落跡	弥生	竪穴住居跡1		弥生土器	弥生時代の竪穴住居跡が確認された。		
釜久保遺跡 (第3地点)	集落跡	縄文	なし		縄文土器			
軍民坂遺跡 (第2地点)	集落跡	縄文	竪穴住居跡4, 土坑1		縄文土器・石器	県内では例の少ない加曾利E3式期の土器埋設石組跡を伴う竪穴住居跡を1軒確認。また、出土例の少ない小形石棒も出土。		

※北緯・東経は世界測地系による。

## 水戸市埋蔵文化財調査報告

- |      |   |            |
|------|---|------------|
| 第1集  | 台渡里廃寺跡—範囲確認調査報告書—                                   | 2005年3月発行  |
| 第2集  | 台渡里廃寺跡<br>—市道常磐17号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(1)—          | 2005年4月発行  |
| 第3集  | 大鋸町遺跡<br>—グランディヒルズ元吉田造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—           | 2005年8月発行  |
| 第4集  | 台渡里廃寺跡<br>—市道常磐17号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)—          | 2006年3月発行  |
| 第5集  | 台渡里遺跡—集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—                        | 2005年3月発行  |
| 第6集  | 吉田古墳Ⅰ—史跡整備計画に伴う吉田古墳群第3次調査報告書—                       | 2006年3月発行  |
| 第7集  | 大鋸町遺跡(第3地点)<br>—市道浜田207号線側溝新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—     | 2006年3月発行  |
| 第8集  | 坏遺跡(第3地点)<br>—ヴィヴァンコート赤塚建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—        | 2007年3月発行  |
| 第9集  | 坏遺跡(第4地点)<br>—プランタンコリーヌⅡ建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—        | 2007年3月発行  |
| 第10集 | 吉田古墳Ⅱ<br>—史跡整備計画に伴う吉田古墳群第1号墳の第3次発掘調査報告書—            | 2007年3月発行  |
| 第11集 | 平成17年度水戸市内遺跡発掘調査報告書                                 | 2007年3月発行  |
| 第12集 | アラヤ遺跡(第2地点)<br>—市道常磐10号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—      | 2007年3月発行  |
| 第13集 | 米沢町遺跡(第5地点)<br>—住宅展示場建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—           | 2007年3月発行  |
| 第14集 | 大串遺跡(第7地点)<br>—介護老人保健施設建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—         | 2008年3月発行  |
| 第15集 | 台渡里遺跡(第39次調査)<br>—公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—           | 2008年3月発行  |
| 第16集 | 渡里町遺跡(第5地点)<br>—市道常磐31号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—      | 2008年6月発行  |
| 第17集 | 渡里町遺跡(第6地点)<br>—市道常磐34, 275号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書— |            |
| 第18集 | 渡里町遺跡(第6地点)<br>—市道常磐34, 275号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書— | 2008年6月発行  |
| 第19集 | 薄内遺跡—携帯電話通信基地局建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—                  | 2008年8月発行  |
| 第20集 | 堀遺跡(第9地点)—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—                    | 2008年9月発行  |
| 第21集 | 元石川大谷原遺跡—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—                     | 2008年12月発行 |
| 第22集 | 平成18年度水戸市内遺跡発掘調査報告書                                 | 2009年3月発行  |

水戸市埋蔵文化財調査報告 第22集

## 平成18年度水戸市内遺跡発掘調査報告書

印刷 平成21年3月26日

発行 平成21年3月26日

編集 水戸市教育委員会

発行 水戸市教育委員会

印刷 コトブキ印刷株式会社

水戸市千波町 2398-1

TEL 029-241-1000